

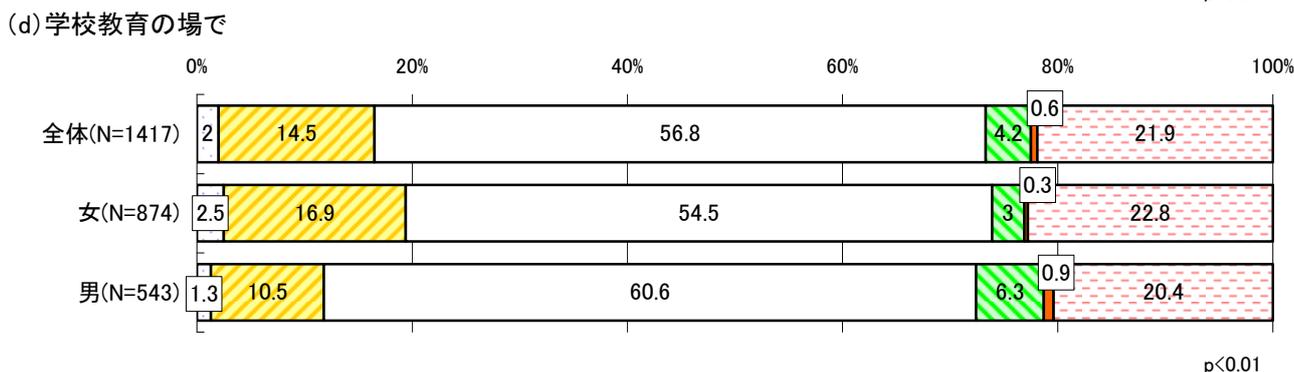
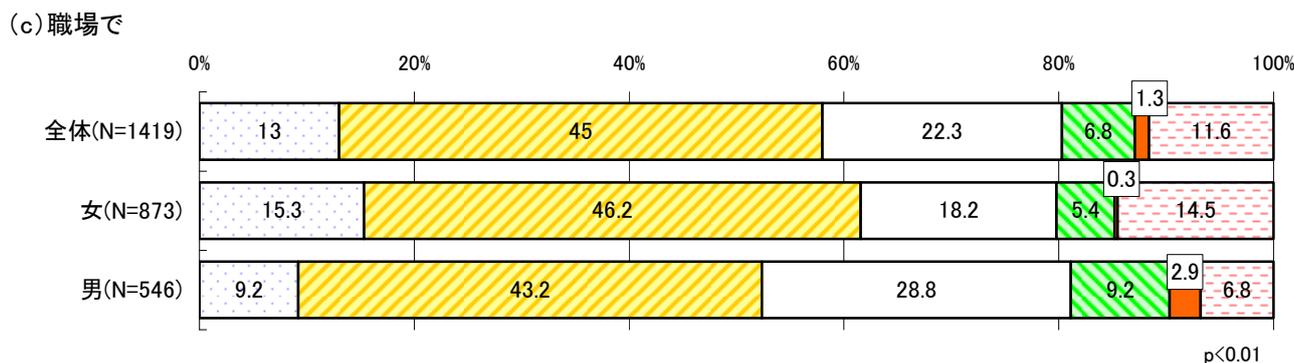
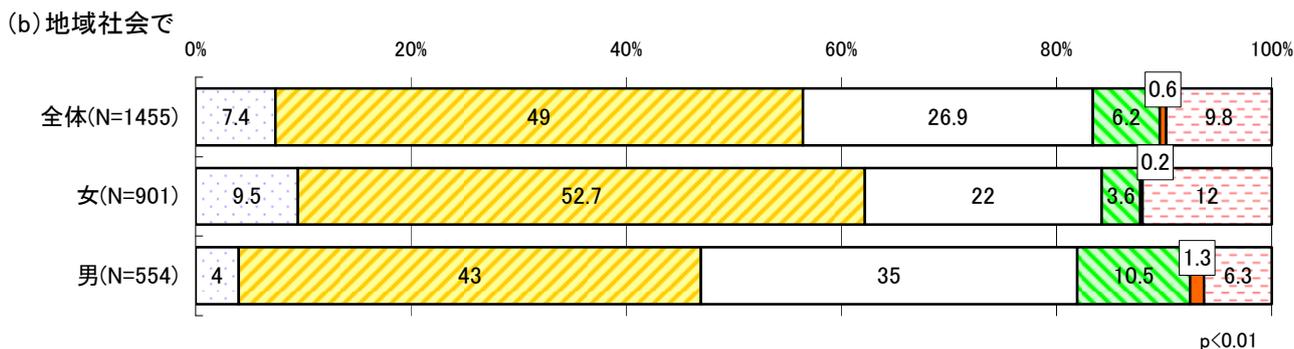
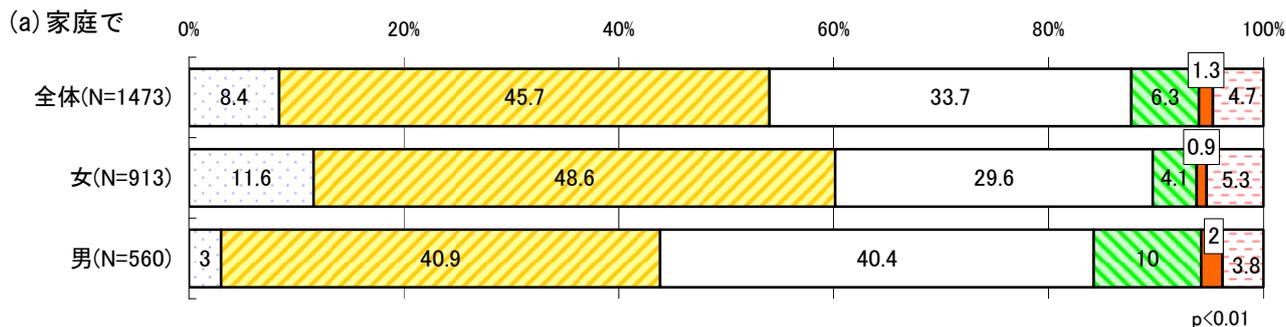
第2章 調査結果の概要

I 男女の地位の平等について

問1 あなたは、次にあげるような（a）から（f）の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

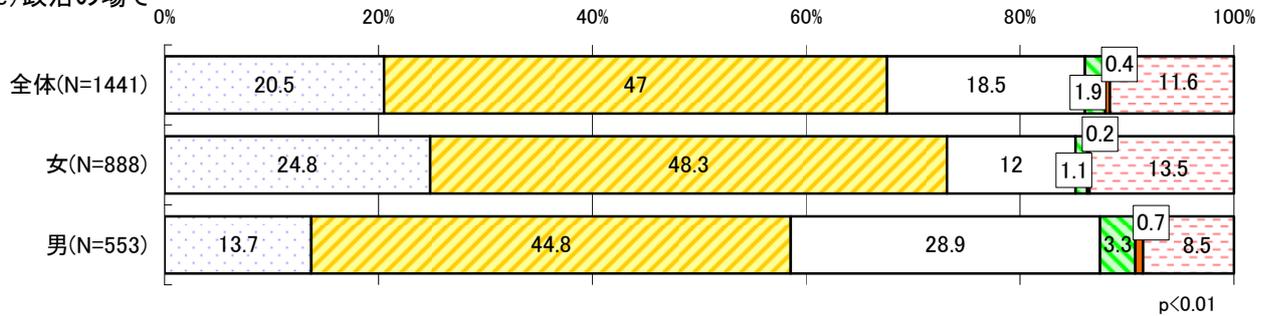
【全体・性別】

□男性優遇 ▨どちらかといえば男性優遇 □男女平等 ▩どちらかといえば女性優遇 ■女性優遇 □わからない

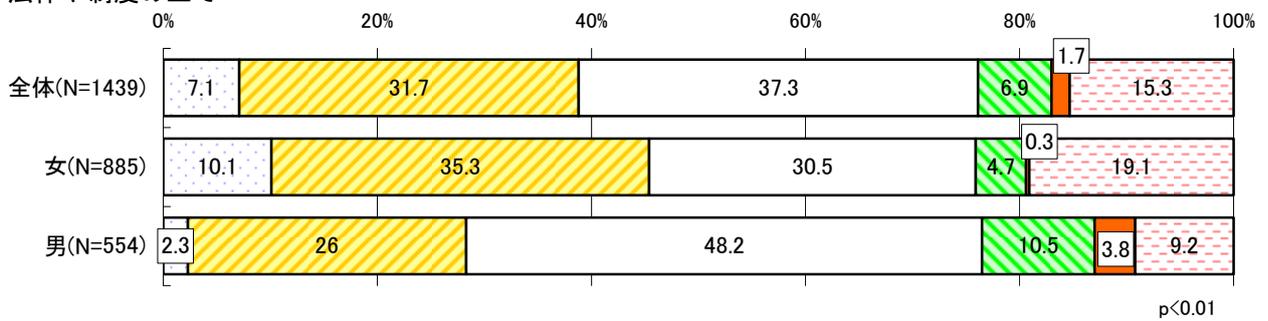




(e) 政治の場で



(f) 法律や制度の上で



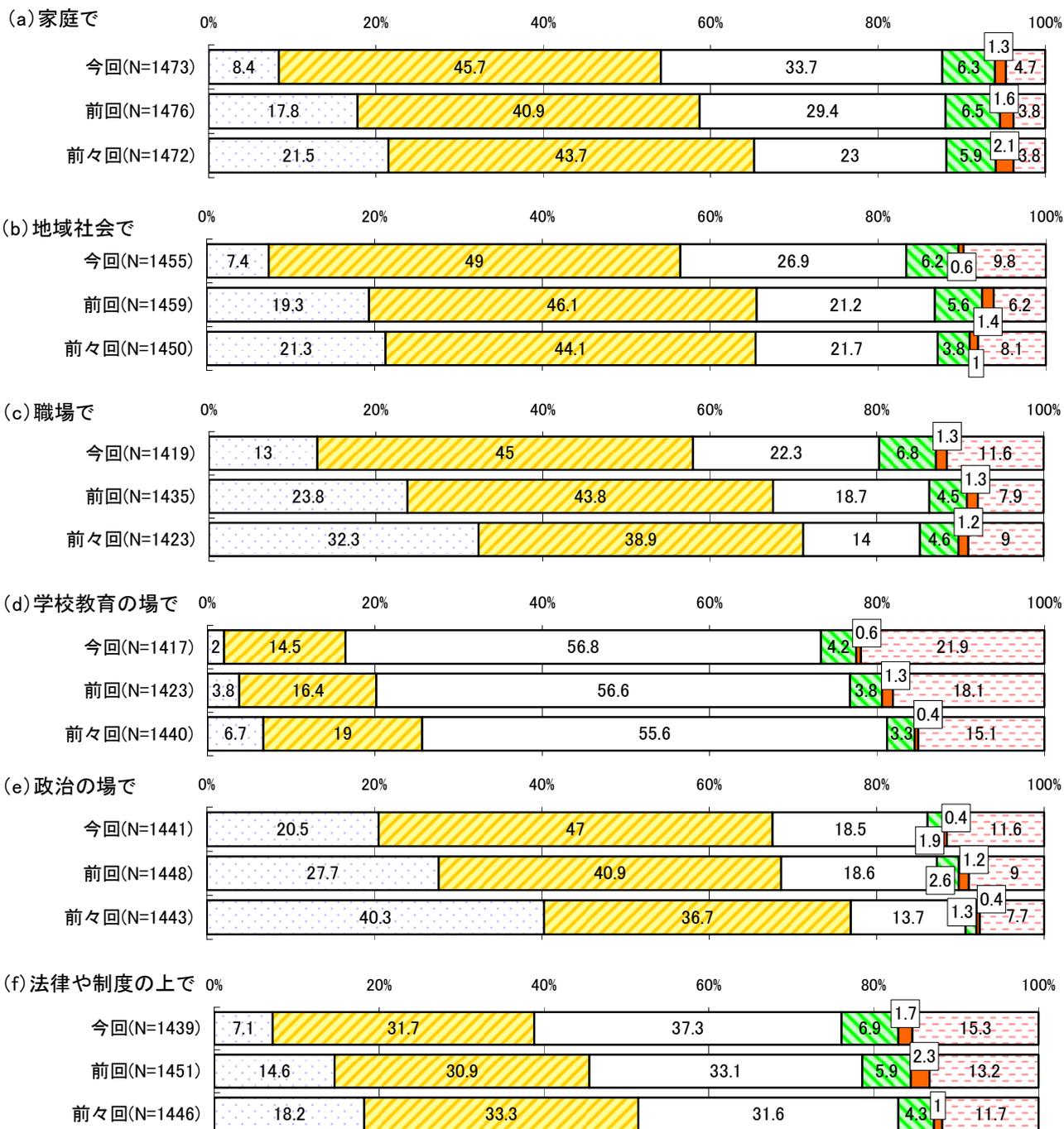
日常生活の各分野において、男女の地位が平等になっているかという問いに対して、「平等になっている」と考える『男女平等派』が5割を超えているのは、「(d)学校教育の場で」の1分野のみで56.8%となっている。

一方、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と考える『男性優遇派』の割合は、「(a)家庭で」、「(b)地域社会で」、「(c)職場で」、「(e)政治の場で」の4分野で高くなっている。

性別で見ると、すべての分野において、女性は男性に比べて『男性優遇派』が多くなっている。

【前回・前々回調査との比較】

□男性優遇 □どちらかといえば男性優遇 □男女平等 □どちらかといえば女性優遇 □女性優遇 □わからない



前々回調査（[平成 12 年岡山市調査]）、前回調査（[平成 17 年岡山市調査]）と比較すると、『男女平等派』の割合は、「(a)家庭で」は、23.0%→29.4%→33.7%、「(b)地域社会で」は、21.7%→21.2%→26.9%、「(c)職場で」は、14.0%→18.7%→22.3%、「(d)学校教育の場で」は、55.6%→56.6%→56.8%、「(e)政治の場で」は、13.7%→18.6%→18.5%、「(f)法律や制度の上で」は、31.6%→33.1%→37.3%と推移している。

以上のように『男女平等派』の割合は増加傾向にあるものの、「(a)家庭で」「(b)地域社会で」「(c)職場で」「(e)政治の場で」の分野においては、依然として『男性優遇派』の割合が高い。

II 結婚、家庭生活について

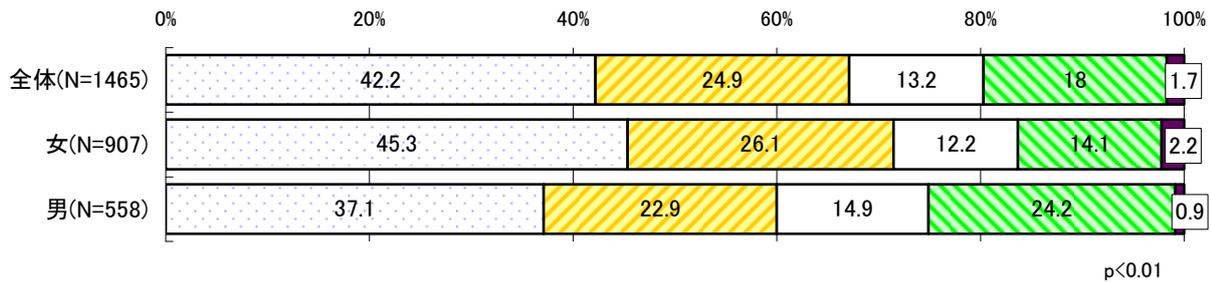
問2 結婚や家庭生活について、(a)から(h)のような考え方があります。これらの考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

1 結婚について

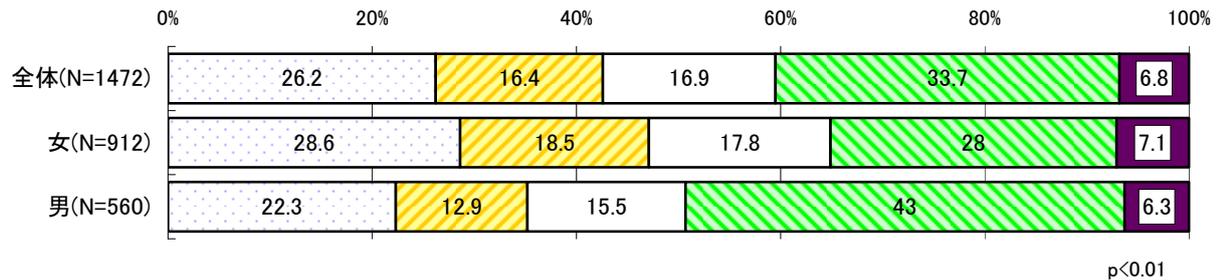
【全体・性別】

□ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ▨ そう思わない ■ わからない

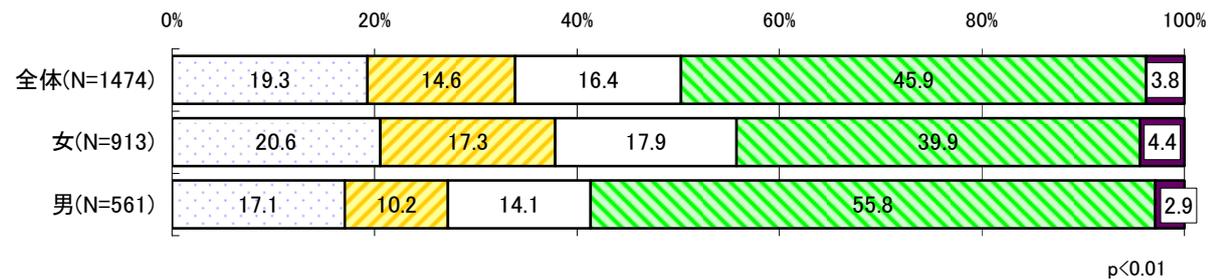
(a) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



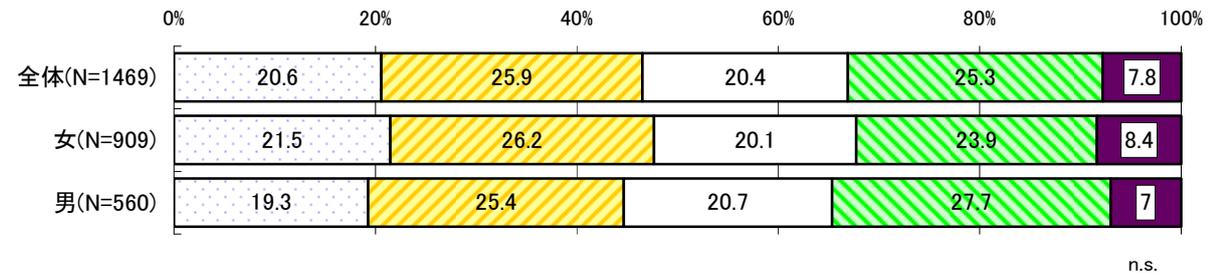
(b) 夫婦別姓の結婚が認められてもよい



(c) お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない



(d) 相手に満足できないときは離婚すればよい

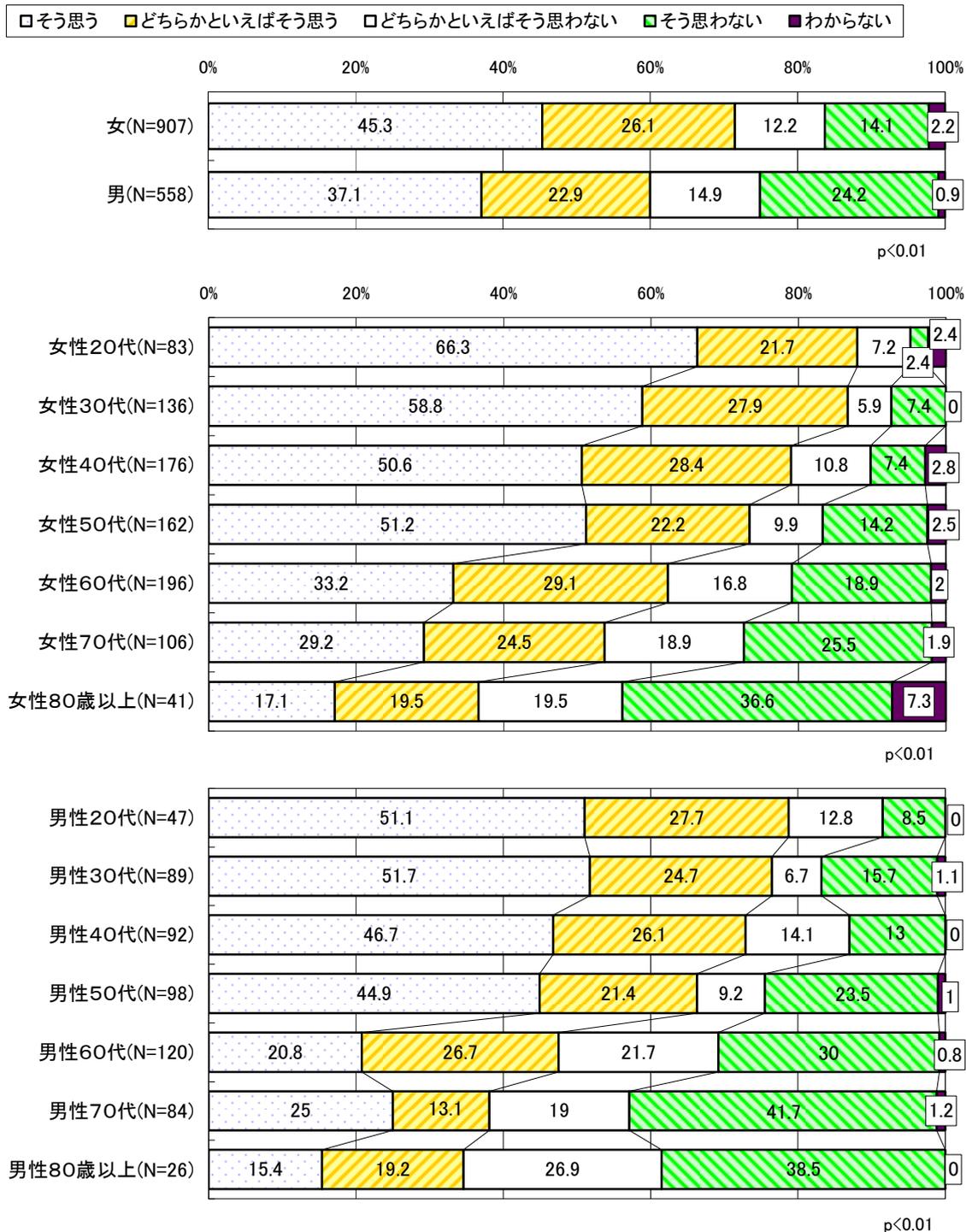


「(a)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」と思うかどうかについて尋ねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」（以下『肯定派』）が 67.1%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」（以下『否定派』）が 31.2%となった。「(b)夫婦別姓の結婚が認められてもよい」という考え方については、『肯定派』が 42.6%、『否定派』が 50.6%、「(c)お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない」については、『肯定派』が 33.9%、『否定派』が 62.3%となっており、「(d)結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」の考え方については、『肯定派』が 46.5%、『否定派』が 45.7%となった。

『肯定派』が『否定派』を上回るのは、「(a)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「(d)結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」の2項目であり、他方、『否定派』が『肯定派』を上回るのは、「(b)夫婦別姓の結婚が認められてもよい」、「(c)お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない」の2項目である。婚姻という制度的形式に対する支持は、依然として根強いといえる。

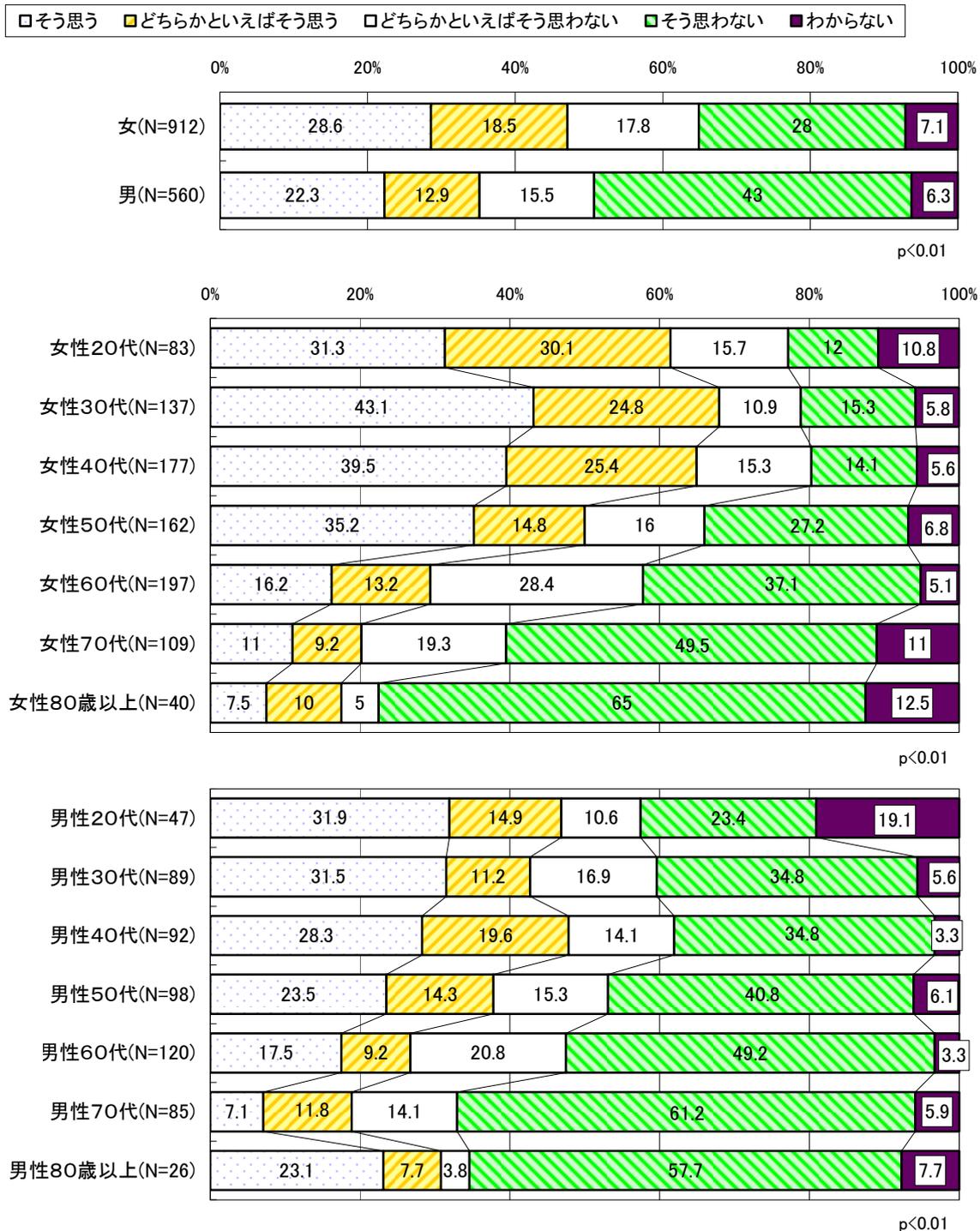
また、性別でみると、いずれの項目においても女性は男性に比べて『肯定派』の割合が高くなっているのが特徴的であり、「(a)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」については、男性の『肯定派』が6割であるのに対し、女性では『肯定派』が7割を超えている。

(a) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



性別・年代別にみると男女とも若い年代であるほど『肯定派』が多くなっている。とくに 20 歳代・30 歳代の女性においては、『肯定派』の割合が高く、8割を超えている。

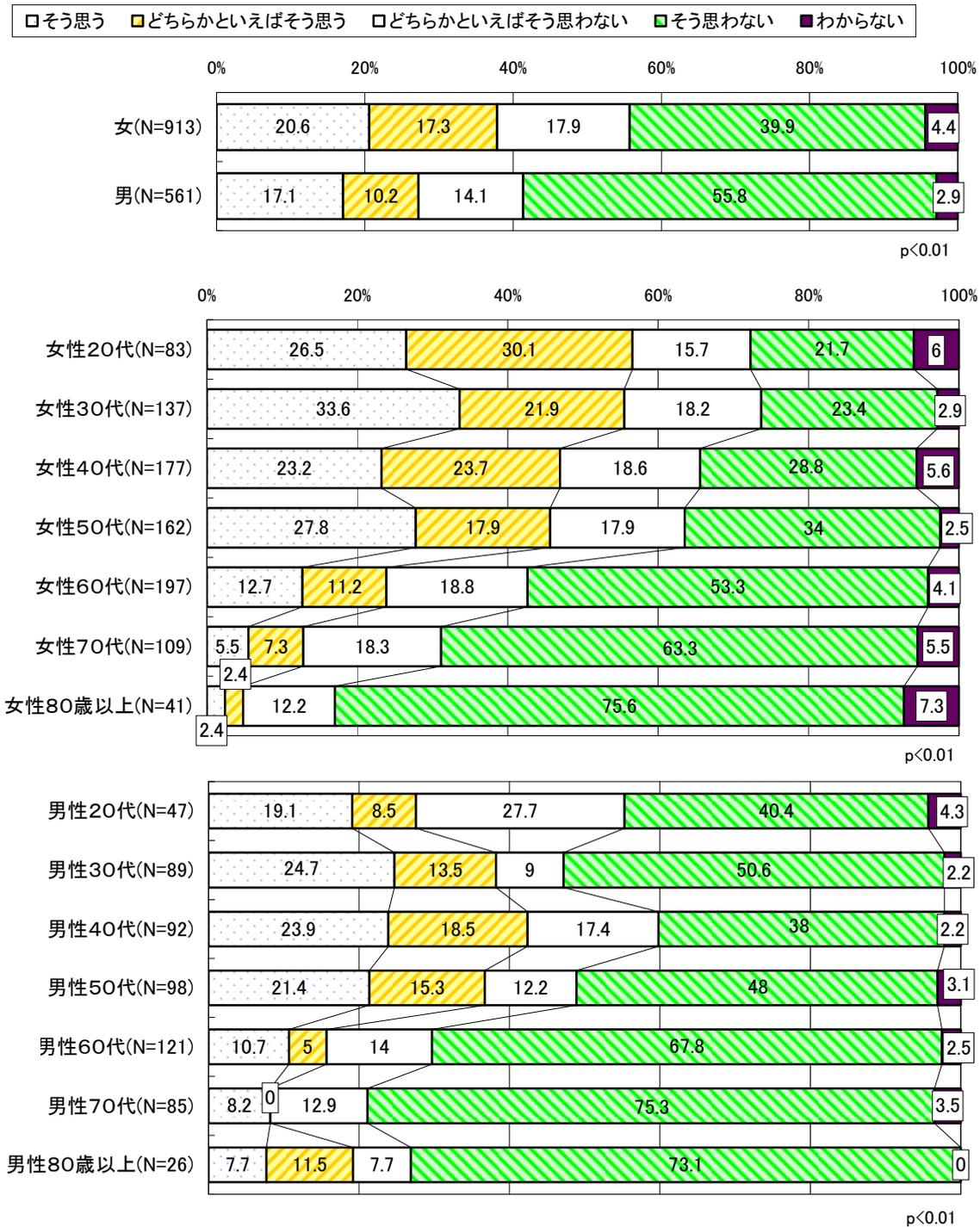
(b) 夫婦別姓の結婚が認められてもよい



性別・年代別でみると『肯定派』の割合が最も高いのは、女性では30歳代で67.9%、男性では40歳代で47.9%となっている。

また、80歳以上を除き、すべての年代で女性の『肯定派』が男性の『肯定派』を上回っており、男女間の意識の違いがうかがえる。

(c) お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない



性別・年代別にみると、30歳代以下の女性において『肯定派』が『否定派』を上回っているが、男性においては、すべての年代で『否定派』が『肯定派』を上回っている。とくに20歳の男女でみると、女性の『肯定派』が56.6%であるのに対し、男性では27.6%と低く、男女間の意識の違いが大きいことがわかる。

(d)相手に満足できないときは離婚すればよい



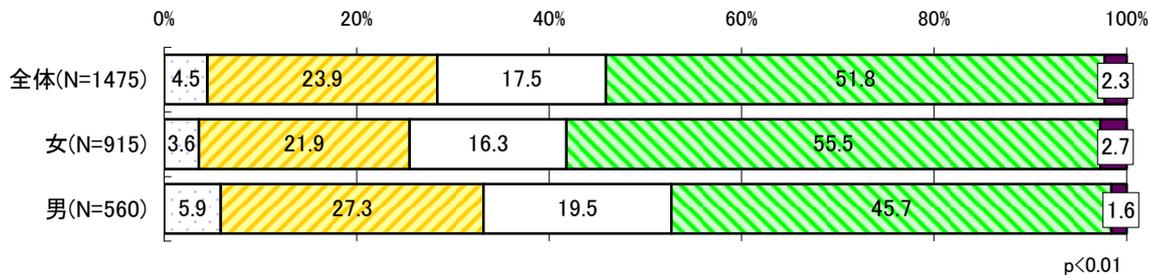
性別・年代別でみると、30歳代から60歳代までは、女性の『肯定派』が男性の『肯定派』を上回っているが、20歳代・70歳代以上においては、女性よりも男性の『肯定派』の方が高くなっている。

2 家庭生活について

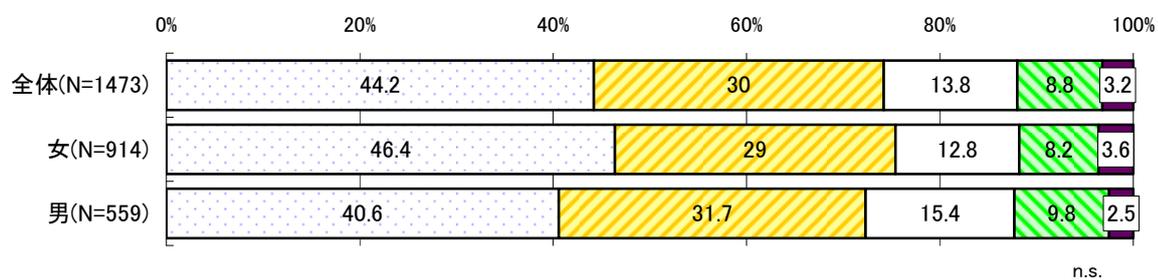
【全体・性別】

□ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ▨ そう思わない ■ わからない

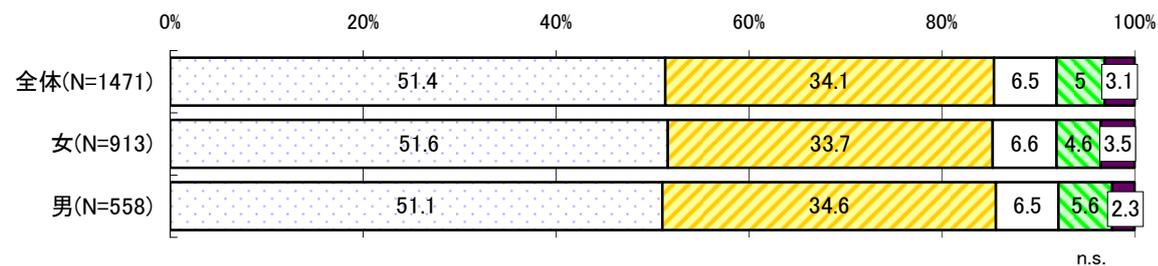
(e) 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ



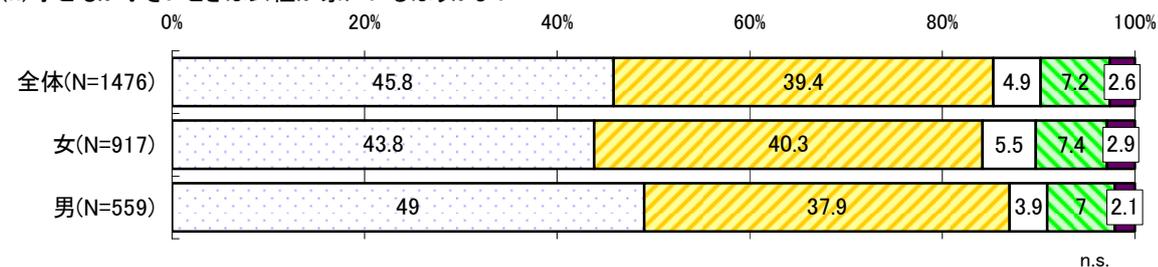
(f) 男性と女性の、どちらが外で働いても、どちらが家事・育児・介護をしてもよい



(g) 男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい



(h) 子どもが小さいときは女性が家にいるほうがよい

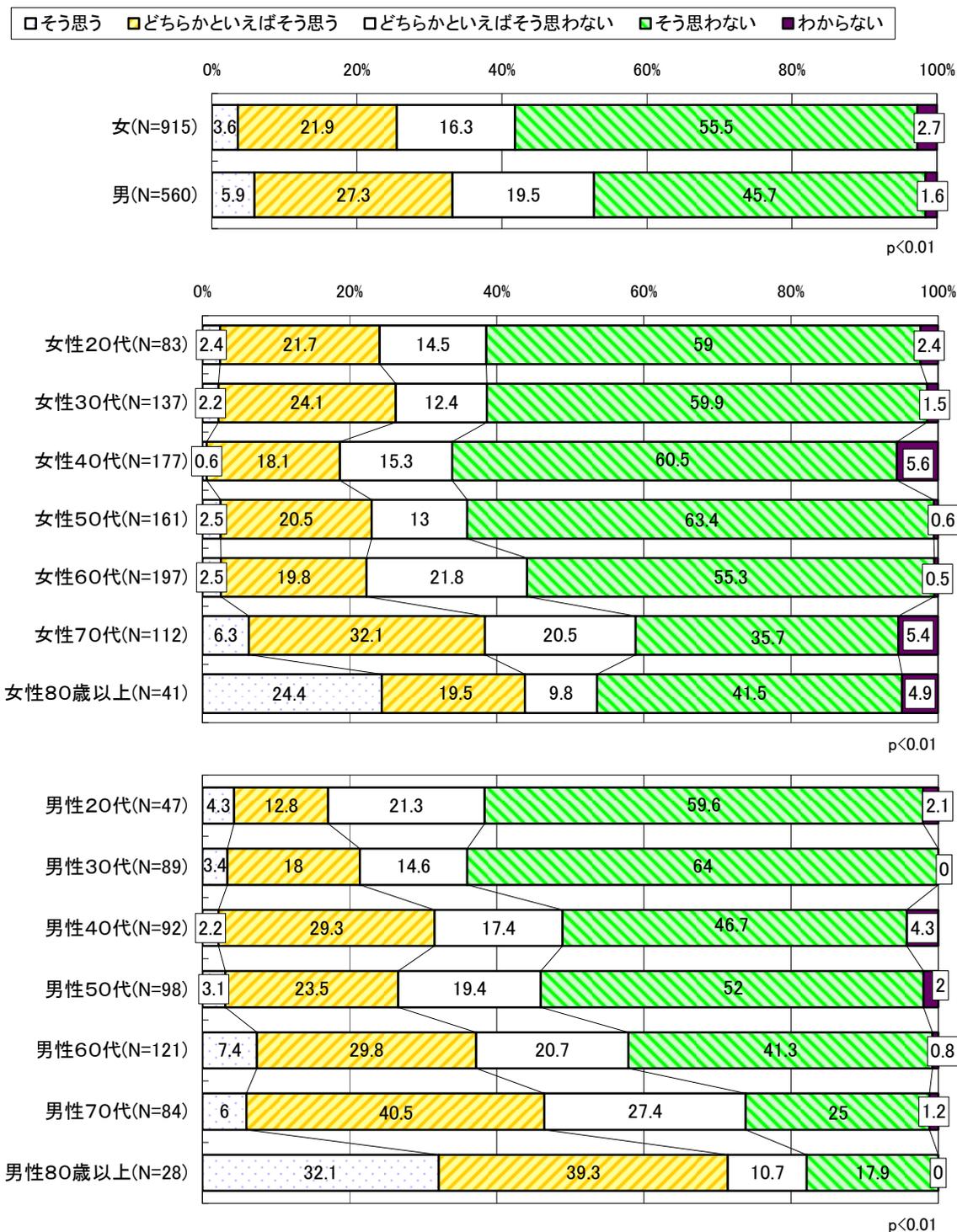


「(e)男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」という考え方についてどう思うか尋ねたところ『肯定派』が28.4%、『否定派』が69.3%となり、『否定派』が『肯定派』を上回った。

「(f)男性と女性の、どちらが外で働いても、どちらが家事・育児・介護をしてもよい」については、『肯定派』が74.2%、『否定派』が22.6%、「(g)男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」では、『肯定派』が85.5%、『否定派』が11.5%、「(h)子どもが小さいときは女性が家にいるほうがよい」では、肯定派85.2%、否定派12.1%と、いずれも『肯定派』が『否定派』を圧倒的に上回っている。

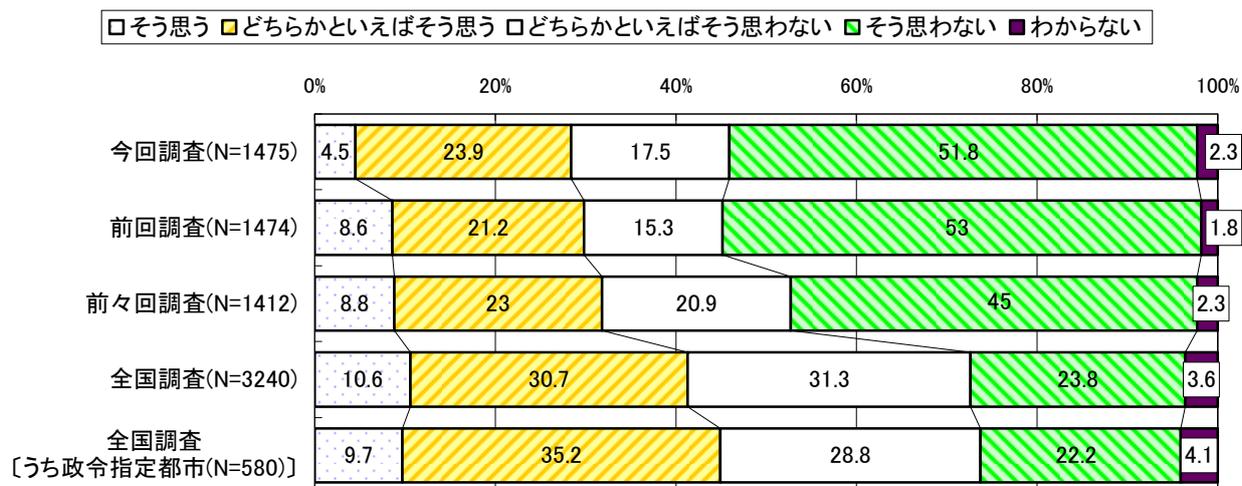
この結果において、「(f)男性と女性の、どちらが外で働いても、どちらが家事・育児・介護をしてもよい」、「(g)男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」については、男女共同参画の意識の高まりを示すものであるが、「(h)子どもが小さいときは女性が家にいるほうがよい」については、小さい子どもの世話は女性の役割であるという性別役割分担意識が、男女ともに根強くあることがうかがえる。

(e) 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ



女性では、60歳代以下すべての年代で『否定派』が7割を超え、70歳代以上においても『否定派』が5割を超えている。男性では、60歳代以下すべての年代で『否定派』が6割を超え、更に20歳代・30歳代においては、男性の『否定派』が、女性の『否定派』を上回っている。

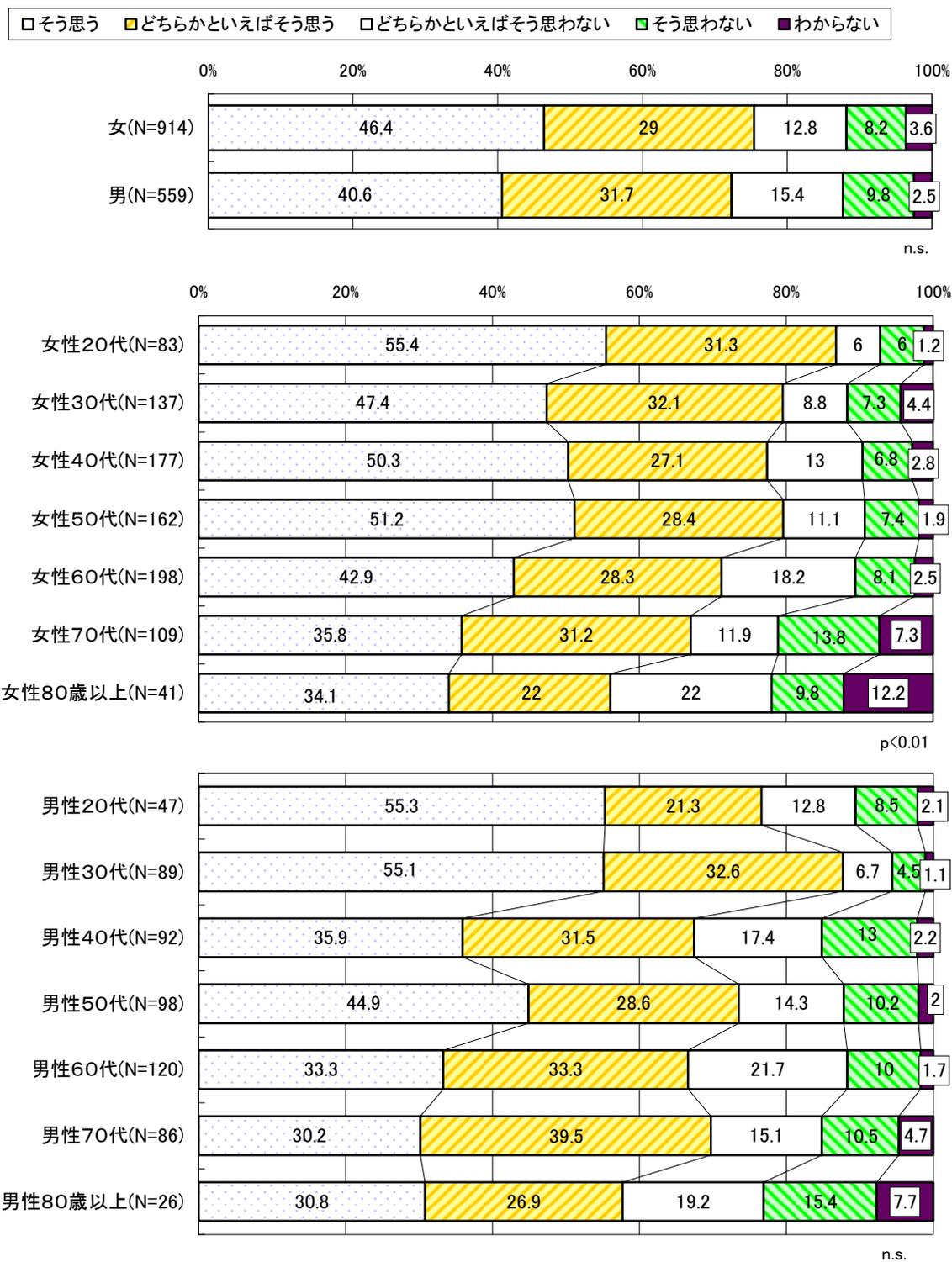
【前回・前々回・国との比較】



全体で見ると、前々回調査、前回調査と比較すると『否定派』は、65.9%→68.3%→69.3%となり、『肯定派』は、31.8%→29.8%→28.4%と推移している。

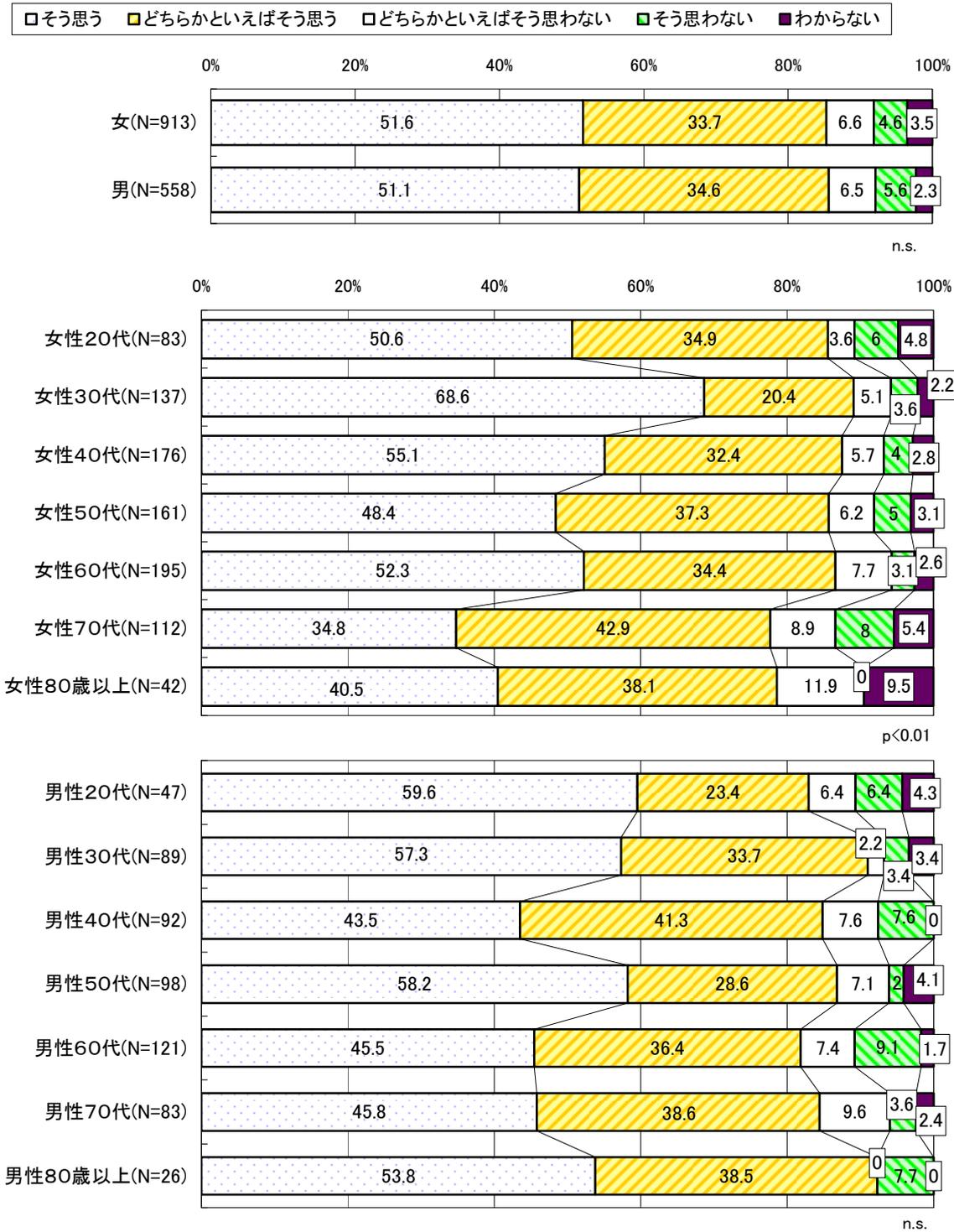
平成 21 年 10 月に国が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」において、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という調査項目では、『否定派』が 55.1%、政令指定都市に限った結果では、51.0%となっている。質問文の文言が少し異なるので、単純に比較はできないものの、本市の『否定派』の割合は、国や政令指定都市の『否定派』に比べ、かなり高くなっている。

(f) 男性と女性の、どちらが外で働いても、どちらが家事・育児・介護をしてもよい



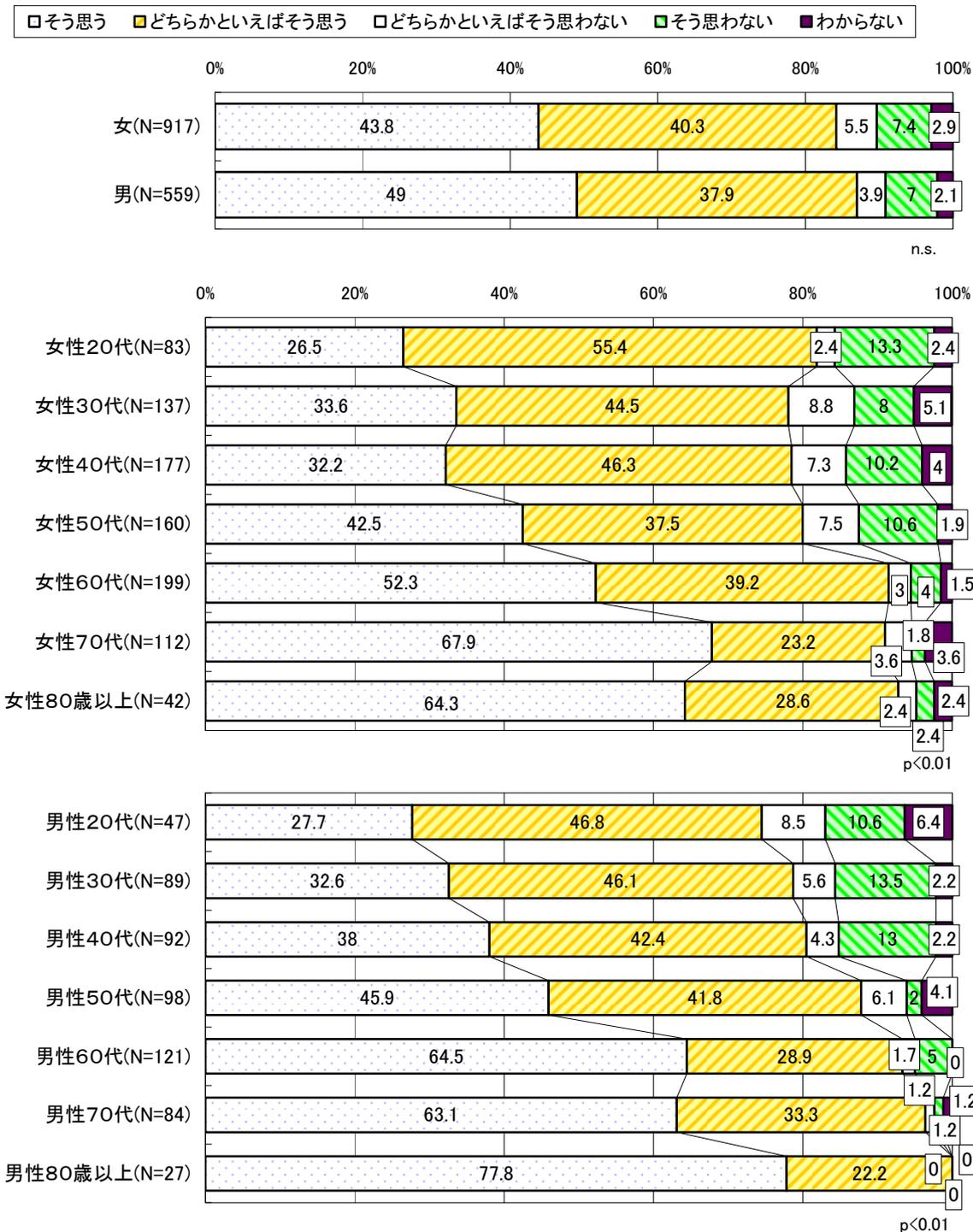
性別・年代別でみると、『肯定派』の割合が最も高いのは、女性では20歳代、男性では30歳代であり、8割を超えている。

(g) 男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい



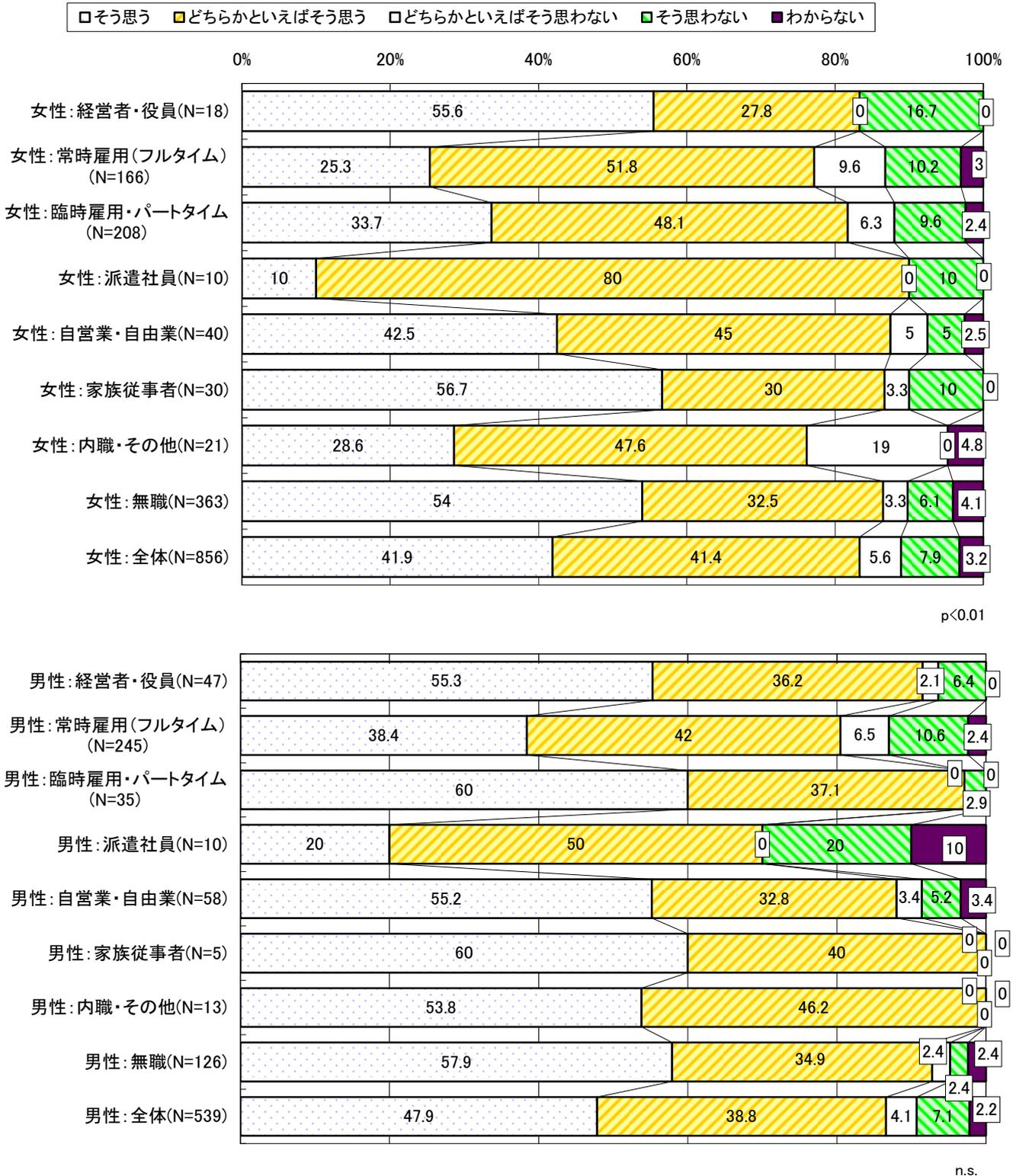
性別・年代別で見ると、男女ともすべての年代において『肯定派』の割合が高く、女性では7割以上、男性では8割以上となっている。

(h) 子どもが小さいときは女性が家にいるほうがよい



性別・年代別にみると、男性では年代が上がるにつれて『肯定派』の割合が増える傾向にあるが、女性では、20歳代と50歳代以上において、『肯定派』が8割を超えているが、30歳代・40歳代ではやや低くなっている。

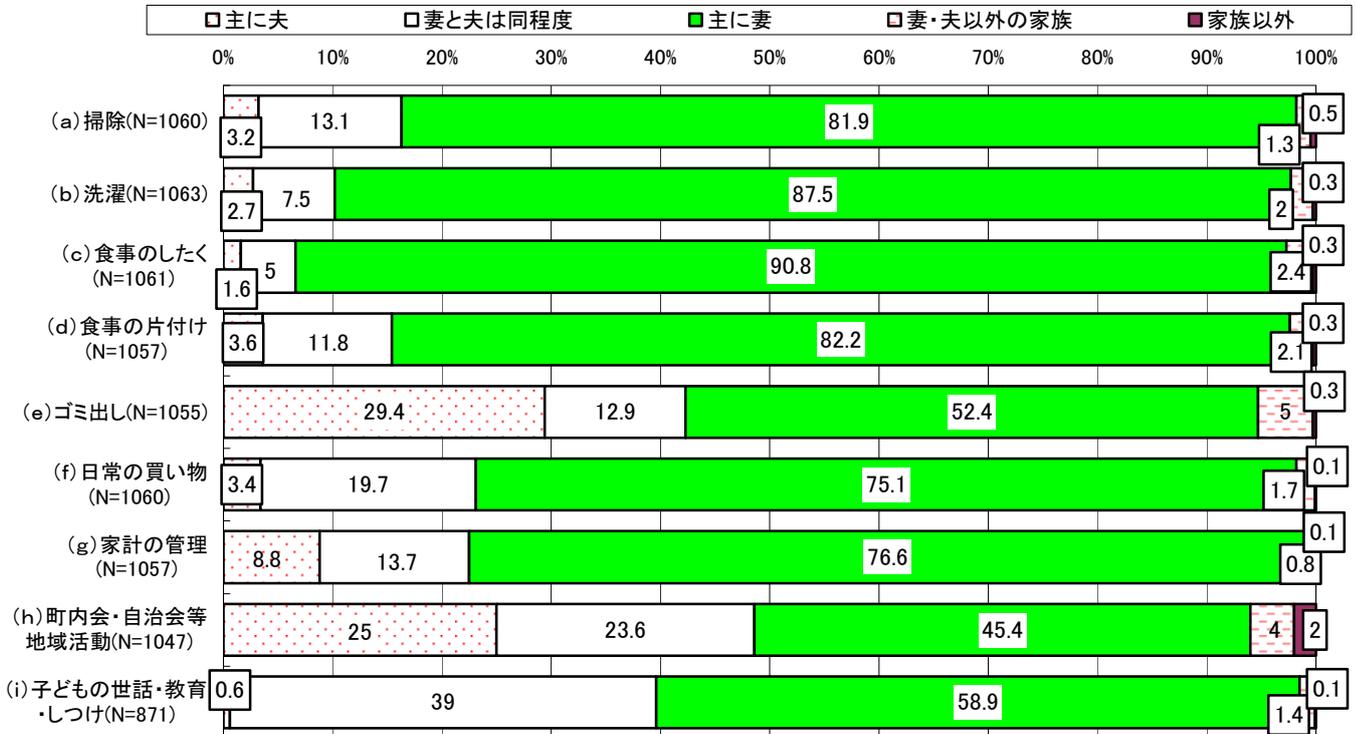
【性別×本人勤務形態別】



性別・本人勤務形態別にみると、女性では常時雇用（フルタイム）、内職・その他で『肯定派』の割合が低い傾向にある。男性については、派遣社員の『肯定派』の割合が最も低く、次いで常時雇用（フルタイム）の『肯定派』の割合が低くなっている。

問3 現在、配偶者（夫または妻、事実婚を含む）・パートナーのいる方におたずねします。あなたの家庭では、次の（a）から（i）にあげるような項目について、主に誰が担当していますか。それぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体】



家庭での主な担当については、『主に妻』の割合が高く、「(a)掃除」、「(b)洗濯」、「(c)食事のしたく」、「(d)食事の片づけ」については8割を超えており、女性が担っている割合が高くなっている。

『主に夫』の割合をみると、「(e)ゴミ出し」、「(h)町内会・自治会等地域活動」が比較的高いものの3割以下である。

『妻と夫は同程度』の割合をみると、「(i)子どもの世話・教育・しつけ」(39.0%)が最も高く、つぎに「(h)町内会・自治会等地域活動」(23.6%)となっている。

【年代別】

		主に夫	妻と夫は 同程度	主に妻	妻・夫以 外の家族	家族以外
(a) 掃除	20代(N=36)	5.6	5.6	88.9	0	0
	30代(N=152)	3.3	12.5	83.6	0	0.7
	40代(N=217)	0.9	11.5	84.8	2.8	0
	50代(N=214)	2.3	10.3	85.0	1.9	0.5
	60代(N=250)	2.8	14.4	82.0	0.8	0
	70代(N=148)	8.1	19.6	70.9	0.7	0.7
	80歳以上(N=37)	2.7	16.2	73.0	2.7	5.4
	全体(N=1054)	3.2	13.2	81.8	1.3	0.5
(b) 洗濯	20代(N=36)	2.8	13.9	80.6	2.8	0
	30代(N=152)	3.9	14.5	80.3	0.7	0.7
	40代(N=217)	1.4	7.8	88.0	2.8	0
	50代(N=214)	1.9	5.1	89.3	3.7	0
	60代(N=252)	1.6	4.0	93.3	1.2	0
	70代(N=149)	6.7	8.1	83.9	0.7	0.7
	80歳以上(N=37)	2.7	8.1	83.8	2.7	2.7
	全体(N=1057)	2.7	7.6	87.4	2.0	0.3
(c) 食事のしたく	20代(N=35)	2.9	11.4	82.9	2.9	0
	30代(N=152)	2.6	5.3	90.1	2.0	0
	40代(N=217)	0.5	6.0	89.4	4.1	0
	50代(N=215)	0.5	3.3	94.0	2.3	0
	60代(N=252)	1.6	5.6	90.9	1.6	0.4
	70代(N=147)	3.4	4.8	91.2	0	0.7
	80歳以上(N=37)	2.7	0	86.5	8.1	2.7
	全体(N=1055)	1.6	5.0	90.7	2.4	0.3
(d) 食事の片付け	20代(N=36)	5.6	16.7	77.8	0	0
	30代(N=152)	5.9	11.2	82.2	0.7	0
	40代(N=217)	3.2	8.8	86.2	1.8	0
	50代(N=214)	1.9	9.3	86.0	2.8	0
	60代(N=250)	3.2	13.2	81.2	2.0	0.4
	70代(N=145)	4.8	15.9	76.6	2.1	0.7
	80歳以上(N=37)	2.7	16.2	70.3	8.1	2.7
	全体(N=1051)	3.6	11.8	82.2	2.1	0.3
(e) ゴミ出し	20代(N=36)	41.7	19.4	27.8	11.1	0
	30代(N=152)	46.1	13.8	38.8	1.3	0
	40代(N=215)	22.8	9.3	56.7	10.7	0.5
	50代(N=213)	19.7	10.8	65.3	4.2	0
	60代(N=249)	26.1	16.9	54.6	2.4	0
	70代(N=147)	39.5	9.5	46.3	4.1	0.7
	80歳以上(N=37)	27.0	18.9	43.2	8.1	2.7
	全体(N=1049)	29.5	12.8	52.4	5.1	0.3
(f) 日常の買い物	20代(N=36)	0	13.9	83.3	2.8	0
	30代(N=152)	2.0	19.1	78.3	0.7	0
	40代(N=217)	0.9	12.9	84.3	1.8	0
	50代(N=215)	2.8	15.8	79.5	1.9	0
	60代(N=250)	2.8	22.4	73.2	1.6	0
	70代(N=148)	9.5	32.4	56.8	0.7	0.7
	80歳以上(N=36)	11.1	19.4	61.1	8.3	0
	全体(N=1054)	3.4	19.6	75.1	1.7	0.1

(%)

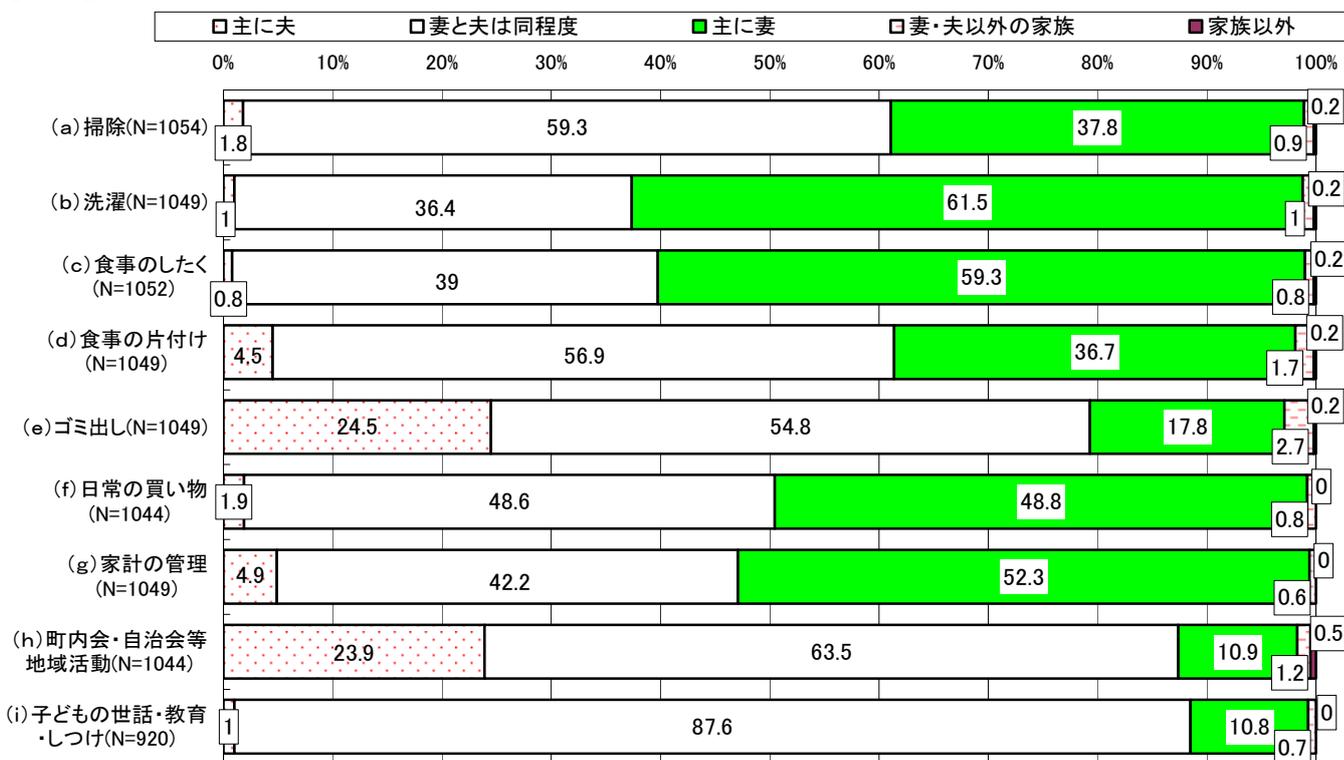
		主に夫	妻と夫は 同程度	主に妻	妻・夫以 外の家族	家族以外
(g) 家計の管理	20代(N=36)	5.6	13.9	80.6	0	0
	30代(N=152)	11.8	9.9	78.3	0	0
	40代(N=216)	7.4	13.4	77.8	1.4	0
	50代(N=213)	9.9	16.4	72.3	1.4	0
	60代(N=252)	6.3	13.9	79.4	0.4	0
	70代(N=146)	10.3	14.4	74.7	0	0.7
	80歳以上(N=36)	13.9	11.1	72.2	2.8	0
	全体(N=1051)	8.8	13.7	76.6	0.8	0.1
(h) 町内会・自治会等 地域活動	20代(N=32)	12.5	28.1	46.9	9.4	3.1
	30代(N=146)	17.8	21.2	46.6	6.2	8.2
	40代(N=216)	13.9	26.9	53.7	4.2	1.4
	50代(N=214)	19.6	29.9	47.2	2.8	0.5
	60代(N=250)	34.8	20.0	43.2	2.0	0
	70代(N=147)	40.1	20.4	36.1	2.0	1.4
	80歳以上(N=36)	36.1	13.9	27.8	16.7	5.6
	全体(N=1041)	25.1	23.7	45.2	3.9	2.0
(i) 子どもの世話・教育・ しつけ	20代(N=27)	0	48.1	51.9	0	0
	30代(N=122)	0.8	42.6	55.7	0.8	0
	40代(N=195)	0.5	36.4	61.0	2.1	0
	50代(N=198)	0	35.4	63.6	1.0	0
	60代(N=201)	1.0	41.3	57.2	0.5	0
	70代(N=105)	1.0	39.0	56.2	2.9	1.0
	80歳以上(N=18)	0	44.4	50.0	5.6	0
	全体(N=866)	0.6	39.0	58.9	1.4	0.1

(%)

『主に夫』の割合が比較的高い「(e)ゴミ出し」と「(h)町内会・自治会等地域活動」について、年代別でみると、「(e)ゴミ出し」については、30歳代で46.1%、20歳代で41.7%と若い世代で高く、「(h)町内会・自治会等地域活動」については、70歳代で40.1%、80歳以上で36.1%と高齢の世代で高くなっている。

問4 それでは、次の（a）から（i）の項目について、あなたの希望（理想）としては、どのように分担するのがよいと思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体】



家庭での主な担当について希望（理想）の分担を聞いたところ、「(a)掃除」、「(d)食事の片づけ」、「(e)ゴミ出し」、「(h)町内会・自治会等地域活動」、「(i)子どもの世話・教育・しつけ」については、5割以上の方が『妻と夫は同程度』を希望しており、中でも「(i)子どもの世話・教育・しつけ」については、8割以上となっている。

一方、「(b)洗濯」、「(c)食事のしたく」、「(g)家計の管理」については、問3の家事分担（現実）の結果と比較すると、割合は低くなっているものの、5割以上の方が『主に妻』と回答している。

【年代別】

		主に夫	妻と夫は 同程度	主に妻	妻・夫以 外の家族	家族以外
(a) 掃除	20代(N=36)	2.8	47.2	50.0	0	0
	30代(N=152)	2.0	61.8	35.5	0	0.7
	40代(N=217)	0	60.4	38.7	0.9	0
	50代(N=213)	2.3	58.2	37.6	1.9	0
	60代(N=247)	1.2	57.5	40.1	0.8	0.4
	70代(N=147)	4.1	63.9	31.3	0.7	0
	80歳以上(N=36)	2.8	55.6	38.9	2.8	0
	全体(N=1048)	1.8	59.4	37.7	1.0	0.2
(b) 洗濯	20代(N=35)	0	40.0	60.0	0	0
	30代(N=152)	2.0	42.8	54.6	0	0.7
	40代(N=217)	0.9	36.9	61.3	0.9	0
	50代(N=213)	0.5	34.7	63.4	1.4	0
	60代(N=245)	0.8	31.8	66.1	0.8	0.4
	70代(N=146)	1.4	38.4	58.2	2.1	0
	80歳以上(N=35)	0	40.0	60.0	0	0
	全体(N=1043)	1.0	36.5	61.4	1.0	0.2
(c) 食事のしたく	20代(N=36)	0	41.7	58.3	0	0
	30代(N=152)	0.7	40.8	57.9	0	0.7
	40代(N=217)	0.5	40.1	59.0	0.5	0
	50代(N=214)	0	38.8	60.3	0.9	0
	60代(N=247)	0.8	39.7	58.7	0.4	0.4
	70代(N=145)	2.1	36.6	60.0	1.4	0
	80歳以上(N=35)	2.9	28.6	62.9	5.7	0
	全体(N=1046)	0.8	39.0	59.3	0.8	0.2
(d) 食事の片付け	20代(N=36)	8.3	61.1	30.6	0	0
	30代(N=152)	5.3	66.4	27.6	0	0.7
	40代(N=217)	4.6	57.1	37.3	0.9	0
	50代(N=212)	4.2	58.5	34.4	2.8	0
	60代(N=245)	4.5	51.4	42.0	1.6	0.4
	70代(N=146)	3.4	55.5	39.0	2.1	0
	80歳以上(N=35)	2.9	48.6	40.0	8.6	0
	全体(N=1043)	4.5	57.0	36.5	1.7	0.2
(e) ゴミ出し	20代(N=36)	44.4	33.3	16.7	5.6	0
	30代(N=150)	32.7	57.3	8.7	0.7	0.7
	40代(N=217)	21.7	53.9	18.9	5.5	0
	50代(N=213)	18.3	59.2	20.2	2.3	0
	60代(N=248)	19.4	59.3	19.8	1.2	0.4
	70代(N=145)	31.0	50.3	17.2	1.4	0
	80歳以上(N=35)	37.1	31.4	22.9	8.6	0
	全体(N=1044)	24.6	54.8	17.7	2.7	0.2
(f) 日常の買い物	20代(N=36)	0	38.9	61.1	0	0
	30代(N=151)	0.7	49.0	50.3	0	0
	40代(N=216)	1.4	43.1	55.1	0.5	0
	50代(N=212)	1.4	45.3	52.8	0.5	0
	60代(N=245)	1.2	52.2	46.1	0.4	0
	70代(N=144)	4.2	59.7	34.7	1.4	0
	80歳以上(N=34)	11.8	38.2	41.2	8.8	0
	全体(N=1038)	1.9	48.6	48.7	0.8	0

(%)

		主に夫	妻と夫は 同程度	主に妻	妻・夫以 外の家族	家族以外
(g)家計の管理	20代(N=35)	11.4	25.7	62.9	0	0
	30代(N=150)	4.7	34.0	61.3	0	0
	40代(N=217)	5.1	38.2	56.7	0	0
	50代(N=213)	4.7	55.4	39.0	0.9	0
	60代(N=247)	1.6	40.5	57.5	0.4	0
	70代(N=146)	8.2	44.5	45.9	1.4	0
	80歳以上(N=35)	8.6	40.0	48.6	2.9	0
	全体(N=1043)	4.9	42.2	52.3	0.6	0
(h)町内会・自治会等 地域活動	20代(N=35)	8.6	62.9	25.7	2.9	0
	30代(N=148)	20.9	71.6	5.4	0	2.0
	40代(N=215)	19.5	68.4	12.1	0	0
	50代(N=214)	21.5	69.2	7.9	0.9	0.5
	60代(N=247)	28.7	57.5	12.6	1.2	0
	70代(N=144)	28.5	58.3	11.1	1.4	0.7
	80歳以上(N=35)	37.1	31.4	17.1	14.3	0
	全体(N=1038)	23.8	63.6	10.9	1.3	0.5
(i)子どもの世話・教育・ しつけ	20代(N=33)	0	90.9	9.1	0	0
	30代(N=139)	1.4	94.2	4.3	0	0
	40代(N=202)	0	92.1	7.9	0	0
	50代(N=204)	1.0	88.7	10.3	0	0
	60代(N=208)	1.4	87.0	11.5	0	0
	70代(N=108)	0.9	73.1	22.2	3.7	0
	80歳以上(N=21)	4.8	66.7	19.0	9.5	0
	全体(N=915)	1.0	87.7	10.7	0.7	0

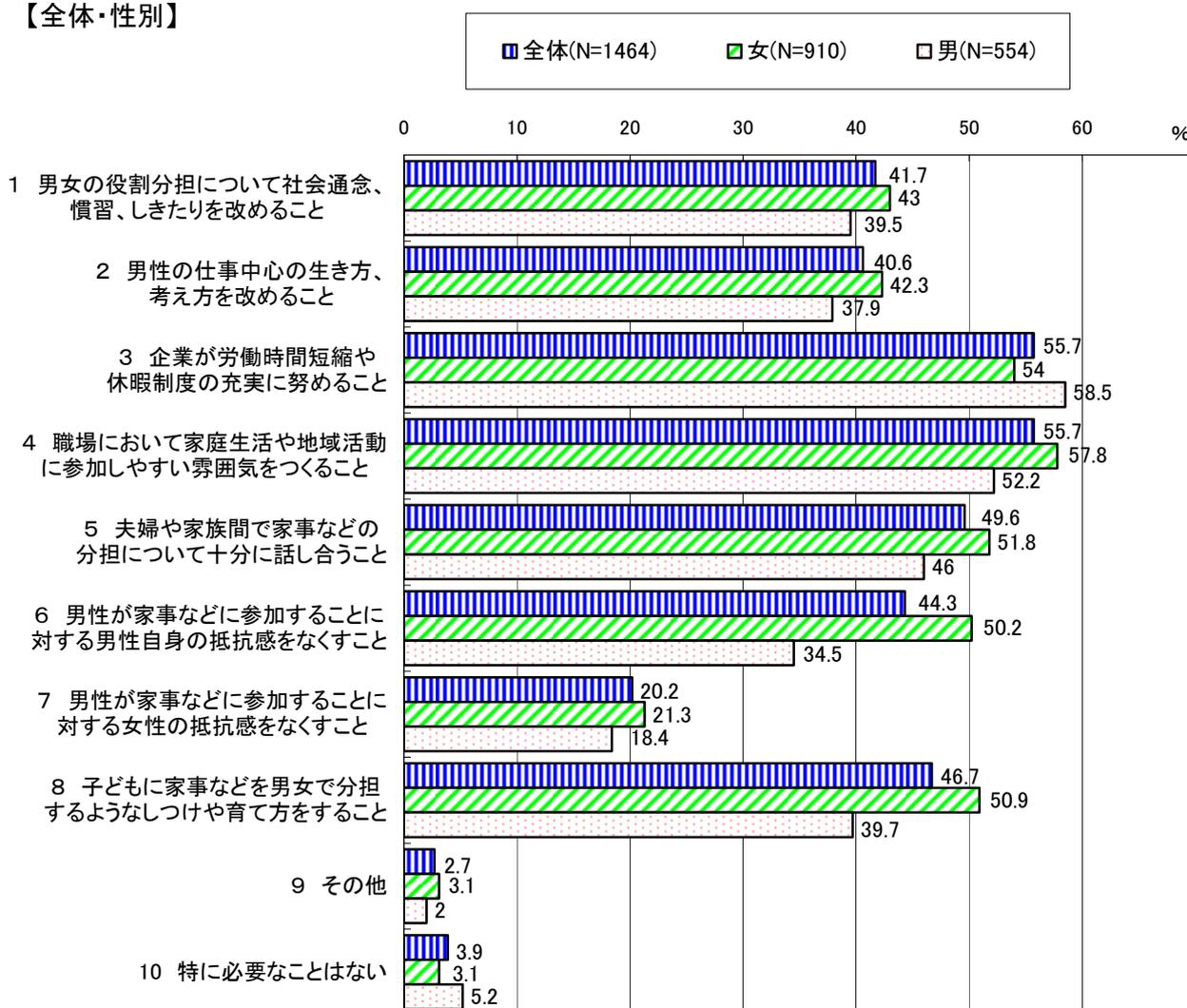
(%)

希望（理想）の分担を年代別で見ると、「(b)洗濯」、「(c)食事のしたく」については、すべての年代で『主に妻』と回答した割合が高く、「(d)食事の片づけ」、「(i)子どもの世話・教育・しつけ」については、すべての年代で『妻と夫は同程度』の割合が高くなっている。

一方、『主に夫』と回答した割合が比較的高いのは、「(e)ゴミ出し」と「(h)町内会・自治会等地域活動」で、「(e)ゴミ出し」については、20歳代で44.4%、80歳以上で37.1%、「(h)町内会・自治会等地域活動」については、80歳以上で37.1%となっている。

問5 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが必要だと思うことを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

【全体・性別】



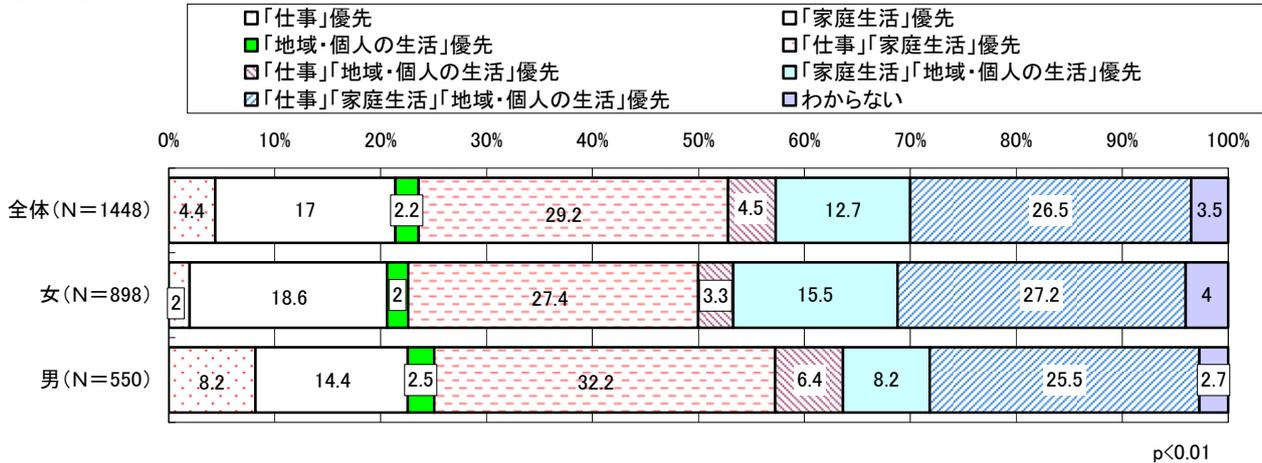
男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なこととして、多いものから順に「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること」(55.7%)、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること」(55.7%)、「夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合うこと」(49.6%)、「子どもに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」(46.7%)などが挙げられる。

性別で見ると、男性では「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること」(58.5%)が、最も多く、女性では「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること」(57.8%)が多くなっている。

Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問6 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について理想に最も近いものを聞いたところ、男女ともに『「仕事」と『家庭生活』をともに優先したい』と回答した人の割合が最も高く、次に『「仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先したい』となっている。

【性別×年代別】

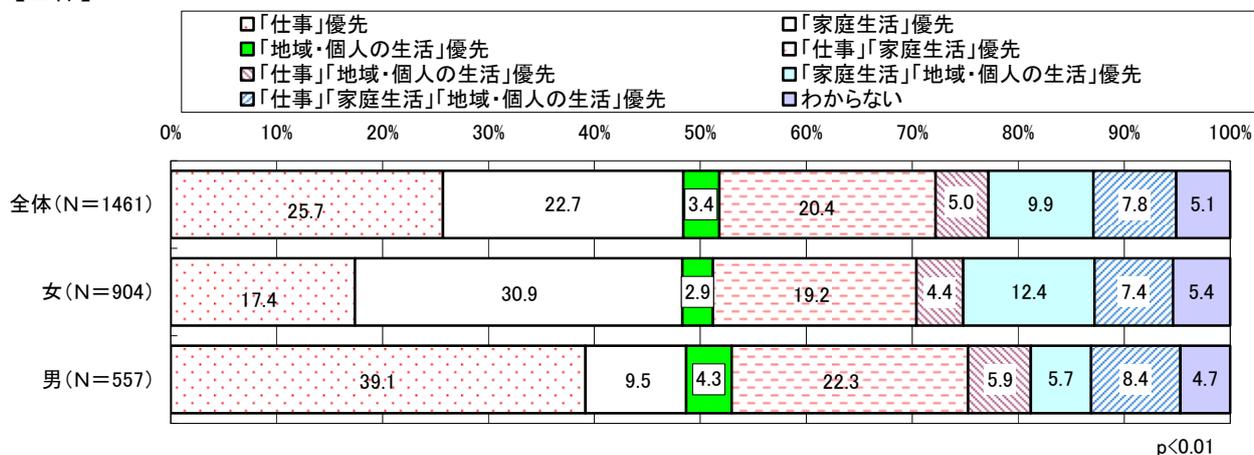
		「仕事」優先	「家庭生活」優先	「地域・個人の生活」優先	「仕事」「家庭生活」優先	「地域・個人の生活」「仕事」優先	「地域・個人の生活」「家庭生活」優先	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先	わからない
女性	20代(N=82)	2.4	18.3	2.4	20.7	3.7	23.2	25.6	3.7
	30代(N=137)	0	20.4	1.5	25.5	2.9	16.8	31.4	1.5
	40代(N=177)	1.1	26.0	2.8	28.8	1.7	11.3	27.1	1.1
	50代(N=158)	0	23.4	0.6	30.4	0.6	11.4	30.4	3.2
	60代(N=193)	3.6	13.5	1.6	29.5	5.7	17.1	25.9	3.1
	70代(N=103)	4.9	9.7	2.9	26.2	6.8	19.4	21.4	8.7
	80歳以上(N=41)	4.9	9.8	2.4	24.4	2.4	12.2	24.4	19.5
	全体(N=891)	2.0	18.6	1.9	27.5	3.4	15.5	27.2	3.9
男性	20代(N=47)	6.4	10.6	4.3	31.9	6.4	10.6	29.8	0
	30代(N=87)	1.1	24.1	5.7	31.0	4.6	8.0	21.8	3.4
	40代(N=92)	5.4	14.1	3.3	40.2	3.3	8.7	23.9	1.1
	50代(N=98)	6.1	18.4	0	36.7	7.1	6.1	25.5	0
	60代(N=118)	14.4	10.2	0.8	32.2	10.2	5.9	25.4	0.8
	70代(N=81)	11.1	11.1	3.7	22.2	4.9	7.4	29.6	9.9
	80歳以上(N=24)	16.7	4.2	0	25.0	4.2	16.7	25.0	8.3
	全体(N=547)	8.2	14.4	2.6	32.4	6.2	7.9	25.6	2.7

(%)

性別・年代別でみると、20歳代の女性では『「家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先したい』(23.2%)、30歳代の男性では、『「家庭生活』を優先したい』(24.1%)、と回答した人の割合が2番目に高くなっている。

問7 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について現実に最も近いものを聞いたところ、男性では「『仕事』を優先している」、女性では「『家庭生活』を優先している」が最も多くなっている。

【性別×勤務形態別】

		「仕事」優先	「家庭生活」優先	「地域・個人の生活」優先	「仕事」「家庭生活」優先	「仕事」「地域・個人の生活」優先	「家庭生活」「地域・個人の生活」優先	わからない	
女性	経営者・役員(N=16)	18.8	12.5	6.3	31.3	12.5	0	18.8	0
	常時雇用(フルタイム)(N=166)	42.2	6.6	0.6	29.5	10.8	0.6	7.2	2.4
	臨時雇用・パートタイム(N=210)	21.9	26.2	1.0	27.6	4.8	7.1	8.6	2.9
	派遣社員(N=10)	10.0	20.0	0	60.0	10.0	0	0	0
	自営業・自由業(N=40)	22.5	5.0	5.0	22.5	5.0	7.5	20.0	12.5
	家族従事者(N=29)	20.7	20.7	0	27.6	0	6.9	20.7	3.4
	内職・その他(N=22)	22.7	36.4	4.5	18.2	0	13.6	4.5	0
	無職(N=355)	3.4	49.6	4.8	6.8	1.7	22.0	3.7	8.2
全体(N=848)	17.9	30.9	2.8	19.2	4.6	12.0	7.2	5.3	
男性	経営者・役員(N=46)	41.3	2.2	0	37.0	4.3	4.3	8.7	2.2
	常時雇用(フルタイム)(N=244)	52.9	3.7	2.5	25.0	4.9	1.2	7.4	2.5
	臨時雇用・パートタイム(N=35)	31.4	14.3	0	28.6	11.4	0	11.4	2.9
	派遣社員(N=10)	40.0	0	0	40.0	10.0	0	10.0	0
	自営業・自由業(N=60)	50.0	5.0	3.3	18.3	5.0	3.3	13.3	1.7
	家族従事者(N=5)	0	0	20.0	40.0	40.0	0	0	0
	内職・その他(N=13)	30.8	15.4	0	23.1	7.7	0	15.4	7.7
	無職(N=126)	11.9	23.8	11.1	10.3	6.3	19.0	6.3	11.1
全体(N=539)	39.3	9.3	4.3	22.4	6.1	5.8	8.3	4.5	

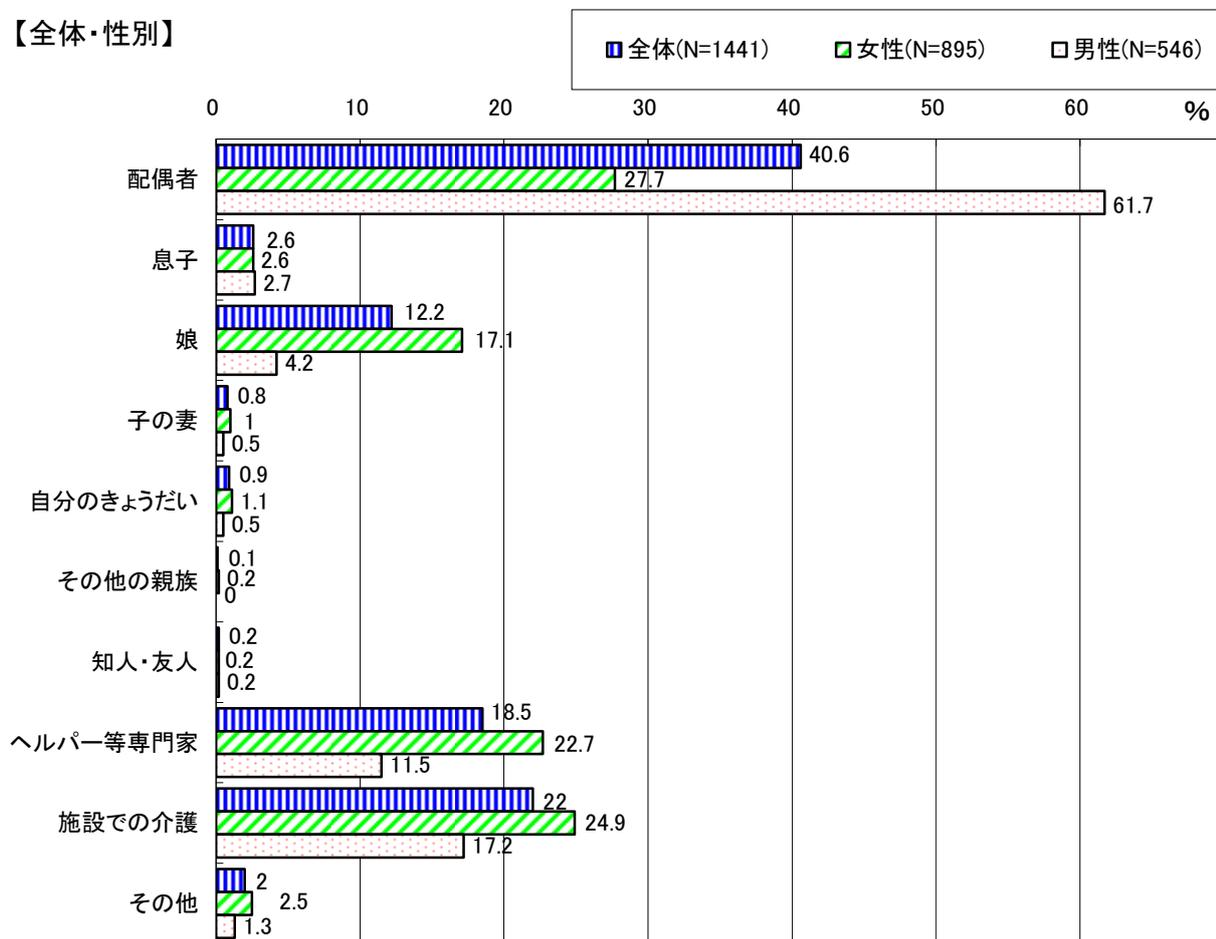
(%)

本人勤務形態別でみると、「『仕事』を優先している」と回答した人の割合は、男女とも常時雇用（フルタイム）で最も高く、「『家庭生活』を優先している」と回答した人の割合は、無職、内職・その他で高くなっている。

IV 介護について

問8 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体・性別】



p<0.01

【性別×年代別】

		配偶者	息子	娘	子の妻	だ自 い分 のき ょう	そ の 他 の 親 族	知 人 ・ 友 人	門 家 ヘル パー 等 専 門	施 設 で の 介 護	そ の 他
女性	20代(N=81)	32.1	1.2	29.6	0	0	1.2	0	18.5	14.8	2.5
	30代(N=134)	32.8	2.2	13.4	0	0	0	0	21.6	27.6	2.2
	40代(N=174)	25.3	2.3	13.8	0	1.1	0	0	26.4	27.6	3.4
	50代(N=157)	24.2	1.3	14.6	1.3	3.2	0.6	0.6	23.6	28.7	1.9
	60代(N=197)	32.5	3.0	15.7	1.0	1.5	0	0	22.3	21.8	2.0
	70代(N=108)	22.2	2.8	22.2	3.7	0	0	0	24.1	24.1	0.9
	80歳以上(N=37)	16.2	10.8	18.9	2.7	0	0	2.7	16.2	29.7	2.7
	全体(N=888)	27.7	2.6	17.0	1.0	1.1	0.2	0.2	22.9	25.0	2.3
男性	20代(N=44)	50.0	6.8	2.3	0	2.3	0	2.3	15.9	18.2	2.3
	30代(N=86)	53.5	4.7	4.7	0	0	0	0	12.8	24.4	0
	40代(N=91)	67.0	0	5.5	0	1.1	0	0	11.0	15.4	0
	50代(N=98)	54.1	1.0	3.1	0	0	0	0	14.3	23.5	4.1
	60代(N=115)	69.6	1.7	4.3	0.9	0.9	0	0	7.8	13.9	0.9
	70代(N=84)	66.7	2.4	2.4	2.4	0	0	0	11.9	13.1	1.2
	80歳以上(N=25)	68.0	12.0	12.0	0	0	0	0	4.0	4.0	0
	全体(N=543)	61.7	2.8	4.2	0.6	0.6	0	0.2	11.4	17.3	1.3

(%)

自分に介護が必要になったとき、主に誰に一番介護をしてもらいたいかを尋ねている。

男女ともに、①配偶者 ②施設での介護 ③ヘルパー等専門家 ④娘 ⑤息子の順になっている。

女性全体では、「配偶者」による介護を望む人が最も多く 27.7%となっているが、これを年代別にみると、20歳代・30歳代・60歳代では、「配偶者」の割合が他の選択肢の割合よりも高いのに対し、40歳代・50歳代及び70歳代以上では、「施設での介護」を望む割合が高くなっている。

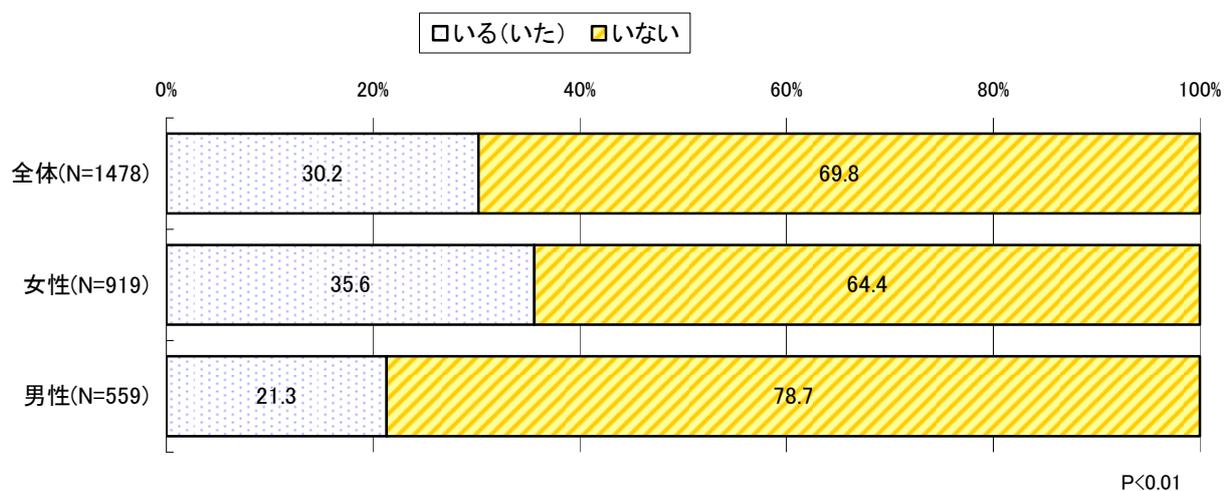
また、女性の場合は年代を問わず、「配偶者」、「施設での介護」、「ヘルパー等の専門家」のほかに「娘」と回答した人の割合が高くなっている。

男性は、どの年代も「配偶者」による介護を望む人が多くなっている。次に多いのが70歳代以下では、「施設での介護」、「ヘルパー等の専門家」となっているが、80歳以上においては、「息子」「娘」と回答した人の割合が高くなっている。

男女ともに「配偶者」による介護を希望しているが、その割合は男性の方が高く、すべての年代において5割を超えており、女性よりも男性の方が配偶者に頼る傾向が見てとれる。

問9 現在または過去において、主としてあなたが介護している（した）方はいますか。

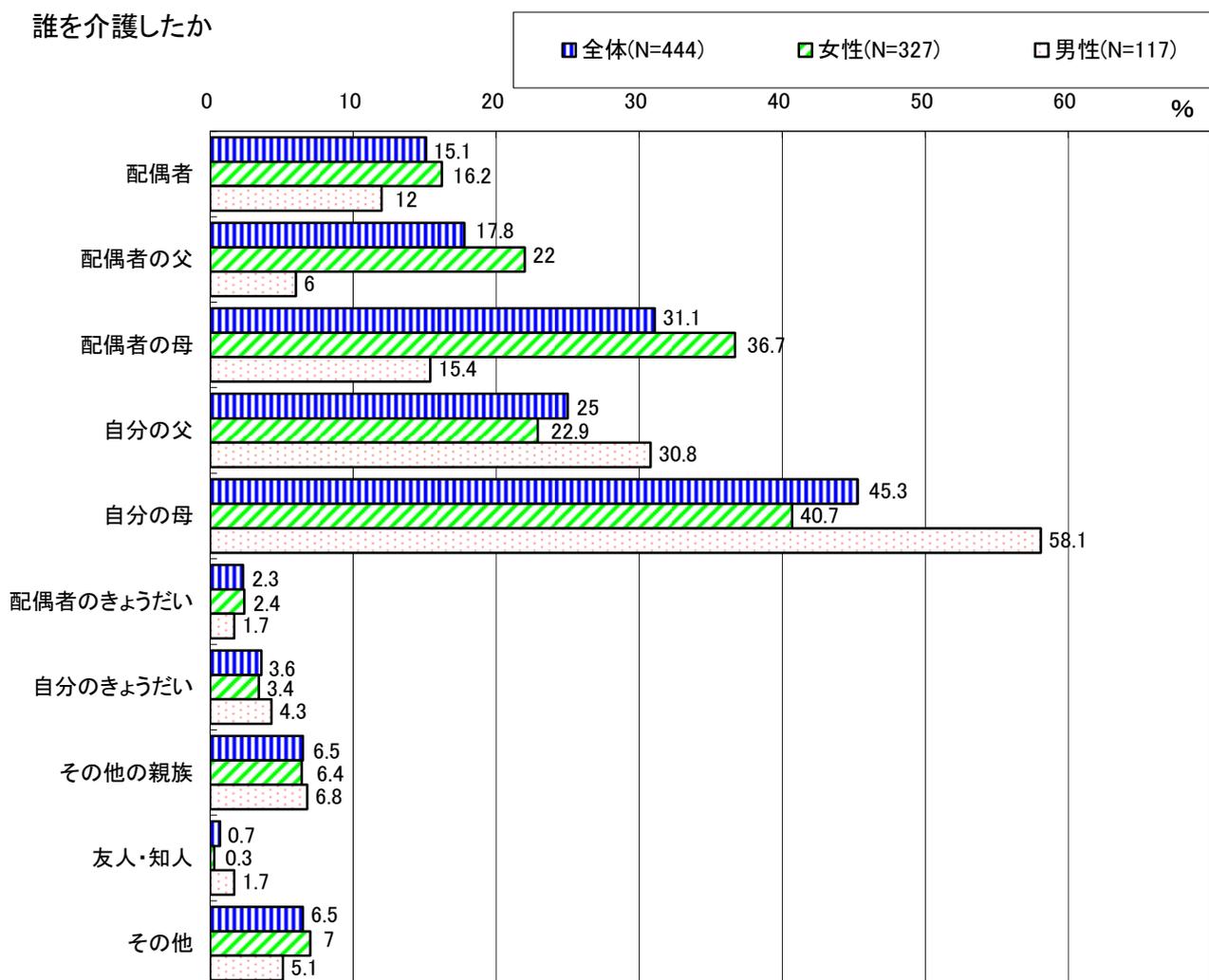
介護経験



主たる介護者としての介護経験の有無を尋ねている。

全体で見ると、介護経験のある人は30.2%となっている。性別で見ると、女性は35.6%、男性は21.3%となっており、女性が主に介護を担う傾向がある。

問10 問9で「1 いる(いた)」と答えた方におたずねします。その方とあなたの関係は、次のうちどれにあたりますか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。
(○はいくつでも)



問9で介護経験があると回答した人に、誰を介護したかを尋ねている。

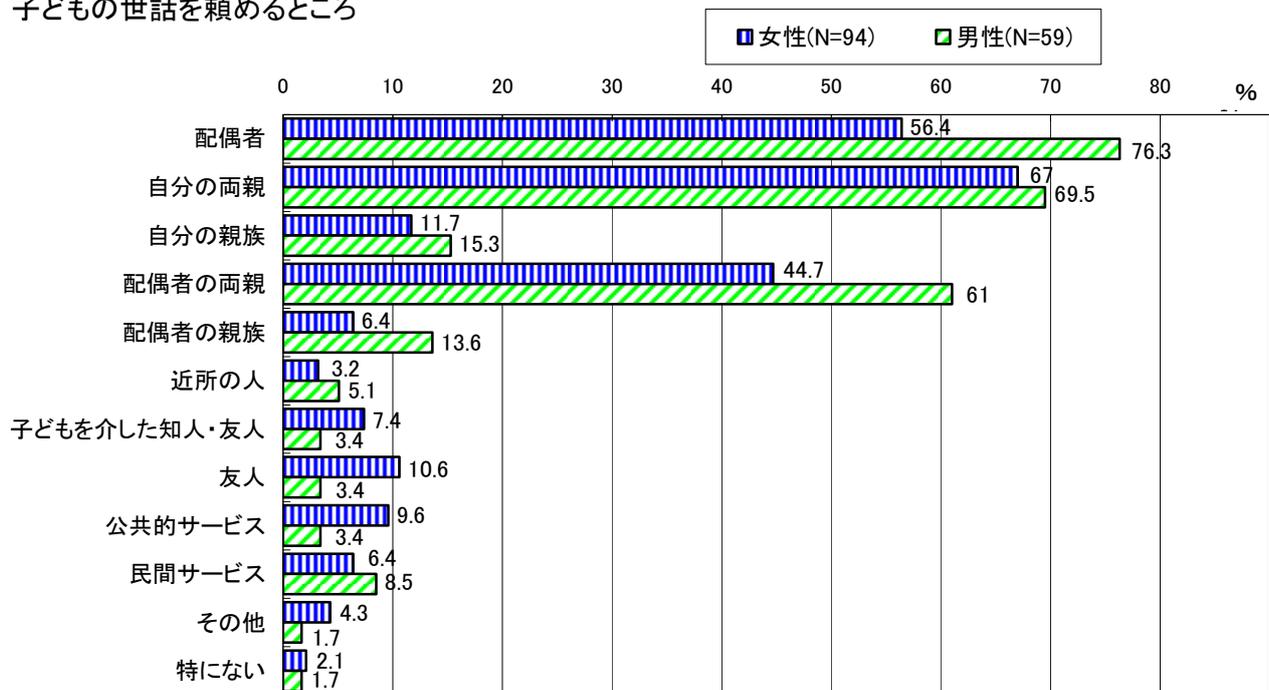
全体で見ると、回答の割合が一番高いのは「自分の母」(45.3%)で、以下、「配偶者の母」(31.1%)、「自分の父」(25.0%)、「配偶者の父」(17.8%)、「配偶者」(15.1%)の順になっている。

性別で見ると、女性は「自分の母」、「配偶者の母」、「自分の父」、「配偶者の父」、「配偶者」の順で割合が高く、男性は、「自分の母」、「自分の父」、「配偶者の母」、「配偶者」、「配偶者の父」の順で割合が高くなっており、自分の母を介護する人の割合が圧倒的に高い。

V 子育てについて

問 13 就学前の子どもがいる方におたずねします。あなたが、急な用事や急病などで、子どもの世話がどうしてもできなくなったとき、子どもの世話を一時的に頼めるのは、どのようなところが考えられますか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

子どもの世話を頼めるところ



就学前の子どもがいる人に対して、急な用事や急病の際に子どもの世話が頼める人が身近にどれぐらいいるかを尋ねている。

子どもの世話を頼める身近な人との関係（続柄）を性別で比較すると、

<女性>

- ①自分の両親
- ②配偶者
- ③配偶者の両親
- ④自分の親族
- ⑤友人
- ⑥公共的サービス

<男性>

- ①配偶者
- ②自分の両親
- ③配偶者の両親
- ④自分の親族
- ⑤配偶者の親族
- ⑥民間サービス

となっている。

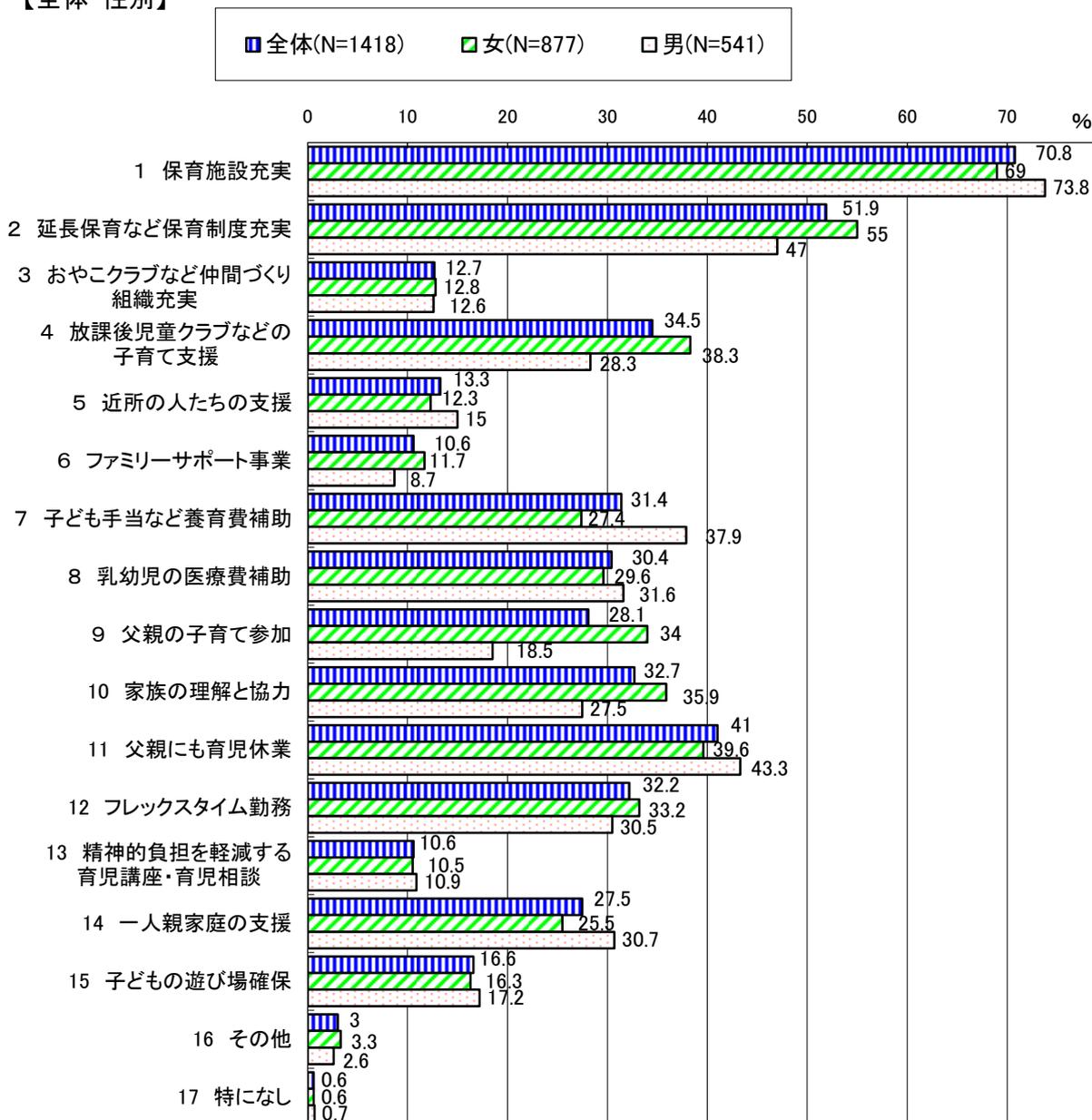
女性は、配偶者よりも自分の両親に頼るのに対し、男性は配偶者を頼る傾向がある。

また、女性は、配偶者の親族よりも友人を頼っており、この点において男女の違いがみられる。

なお、「急な用事や急病の際」に頼る先として、公共的サービスを選択した割合は、女性では6番目に挙がっているものの9.6%と低く、男性においても3.4%にとどまるなど、公共的サービスが利用しにくい状況にあると推測される。

問 14 人々が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるには、どんなことが必要だと思いますか。次にあげた中から特に必要だと思うものを5つまで選んで数字に○をつけてください。

【全体・性別】



安心して子どもを産み育てるために必要なこととして、多いものから順に、「保育施設の充実」(70.8%)、「延長保育・病後児保育など保育制度の充実」(51.9%)、「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境」(41.0%)、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(34.5%)、「育児に対する家族の理解と協力」(32.7%)などが挙げられる。

性別でみると、男性は女性に比べて「子ども手当などの養育費の補助」、「一人親家庭(母子家庭、父子家庭)の支援」、「保育施設の充実」を挙げる人が多い。他方、女性は男性に比べて「父親の子育て参加」、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」、「延長保育・病後児保育など保育制度の充実」、「育児に対する家族の理解と協力」を挙げる人が多い。

【ライフステージ別】

	独身期	家族形成期	家族形成第一期	家族形成第二期	家族形成第三期	家族成熟期	高齢期	全体
	N=149	N=38	N=148	N=162	N=136	N=200	N=391	N=1224
1 保育施設の充実	67.1	76.3	66.2	50.6	71.3	77.0	77.2	70.4
2 延長保育など保育制度の充実	49.0	52.6	53.4	51.2	58.8	54.0	47.6	51.4
3 おやこクラブなど仲間づくり組織の充実	11.4	18.4	7.4	14.2	13.2	13.5	14.1	12.9
4 放課後児童クラブなどの子育て支援	24.2	36.8	34.5	35.8	38.2	41.0	34.5	35.0
5 近所の人たちの支援	17.4	15.8	10.8	13.0	9.6	9.5	15.1	13.1
6 ファミリーサポート事業	4.7	7.9	11.5	14.2	15.4	14.0	9.7	11.2
7 子ども手当など養育費の補助	29.5	47.4	54.1	45.1	25.7	23.5	26.6	32.8
8 乳幼児の医療費補助	24.8	39.5	45.3	33.3	24.3	26.5	29.9	30.7
9 父親の子育て参加	27.5	31.6	33.8	37.7	33.8	28.0	23.5	29.2
10 家族の理解と協力	36.9	18.4	21.6	27.2	31.6	34.0	37.3	32.3
11 父親にも育児休業	53.0	52.6	32.4	30.2	34.6	44.0	41.7	40.4
12 フレックスタイム勤務	53.0	44.7	37.2	43.8	36.8	28.0	16.9	32.2
13 精神的負担を軽くする育児講座・育児相談	12.1	15.8	5.4	6.2	3.7	16.0	12.5	10.5
14 一人親家庭の支援	31.5	15.8	19.6	17.9	27.9	31.0	30.2	26.9
15 子どもの遊び場の確保	7.4	7.9	18.2	20.4	14.0	18.5	18.7	16.6
16 その他	2.7	7.9	6.1	5.6	2.9	3.5	1.3	3.3
17 特に必要なことはない	2.0	0	0	0.6	0	0	1.3	0.7

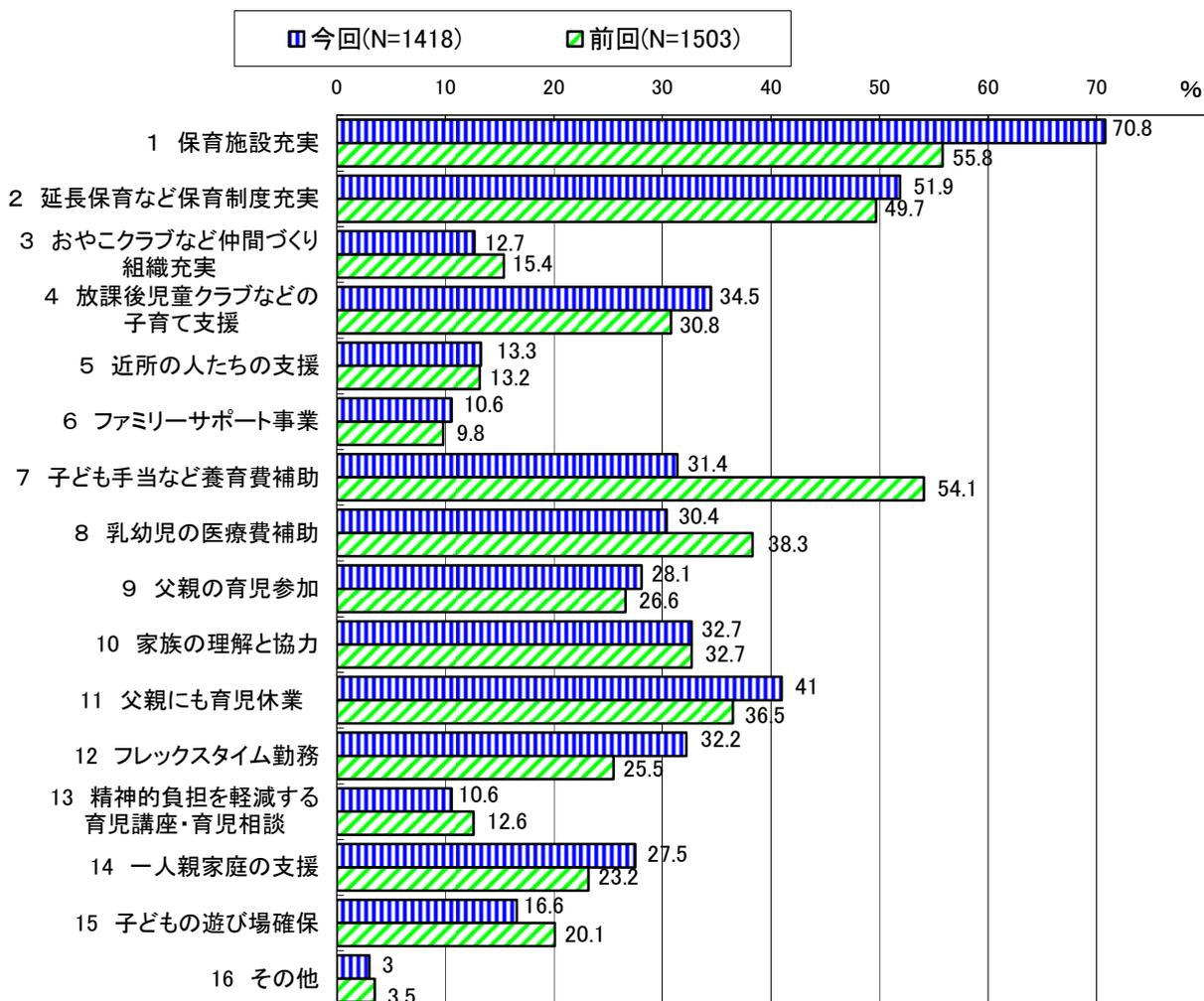
(%)

子育てをするのに何が望まれているかをライフステージごとにみると、子どもをもたない独身期と家族形成期においては、共通して第一位に「保育施設の充実」、第二位に「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境」を挙げており、「延長保育・病後児保育など保育制度の充実」、「子育て中のフレックスタイム勤務」についても上位で求めている。

末子が未就学児の家族形成一期と末子が小中学生の家族形成二期の人は、「保育施設の充実」、「延長保育・病後児保育など保育制度の充実」とともに「子ども手当などの養育費の補助」を求める人が多く、子育てに対する直接的な負担への支援を望んでいると考えられる。

このように、回答者の属性に応じた認識の違いが認められる一方で、「保育施設の充実」、「延長保育・病後児保育など保育制度の充実」の項目に関しては、高齢期までを含むすべてのライフステージで強く求められている。

【前回との比較】



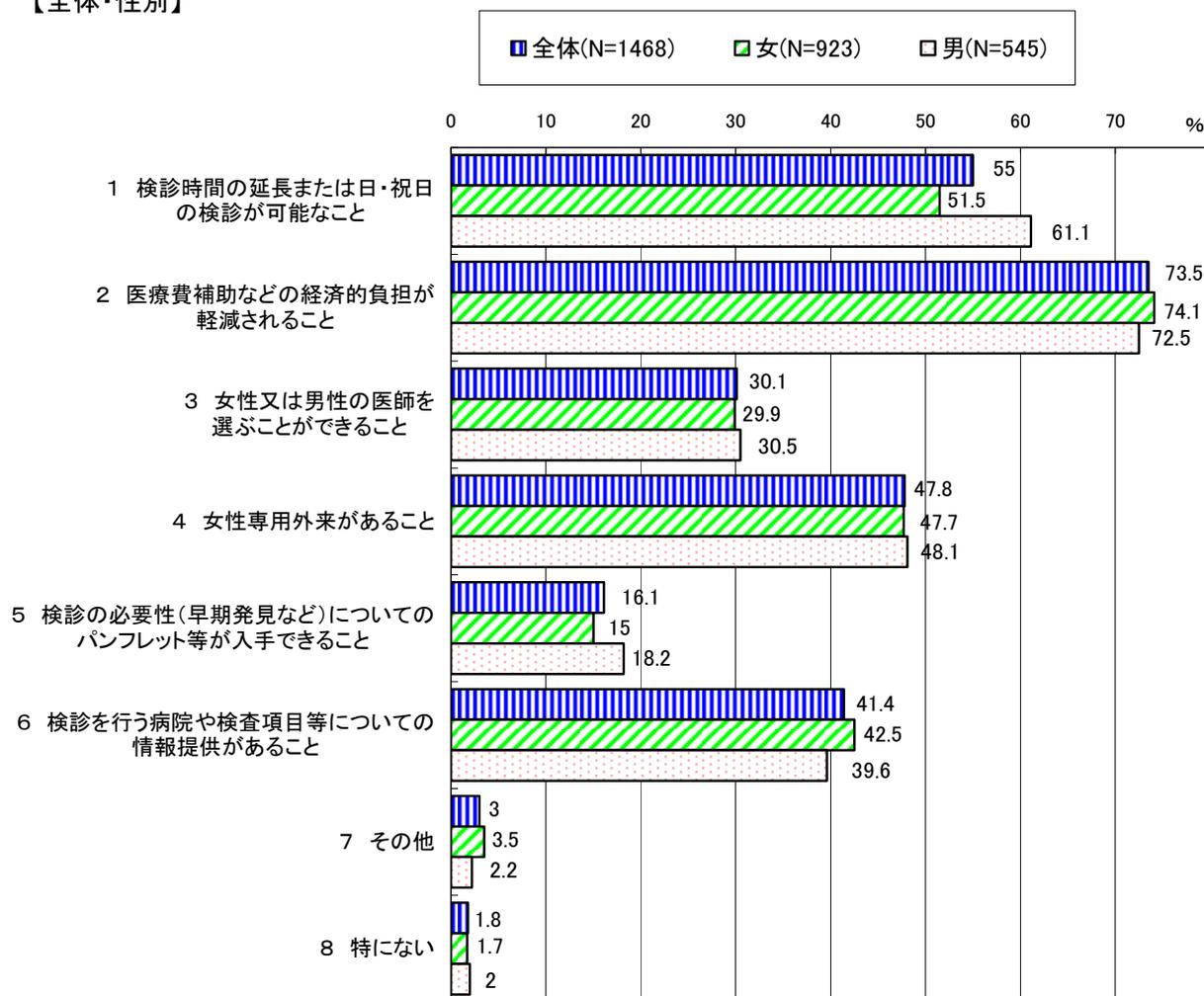
前回調査と比較すると、「保育施設の充実」(55.8%→70.8%)を望む割合が高くなっている。

また、「子ども手当など養育費補助」(54.1%→31.4%)については望む人の割合が低くなっており、これは、次代の社会を担う子どもの育ちを社会全体で応援することを趣旨に平成22年4月から子ども手当の支給制度が開始されたことに起因するものと考えられる。

VI 健康について

問 15 医療機関において、特に乳がんや子宮がんなどの検診は、どのようなことがあれば、女性が受診しやすくなると思いますか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

【全体・性別】



女性が受診しやすくなると思う項目で、回答した人の割合が一番多いのは「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」(73.5%)で、次いで「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なおこと」(55.0%)、「女性専用外来があること」(47.8%)、「検診を行う病院や検査項目等についての情報提供があること」(41.4%)となっている。

【性別×年代別】

		1 の 検診 時間 が 可 能 な 事 と	2 軽 減 さ れ る 事 と	3 が 女 性 又 は 男 性 の 医 師 を 選 ぶ 事 と	4 女 性 専 用 外 来 が あ る 事 と	5 手 に 検 診 の 必 要 性 （ 早 期 発 見 な ど ） に つ い て の パ ン フ レ ッ ト 等 が 入 る 事 と	6 検 診 を 行 う 病 院 や 検 査 項 目 等 に つ い て の 情 報 提 供 が あ る 事 と	7 そ の 他	8 特 に な い
女性	20代(N=84)	54.8	79.8	51.2	40.5	17.9	45.2	8.3	0
	30代(N=136)	58.8	87.5	28.7	43.4	14.7	39.0	6.6	0.7
	40代(N=178)	55.1	82.6	33.1	44.4	9.6	37.1	3.4	1.1
	50代(N=161)	53.4	74.5	29.2	52.8	11.2	42.9	3.7	1.9
	60代(N=200)	48.0	68.5	23.0	53.5	13.5	44.0	1.0	1.0
	70代(N=118)	39.0	59.3	25.4	46.6	23.7	45.8	1.7	4.2
	80歳以上(N=39)	48.7	53.8	20.5	43.6	33.3	61.5	0	5.1
	全体(N=916)	51.4	74.3	29.7	47.6	15.1	42.8	3.5	1.6
男性	20代(N=47)	70.2	59.6	40.4	46.8	23.4	51.1	4.3	0
	30代(N=87)	66.7	80.5	35.6	47.1	17.2	23.0	1.1	2.3
	40代(N=92)	57.6	77.2	30.4	46.7	15.2	34.8	2.2	0
	50代(N=97)	63.9	70.1	30.9	50.5	11.3	38.1	3.1	2.1
	60代(N=116)	58.6	77.6	28.4	48.3	20.7	48.3	0.9	1.7
	70代(N=82)	53.7	64.6	22.0	53.7	20.7	46.3	2.4	3.7
	80歳以上(N=21)	61.9	66.7	33.3	33.3	33.3	38.1	4.8	9.5
	全体(N=542)	61.1	72.7	30.6	48.3	18.3	39.7	2.2	2.0

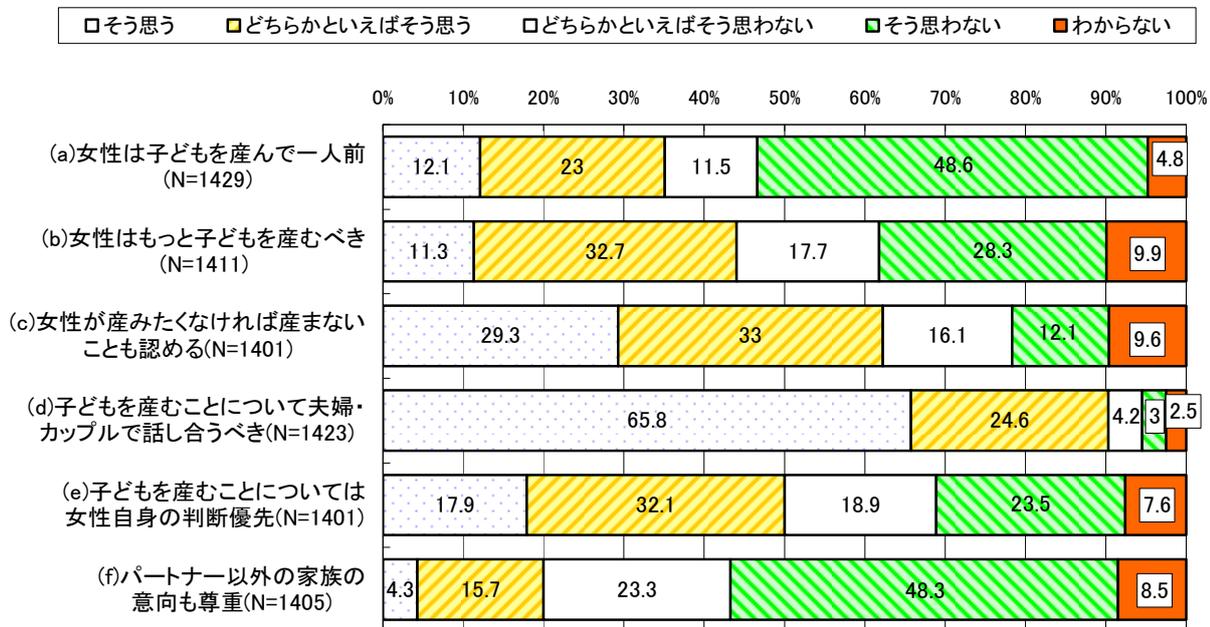
(%)

性別・年代別でみると、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」を選択した人の割合は、男女とも30歳代で最も高くなっている。

また、20歳代の女性では、他の年代に比べ「女性又は男性の医師を選ぶことができること」（51.2%）を選択した割合が高くなっているのに対し、50歳代・60歳代の女性は、「女性専用外来があること」を選択した割合の方が高くなっている。

問 16 女性が子どもを産むことに関しては、さまざまな意見があります。あなたは次の（a）から（f）の意見についてどのように思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【全体】



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）に関する質問である。

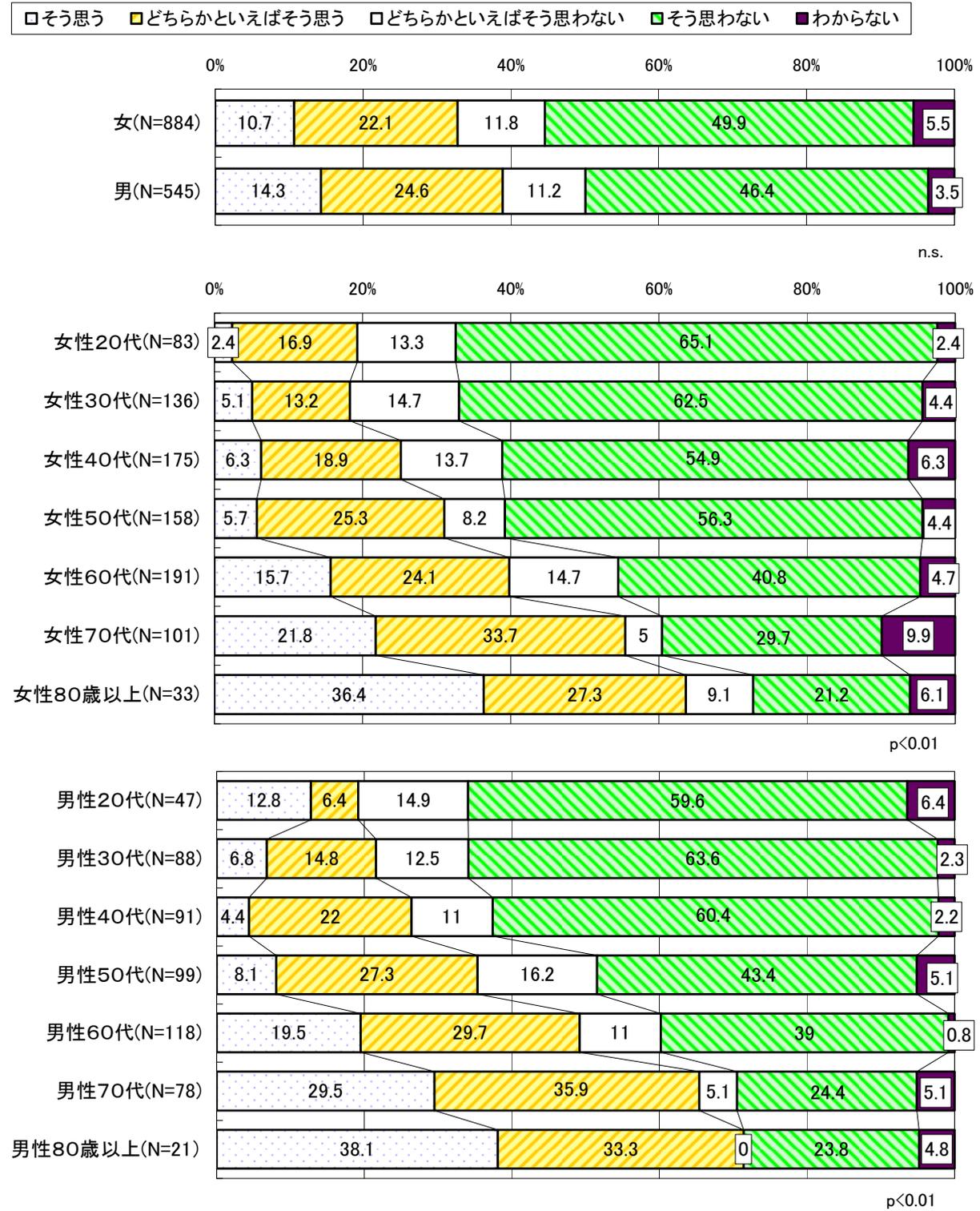
「(a) 女性は子どもを産んでこそ一人前である」という意見についてどう思うか尋ねたところ、『肯定派』は 35.1%、『否定派』は 60.1%、「(b) 少子化によって、労働人口や年金制度の問題が生じるから女性はもっと子どもを産むべきだ」では、『肯定派』が 44.0%、『否定派』が 46.0%、「(c) ライフスタイルは多様化しているので、女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ」では、『肯定派』が 62.3%、『否定派』が 28.2%、「(d) 子どもを産むか産まないかは、夫婦・カップルがよく話し合って決めることである」では、『肯定派』が 90.4%、『否定派』が 7.2%、「(e) 子どもを産むか産まないかは、最終的には女性自身の考えや判断を優先すべきである」では、『肯定派』が 50.0%、『否定派』が 42.4%、「(f) 子どもを産むか産まないは、パートナー以外の家族の意向も尊重すべきだ」については、『肯定派』が 20.0%、『否定派』が 71.6%となっている。

『肯定派』が『否定派』を上回るのは、「(c) ライフスタイルは多様化しているので、女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ」、「(d) 子どもを産むか産まないかは、夫婦・カップルがよく話し合って決めることである」、「(e) 子どもを産むか産まないかは、最終的には女性自身の考えや判断を優先すべきである」の 3 項目である。

『否定派』が『肯定派』を上回るのは、「(a) 女性は子どもを産んでこそ一人前である」、「(b) 少子化によって、労働人口や年金制度の問題が生じるから女性はもっと子どもを産むべきだ」、「(f) 子どもを産むか産まないは、パートナー以外の家族の意向も尊重すべきだ」の 3 項目である。

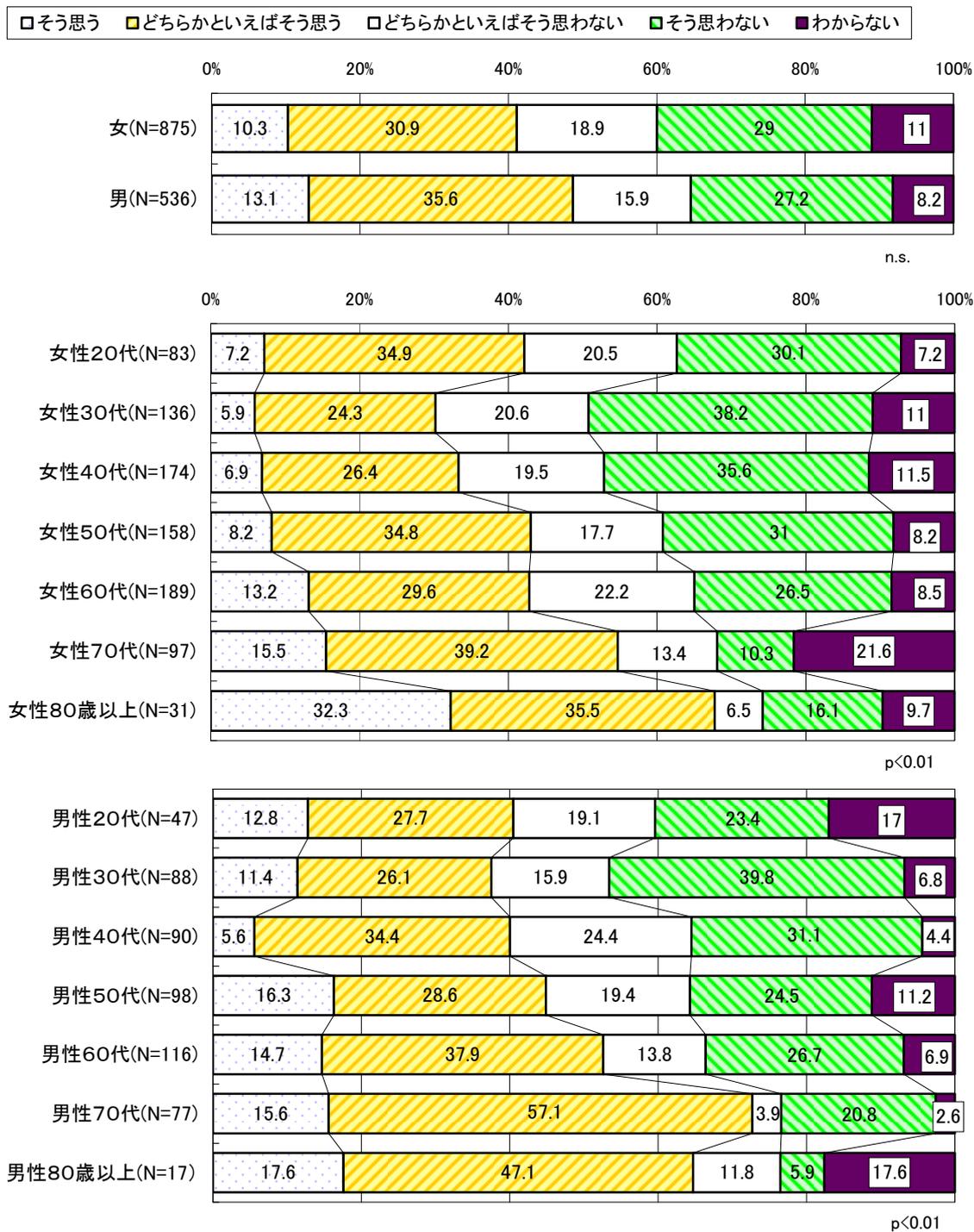
子どもを産むことに関しては、家族や周囲の意見に左右されるのではなく、女性あるいは夫婦・カップルの問題としてとらえていることがうかがえる。

(a) 女性は子どもを産んでこそ一人前である



性別・年代別で見ると、女性で30歳代と20歳代が逆転しているものの、男女ともに若い年代ほど『否定派』が多くなっている。『肯定派』が『否定派』を上回るのは、男女とも70歳代以上である。

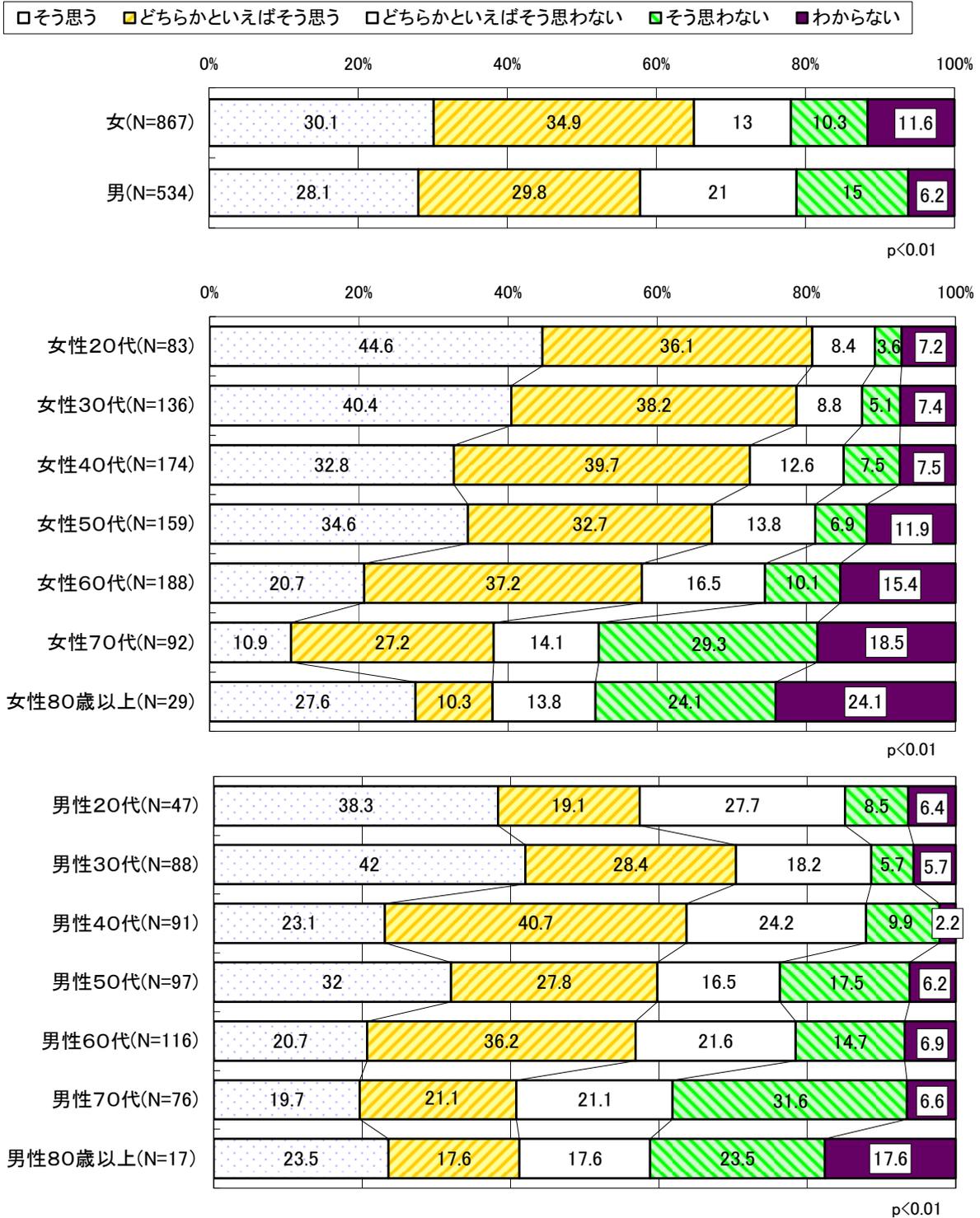
(b) 少子化によって、労働人口や年金制度の問題が生じるから女性はもっと子どもを産むべきだ



性別・年代別で見ると、『否定派』が『肯定派』を上回っているのは、女性では60歳代以下であるのに対し、男性では40歳代以下となっている。

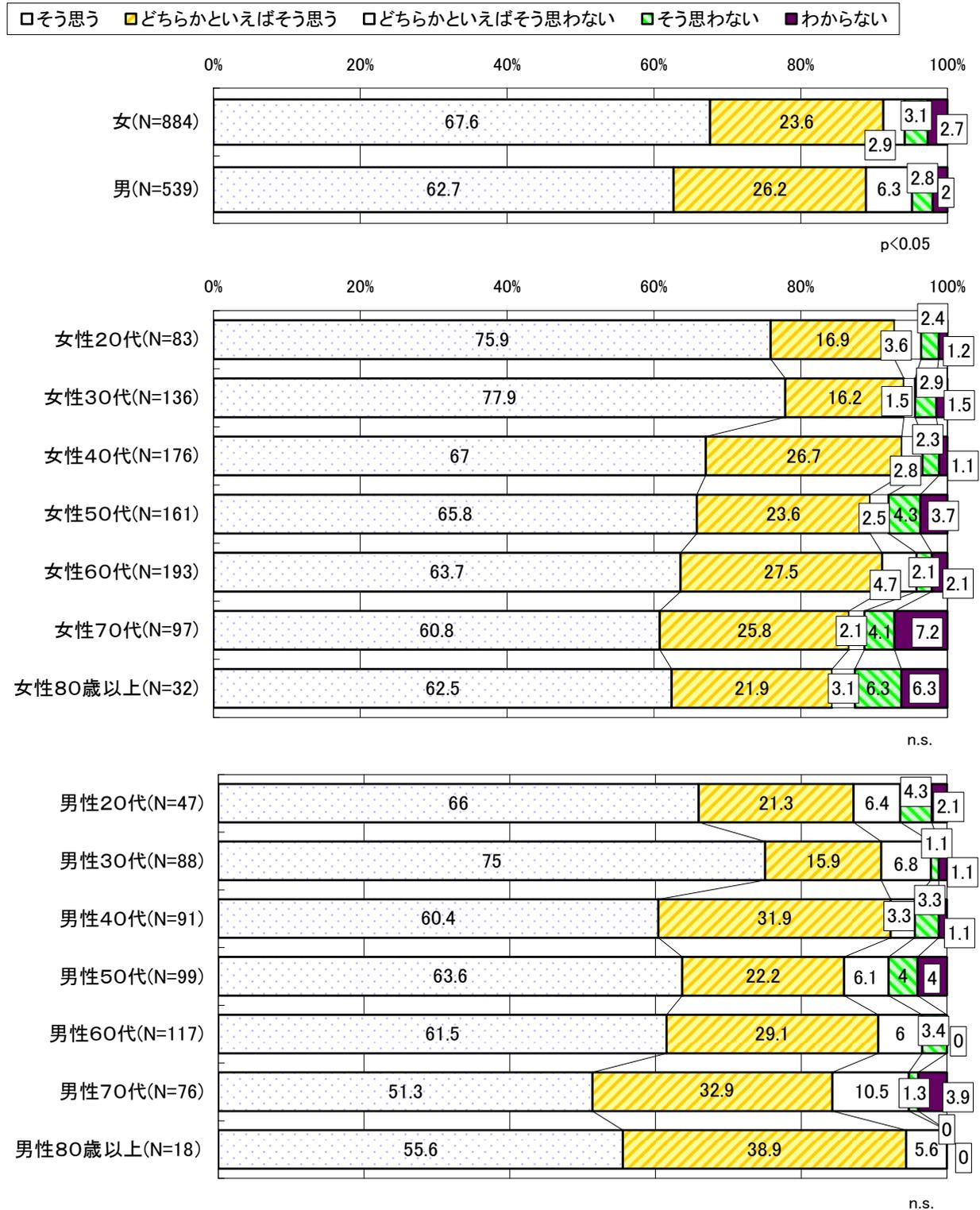
また、男女とも30歳代・40歳代よりも20歳代で『肯定派』が多くなっている。

(c) ライフスタイルは多様化しているので、女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ



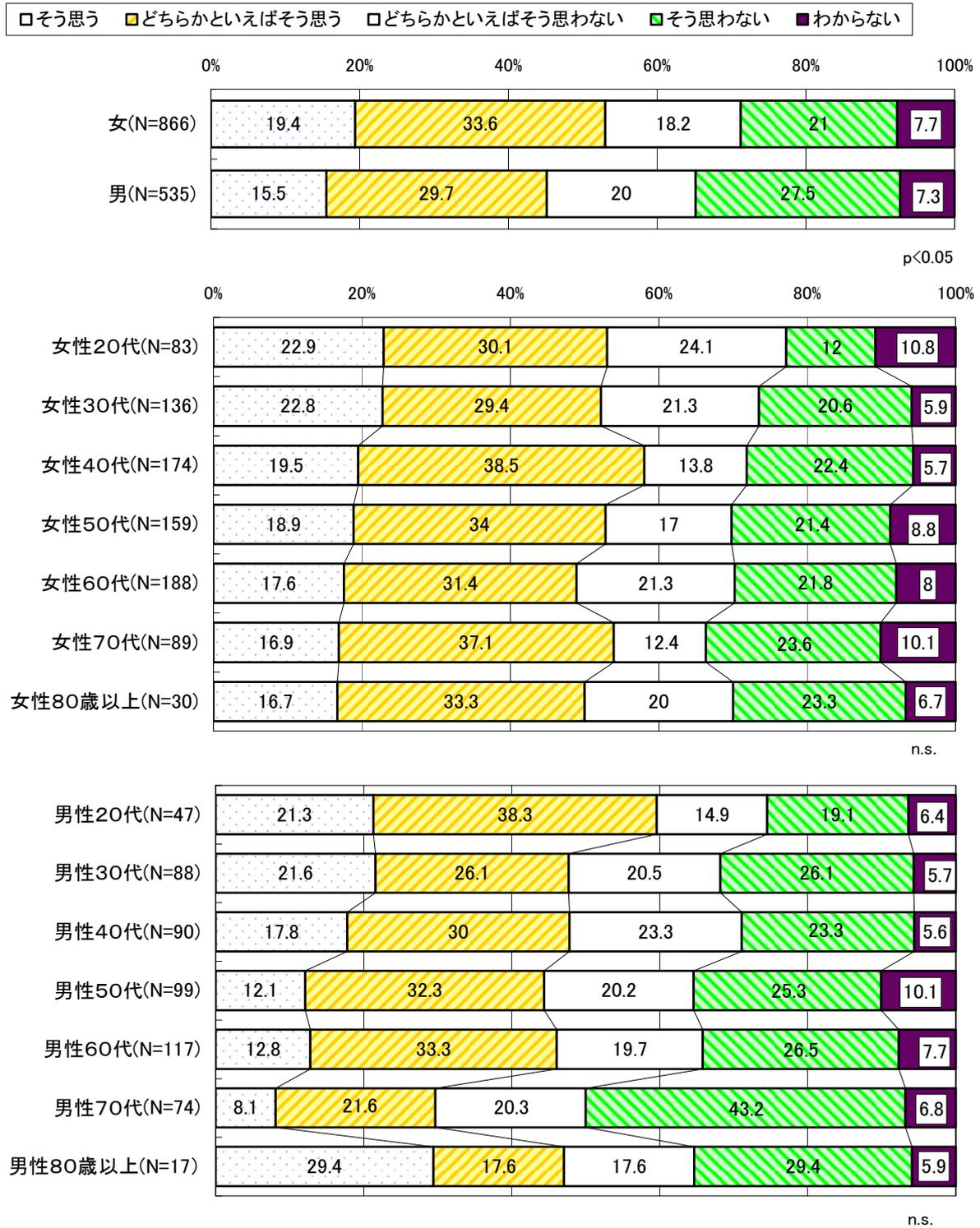
女性は、若い年代になるほど『肯定派』が増える傾向にあり、男性においては、30歳代で『肯定派』が最も高くなっている。

(d) 子どもを産むか産まないかは、夫婦・カップルがよく話し合っていることである



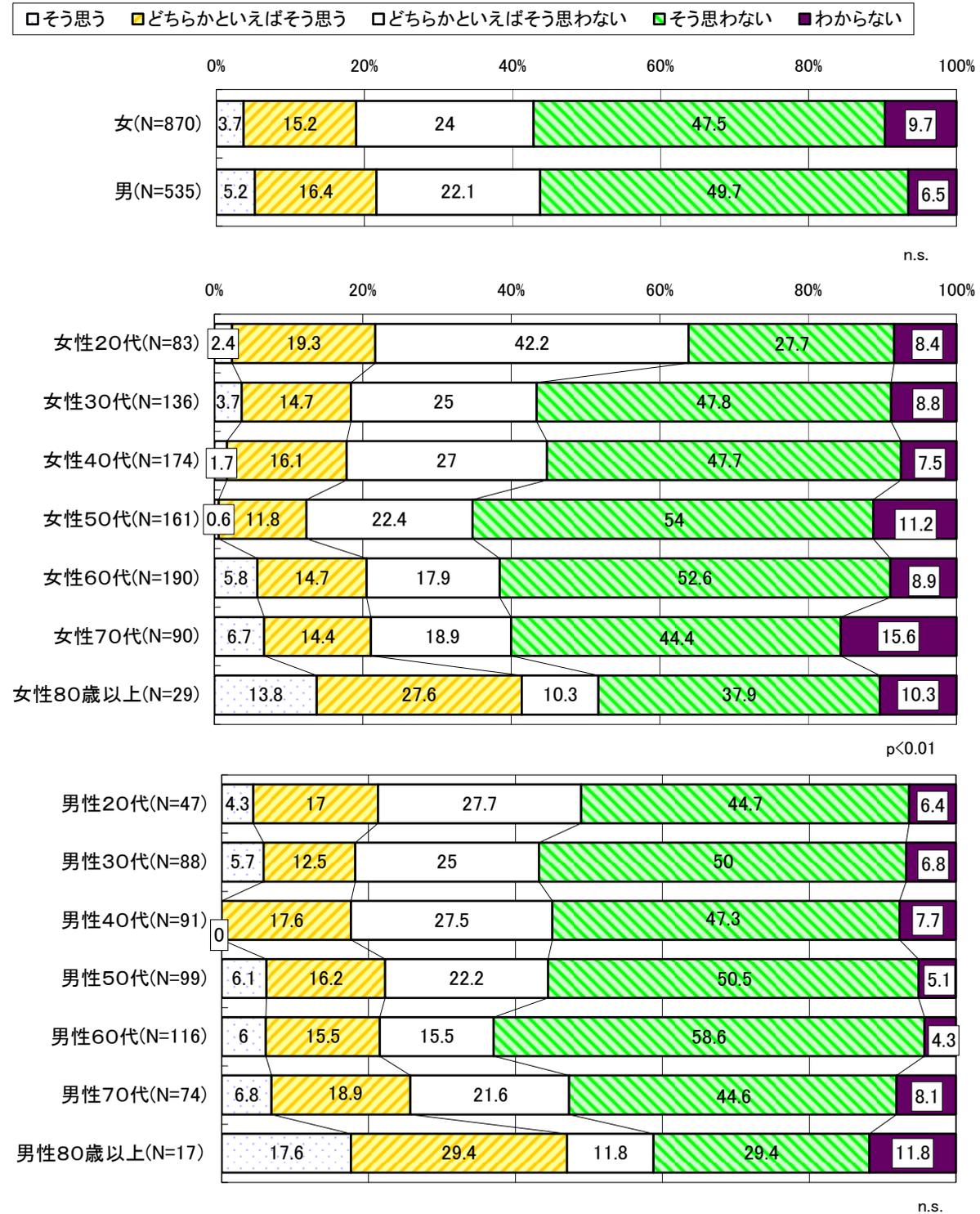
男女ともにすべての年代で『肯定派』が8割を超えている。

(e) 子どもを産むか産まないかは、最終的には女性自身の考えや判断を優先すべきである



性別・年代別にみると、女性はすべての年代で『肯定派』が『否定派』を上回っているのに対し、男性は、50歳代以上で『否定派』が『肯定派』を上回っている（男性80歳以上は同じ割合）。

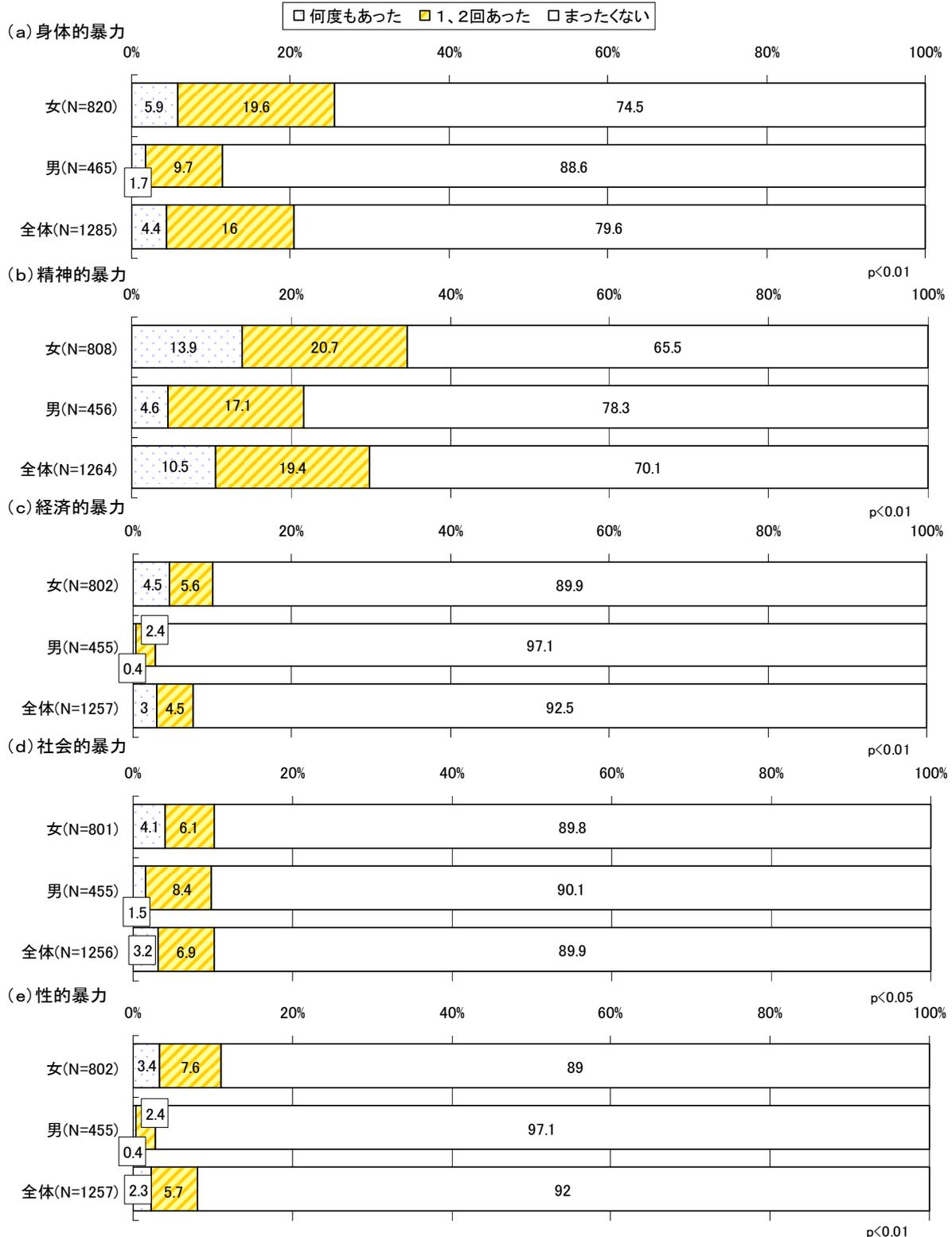
(f) 子どもを産むか産まないかは、パートナー以外の家族の意向も尊重すべきだ



全体的に『否定派』の割合が高くなっており、女性では50歳代、男性では30歳代で『否定派』が最も多くなっている。

VII 配偶者等からの暴力について

問 18 現在、配偶者・パートナーや恋人のいる方、または過去に配偶者・パートナーや恋人のいた方全員におたずねします。あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーや恋人関係にあった人から次の（a）から（e）のような行為を受けたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。



配偶者・パートナーや恋人がいる（いた）人に、配偶者・パートナーからの暴力（DV）を受けた経験について尋ねている。

「(a)身体的暴力」について、「何度もあった」と回答している女性は 5.9%、「1、2回あった」と回答している女性は 19.6%となっており、約 4 人に 1 人の女性が身体的暴力を受けた経験があることになる。これに対して、男性では「何度もあった」と回答したのは 1.7%、「1、2回あった」と回答したのは 9.7%である。

「(b)精神的暴力」について、「何度もあった」と回答している女性は 13.9%、「1、2回あった」と回答している女性は 20.7%となっており、34.6%の女性が精神的暴力を受けた経験がある。これに対して、21.7%の男性が精神的暴力を受けた経験があると回答している。

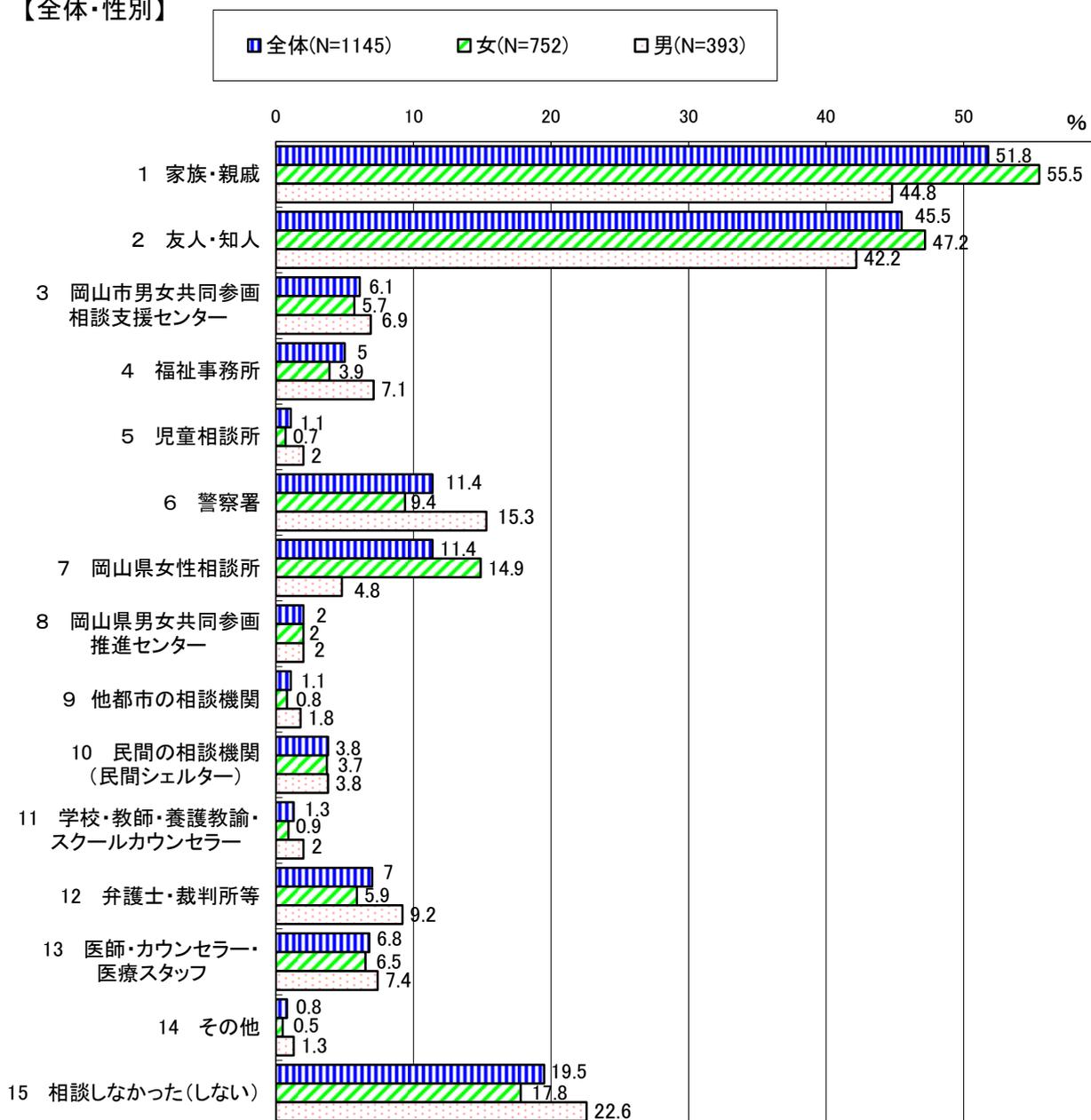
「(c)経済的暴力」について、「何度もあった」と回答している女性は 4.5%、「1、2回あった」と回答している女性は 5.6%となっているのに対し、男性では「何度もあった」と回答したのは 0.4%、「1、2回あった」と回答したのは 2.4%である。

「(d)社会的暴力」について、「何度もあった」と回答している女性は 4.1%、男性では 1.5%であるのに対し、「1、2回あった」と回答している女性は 6.1%、男性は 8.4%であり、「1、2回あった」ということに限定すると、女性よりも男性の方が社会的暴力を受けた経験が高くなっている。

「(e)性的暴力」について、「何度もあった」と回答している女性は 3.4%、「1、2回あった」と回答している女性は 7.6%となっており、11.0%の女性が性的暴力を受けた経験がある。これに対して、2.8%の男性が性的暴力を受けた経験があると回答している。

問 19 あなたが受けた問 18 の行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)
問 18 ですべての項目に「まったくない」と答えた方もその行為を受けた場合を想定してお答えください。

【全体・性別】



全体で見ると、回答した人の割合が多いものから順に「家族・親戚」(51.8%)、「友人・知人」(45.5%)、「相談しなかった(しない)」(19.5%)となっている。

男女ともに「相談しなかった(しない)」と回答した人の割合が、3番目に高くなっている。

【被害経験頻度別】

	何度もあった	1、2回あった	まったくない	全体
	N=179	N=305	N=677	N=1161
1 家族・親戚(N=603)	44.7	38.4	60.0	51.9
2 友人・知人(N=525)	41.9	37.4	49.6	45.2
3 岡山市男女共同参画相談支援センター(N=72)	1.1	1.6	9.6	6.2
4 福祉事務所(N=57)	1.1	2.3	7.1	4.9
5 児童相談所(N=13)	0	1.0	1.5	1.1
6 警察署(N=133)	1.7	3.9	17.4	11.5
7 岡山県女性相談所(N=133)	2.8	2.3	17.9	11.5
8 岡山県男女共同参画推進センター(N=24)	0.6	0.3	3.2	2.1
9 他都市の相談機関(N=14)	1.7	0.3	1.5	1.2
10 民間の相談機関(民間シェルター)(N=43)	1.1	1.3	5.5	3.7
11 学校・教師・養護教諭・スクールカウンセラー(N=15)	1.1	0.3	1.8	1.3
12 弁護士・裁判所等(N=81)	6.1	3.6	8.7	7.0
13 医師・カウンセラー・医療スタッフ(N=78)	3.9	3.3	9.0	6.7
14 その他(N=9)	2.2	0.3	0.6	0.8
15 相談しなかった(しない)(N=228)	34.1	37.0	8.0	19.6

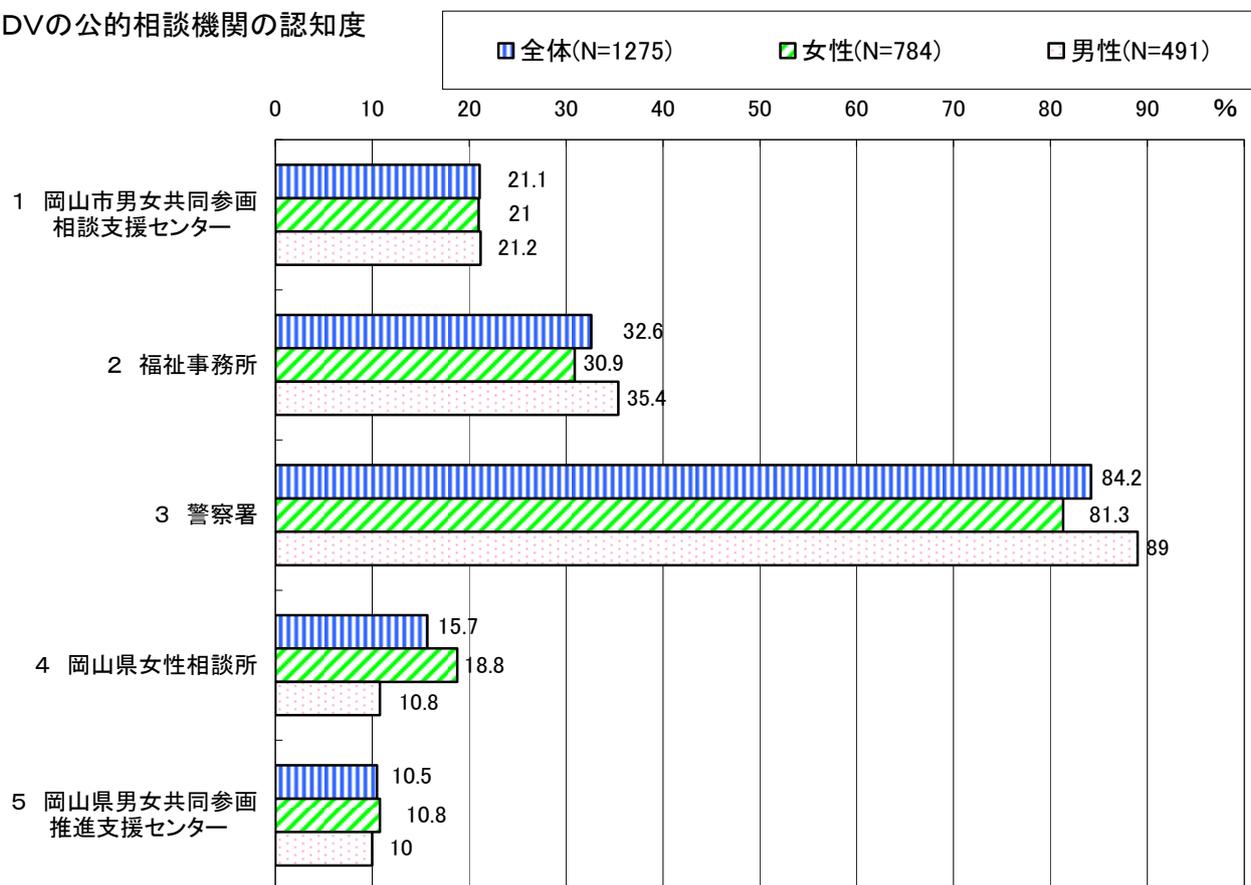
(%)

DV被害経験頻度別で見ると、DV被害が「何度もあった」と回答した人のうち、「相談しなかった」と回答した人は34.1%、また、「1、2回あった」と回答した人では37.0%の人が「相談しなかった」と回答している。一方、DV被害の経験がない人で「相談しない」と回答した人は8.0%にとどまっている。

実際にDV被害を経験した人は、誰にも相談せず、我慢している状況にあることが推測される。

問 20 配偶者からの暴力（DV*）についての公的相談機関として、市内には主に次のようなものがありますが、あなたはこれまでにDVの相談機関としてどれを知っていましたか。次のうち、知っているものを選んで数字に○をつけてください。（○はいくつでも）

DVの公的相談機関の認知度



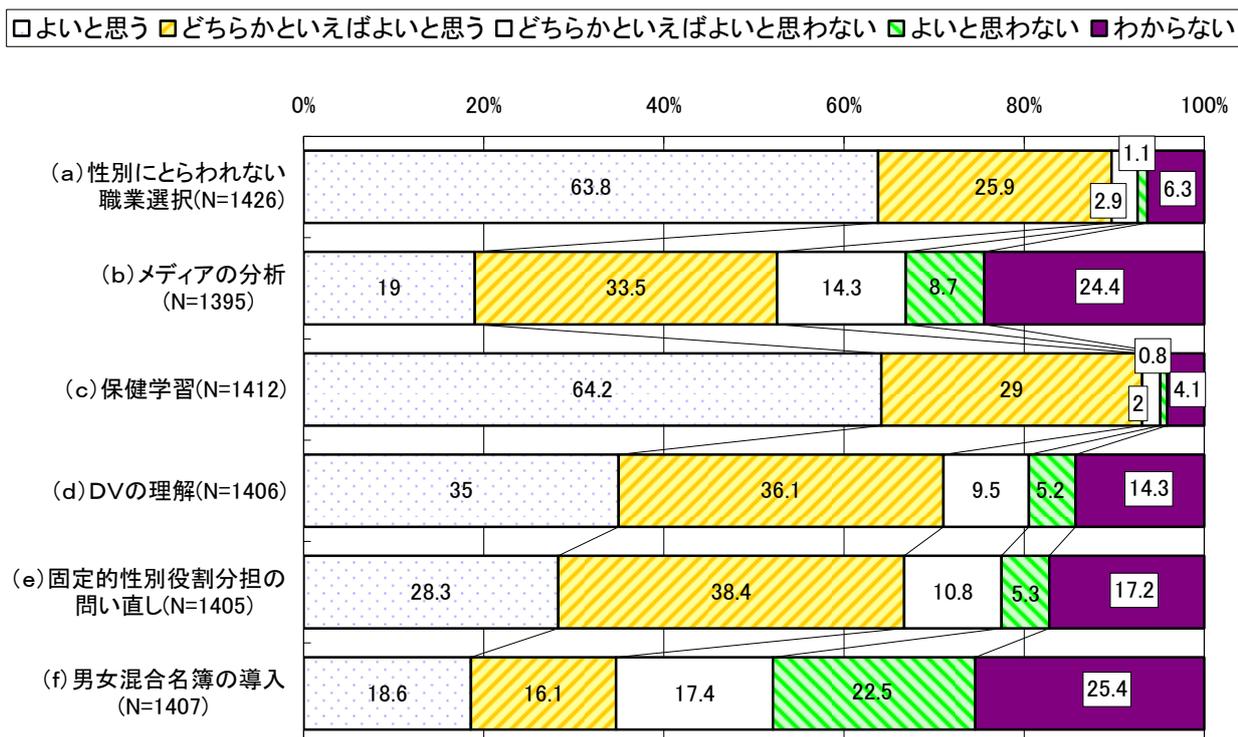
岡山市内にあるDVの公的相談機関の認知度について尋ねている。

認知度が最も高いのは、警察署で84.2%、次いで福祉事務所で32.6%となっている。DVの専門的な相談機関については、岡山市男女共同参画相談支援センターで21.1%、岡山県女性相談所で15.7%となっており、認知度は低い状況にある。

Ⅷ 学校教育について

問 21 市内の小中学校では、学校教育のあらゆる機会や場面を通して、児童・生徒の発達段階に応じた男女平等教育を推進していますが、あなたは次の（a）から（f）の取り組みについてどのように思いますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

【全体】

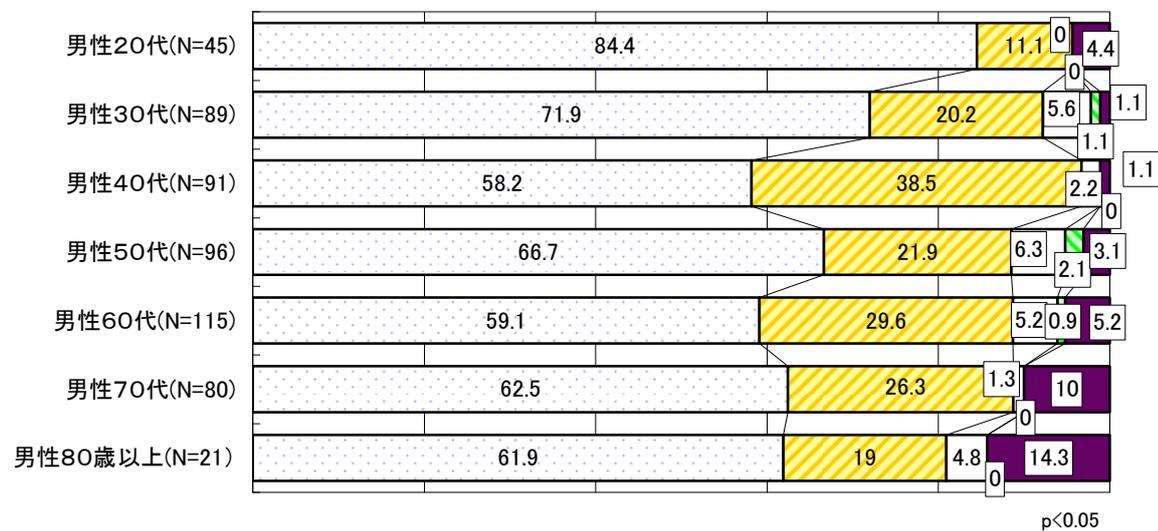
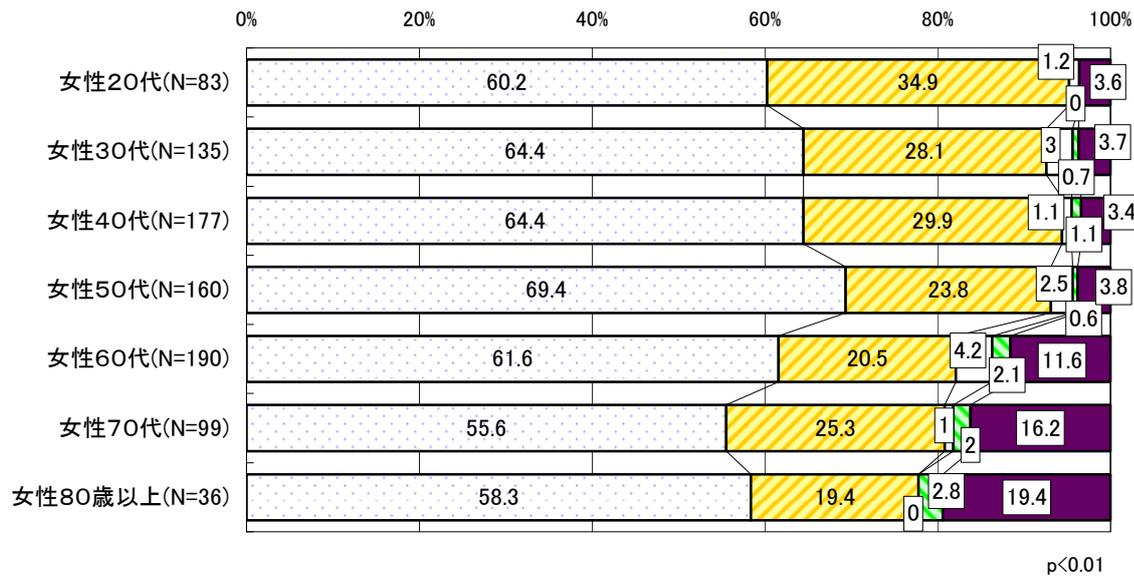
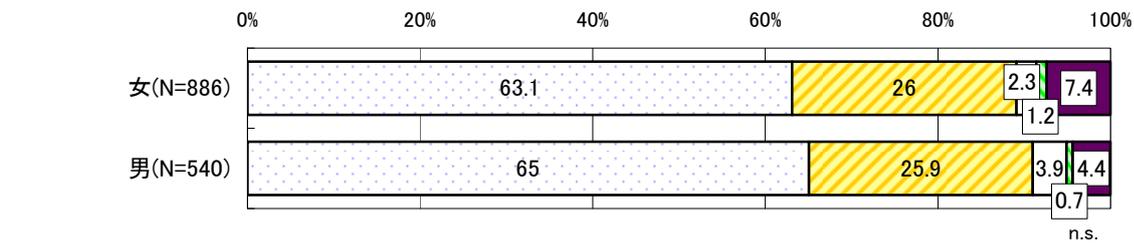


現在の男女平等教育について尋ねている。

「(a)性別にとらわれない職業選択」、「(b)メディア分析」、「(c)保健学習」、「(d)DV理解」、「(e)性別役割分担の問い直し」の項目で『肯定派』が『否定派』を上回っており、「(a)性別にとらわれない職業選択」については89.7%、「(c)保健学習」においては93.2%と『肯定派』が高くなっている。

(a) 性別にとらわれない職業選択

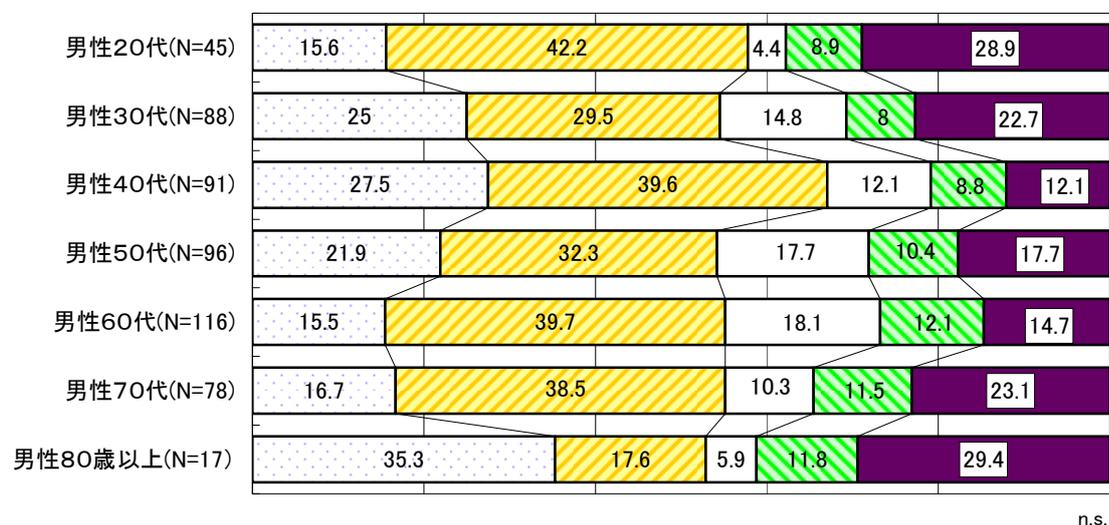
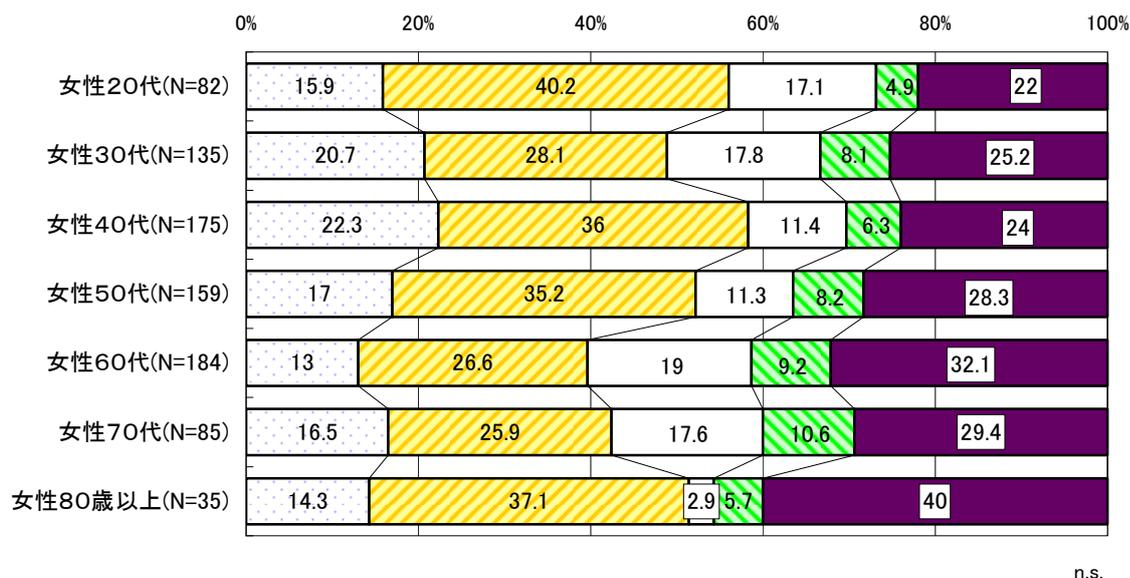
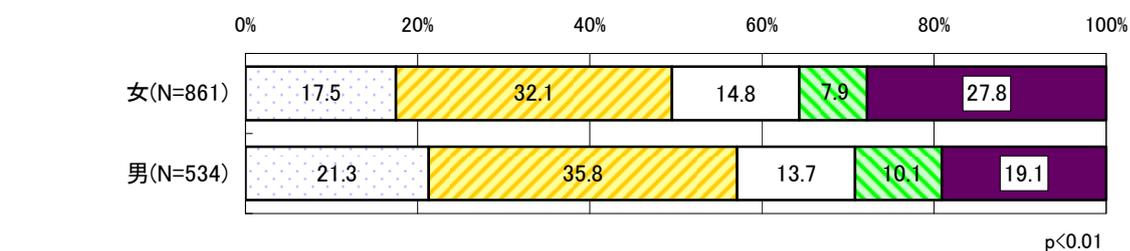
□よいと思う ▨どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ▨よいと思わない ■わからない



性別・年代別でみると、80歳以上の女性を除き男女ともにすべての年代で、『肯定派』が8割を超えている。

(b)メディアの分析

□よいと思う ▨どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ▨よいと思わない ■わからない

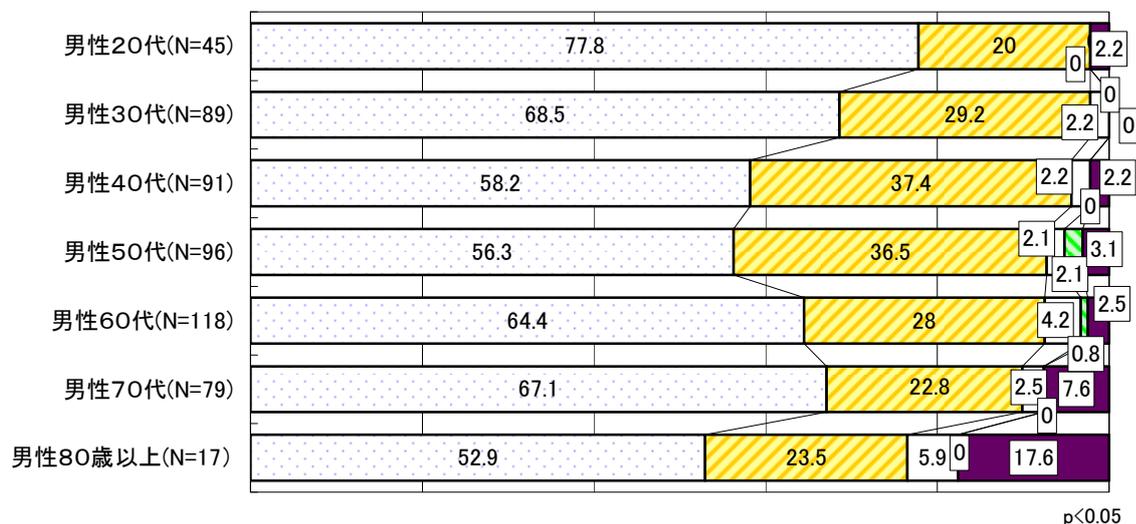
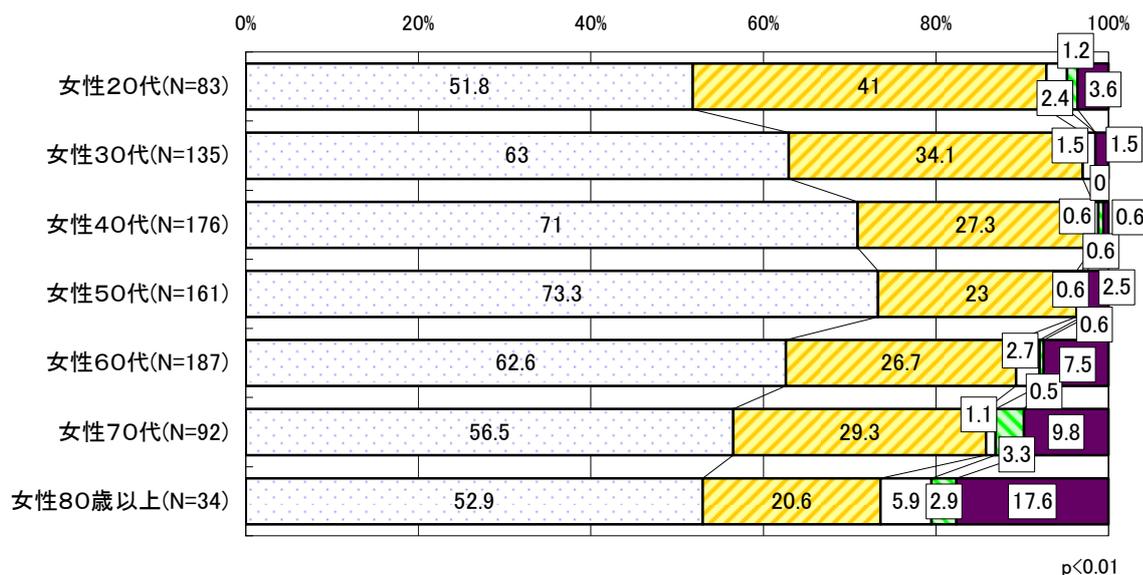
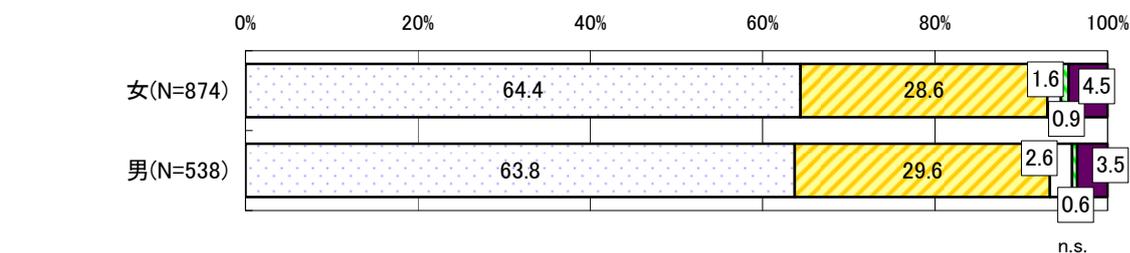


性別・年代別でみると、『肯定派』は、男女とも40歳代（女性58.3%、男性67.1%）で最も多く、女性では、60歳代で『肯定派』が39.6%と最も少なくなっている。

また、すべての年代において、男性の『肯定派』が、女性の『肯定派』の割合を上回っている。

(c) 保健学習

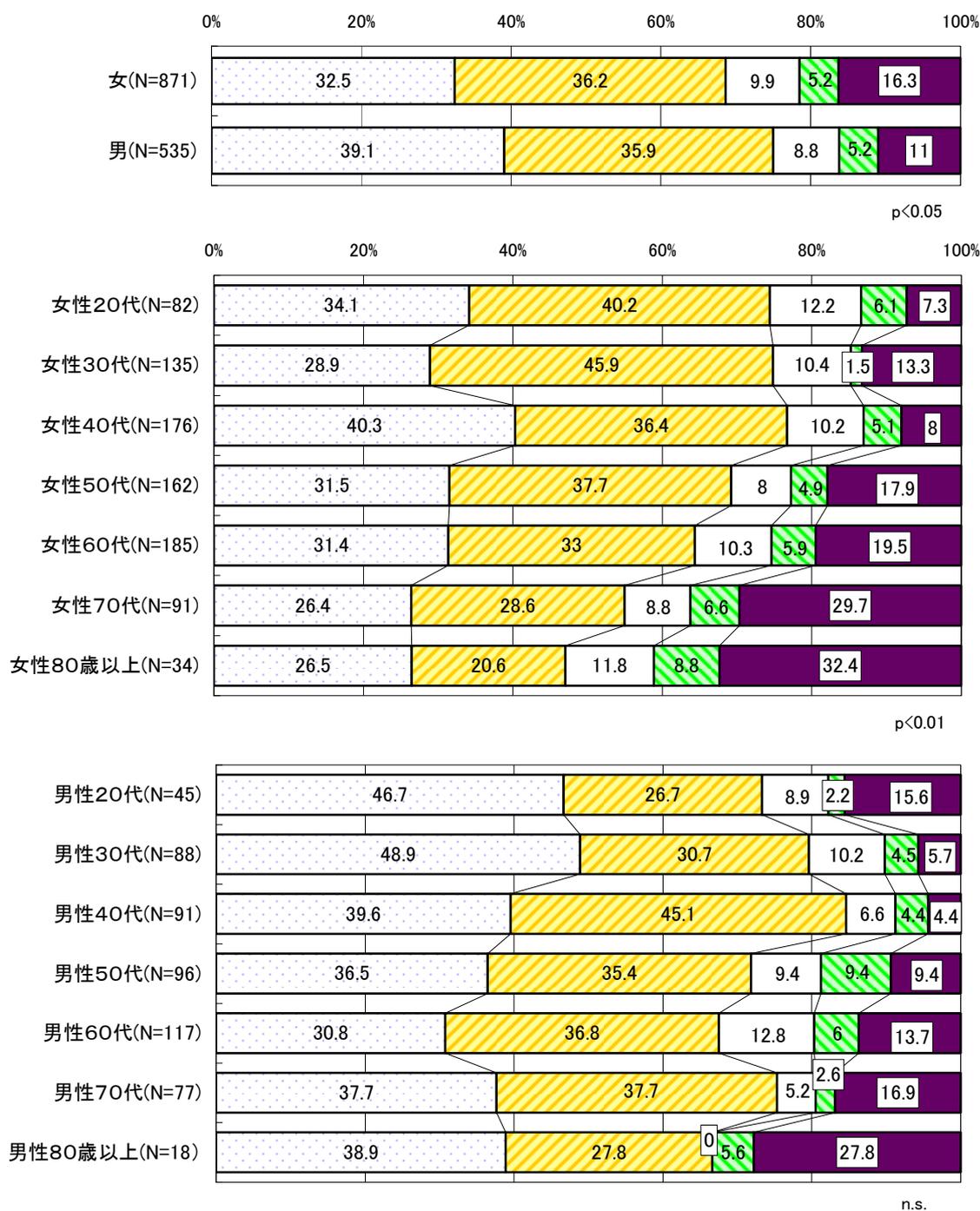
□よいと思う ▨どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ■よいと思わない ■わからない



性別・年代別でみると、男女とも 80 歳以上を除きすべての年代で『肯定派』が 8 割を超えている。女性の 50 歳代以下、男性の 60 歳代以下の年代では、『肯定派』が 9 割を超えている。

(d)DVの理解

□よいと思う ■どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ■よいと思わない ■わからない

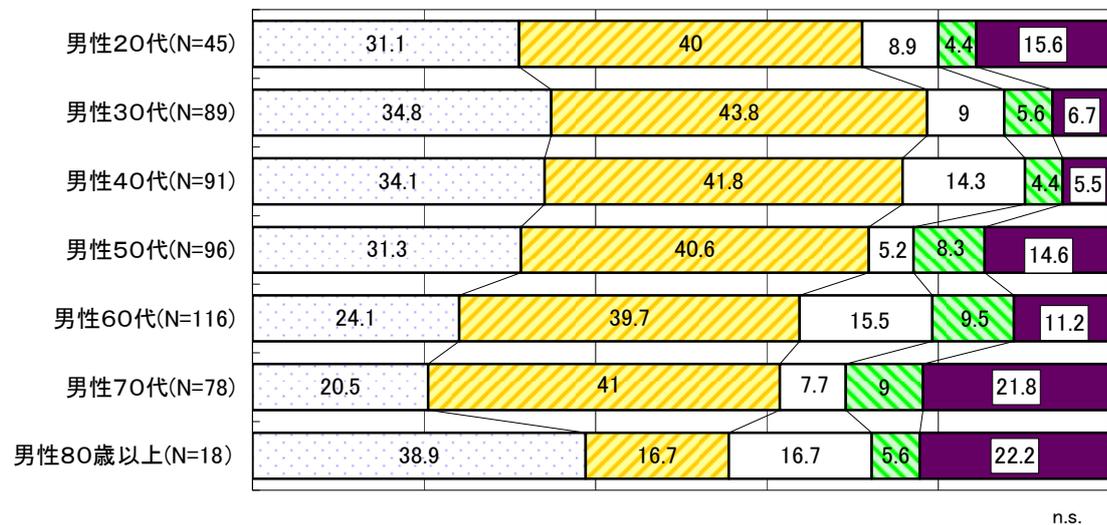
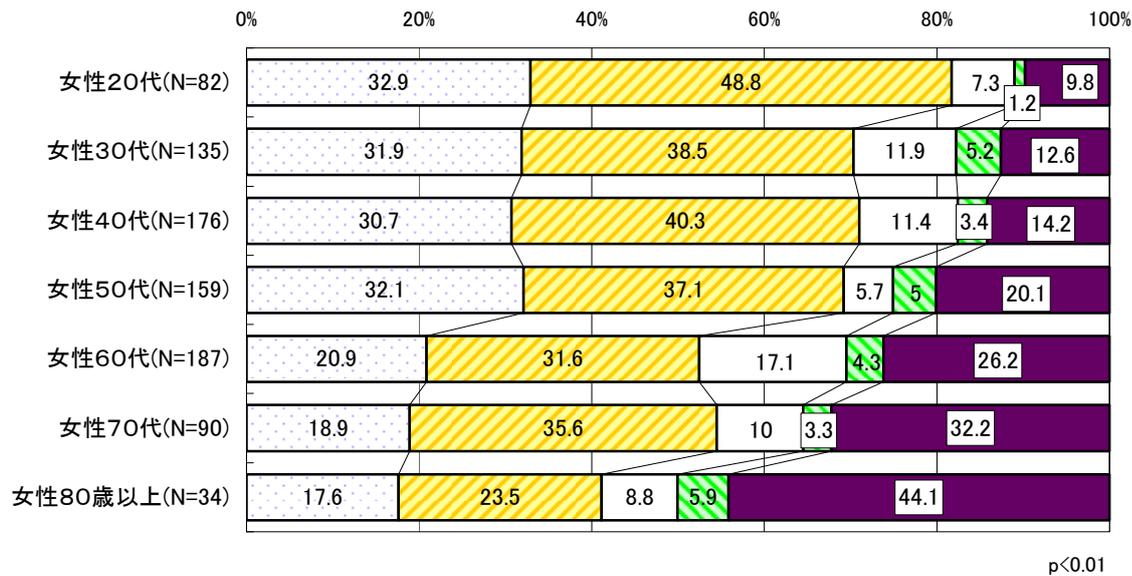
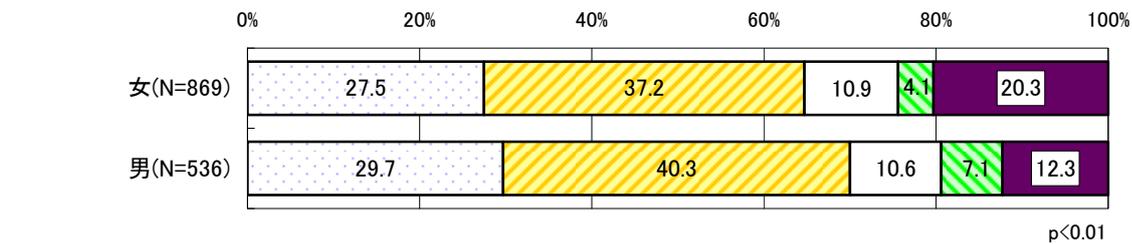


性別・年代別でみると、『肯定派』は、男女とも40歳代(女性76.7%、男性84.7%)で最も多く、20歳代を除き、男性の『肯定派』が女性の『肯定派』の割合を上回っている。

また、男女とも80歳以上で『肯定派』の割合が最も少なく、「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。

(e) 固定的性別役割分担の問い直し

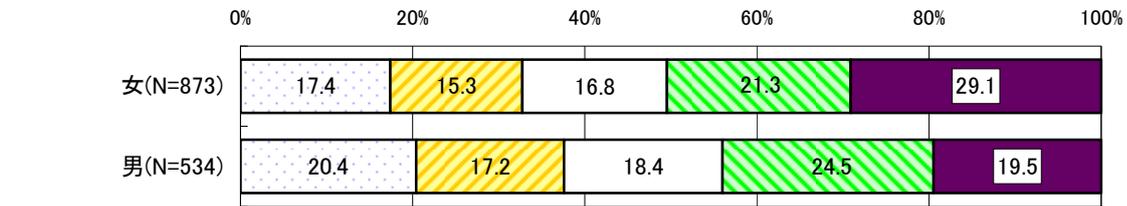
□よいと思う ▨どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ▨よいと思わない ■わからない



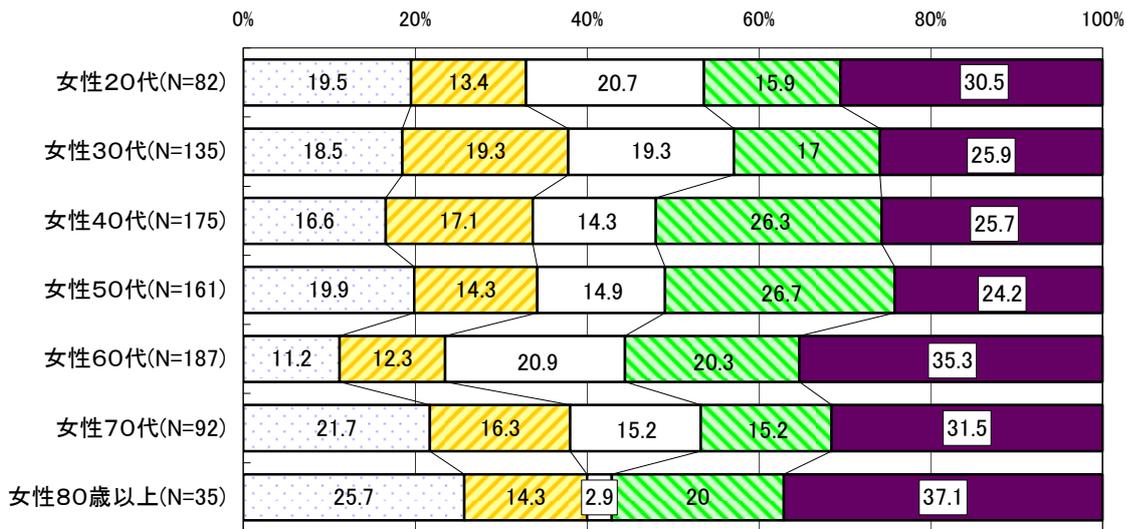
性別・年代別でみると、『肯定派』の割合が最も高いのは、女性では20歳代で81.7%、男性では30歳代で78.6%となっている。男性では20歳代を除き、若い世代になるほど『肯定派』の割合が高くなっているが、女性では80歳以上を除き、60歳代で『肯定派』が最も少なく、52.5%となっている。なお、80歳以上の女性については、「わからない」と回答した人が多くなっているものの、『否定派』は14.7%にとどまっている。

(f) 男女混合名簿の導入

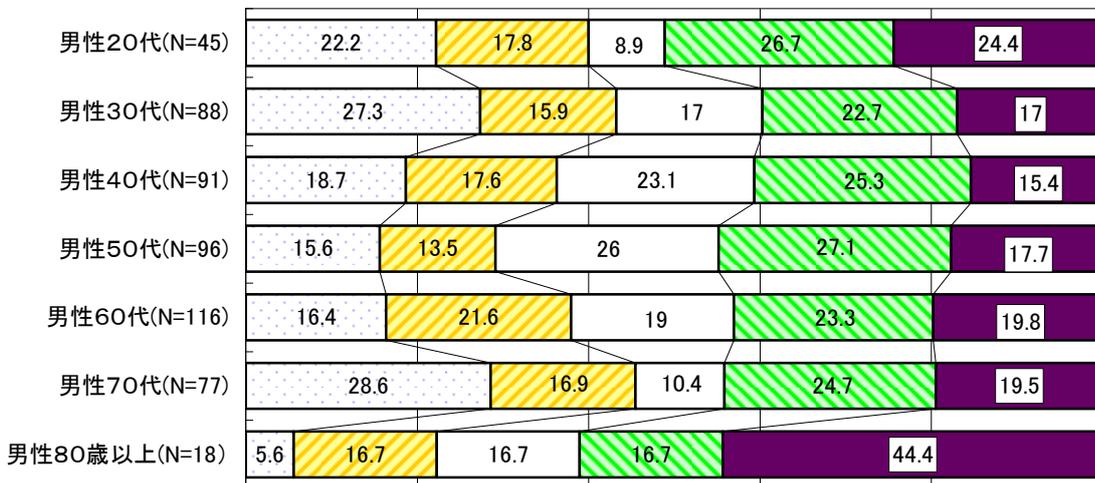
□よいと思う ▨どちらかといえばよいと思う □どちらかといえばよいと思わない ▨よいと思わない ■わからない



p<0.01



n.s.



n.s.

性別・年代別で見ると、女性は30歳代・70歳代以上で『肯定派』が『否定派』を上回り、男性は30歳代以下と70歳代で『肯定派』が『否定派』を上回っている。

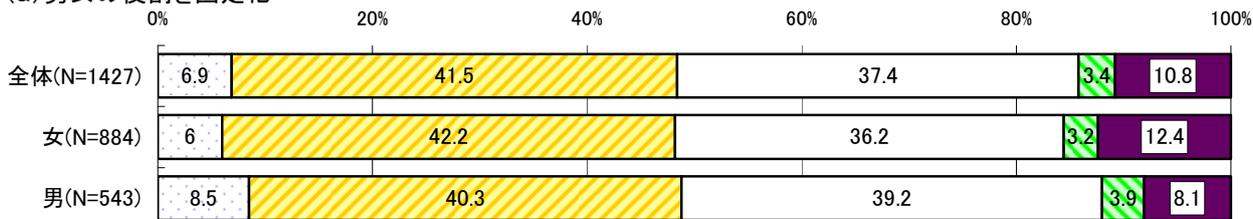
Ⅸ メディアを見る視点について

問 22 新聞、テレビ、インターネット上の広告や番組等を見て、あなたは次の (a) から (d) のように感じたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものを 1つだけ 選んで数字に○をつけてください。

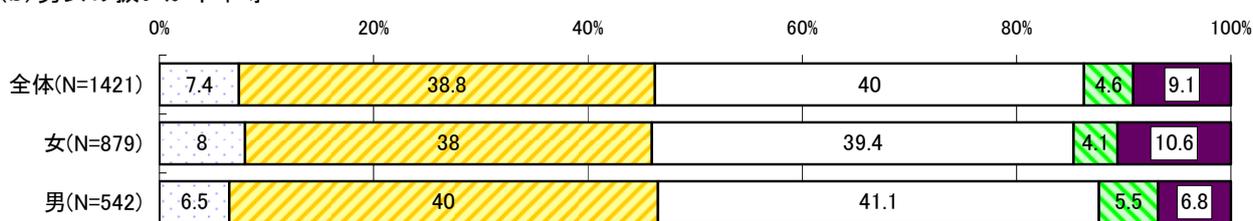
【全体・性別】

□よく感じる □ときどき感じる □あまり感じたことはない □まったく感じたことはない ■わからない

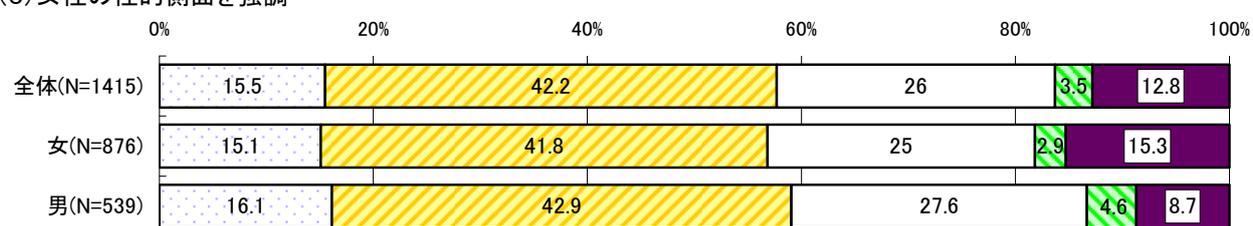
(a) 男女の役割を固定化



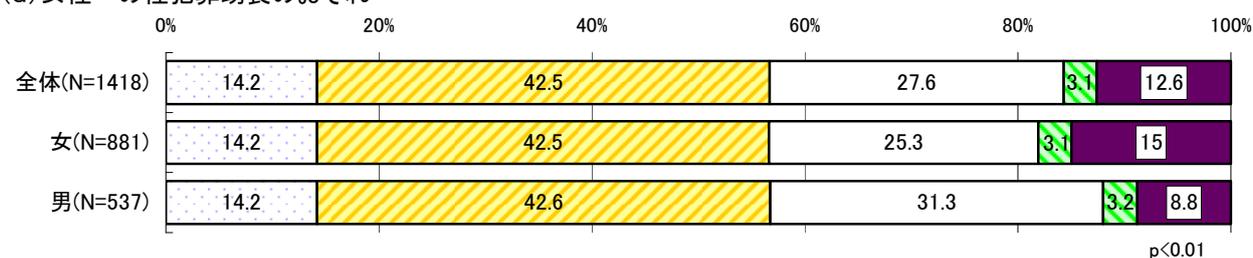
(b) 男女の扱いが不平等



(c) 女性の性的側面を強調



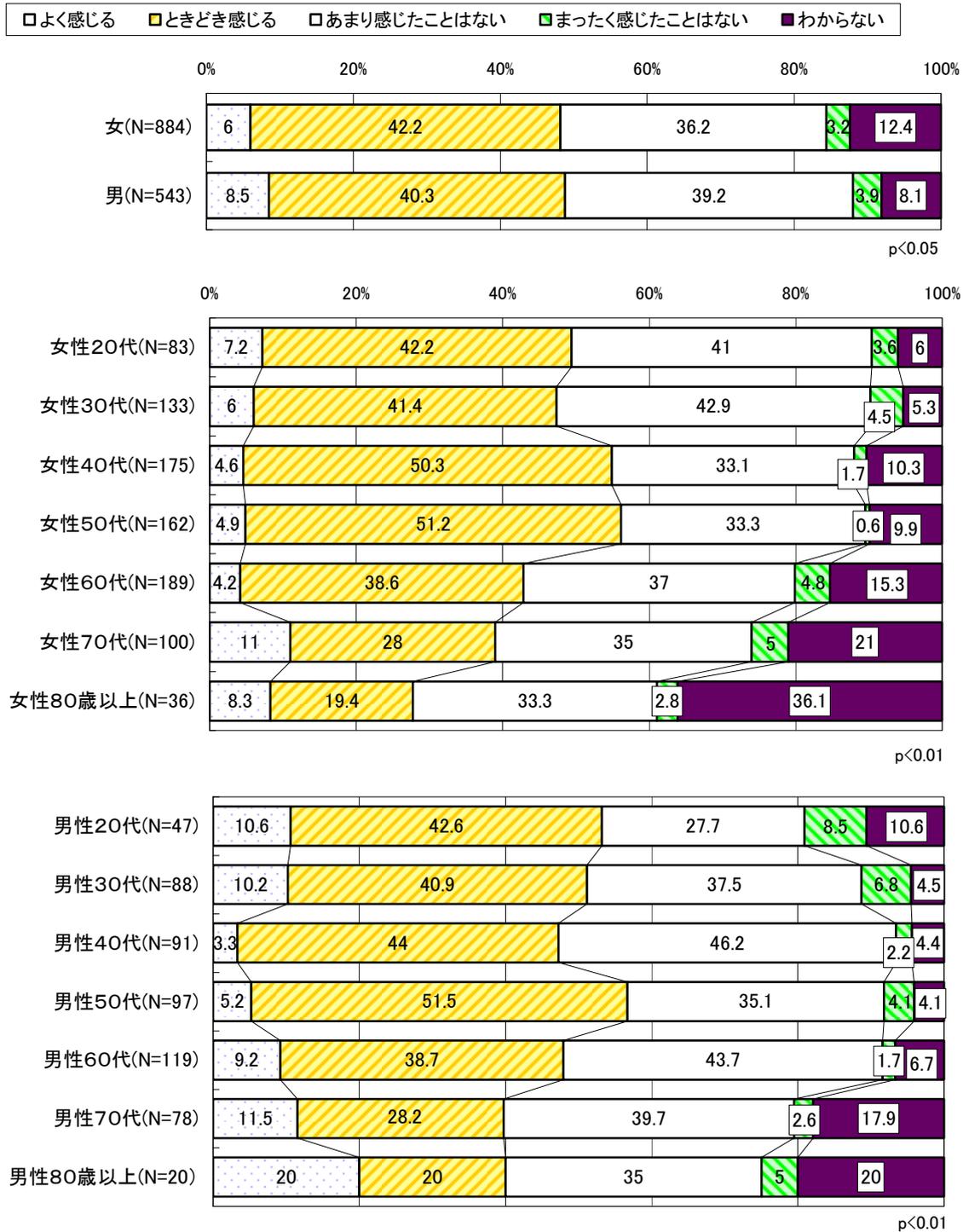
(d) 女性への性犯罪助長のおそれ



新聞、テレビ、インターネットなどのメディアにおいて性差別的表現を感じたことがあるかどうかを尋ねている。「よく感じる」「ときどき感じる」を『感知派』、「あまり感じたことはない」「まったく感じたことはない」を『不感知派』と定義すると、「(a)男女の役割を固定化」、「(b)男女の扱いが不平等」、「(c)女性の性的側面を強調」、「(d)女性への性犯罪助長のおそれ」の全項目で『感知派』が『不感知派』を上回っている。

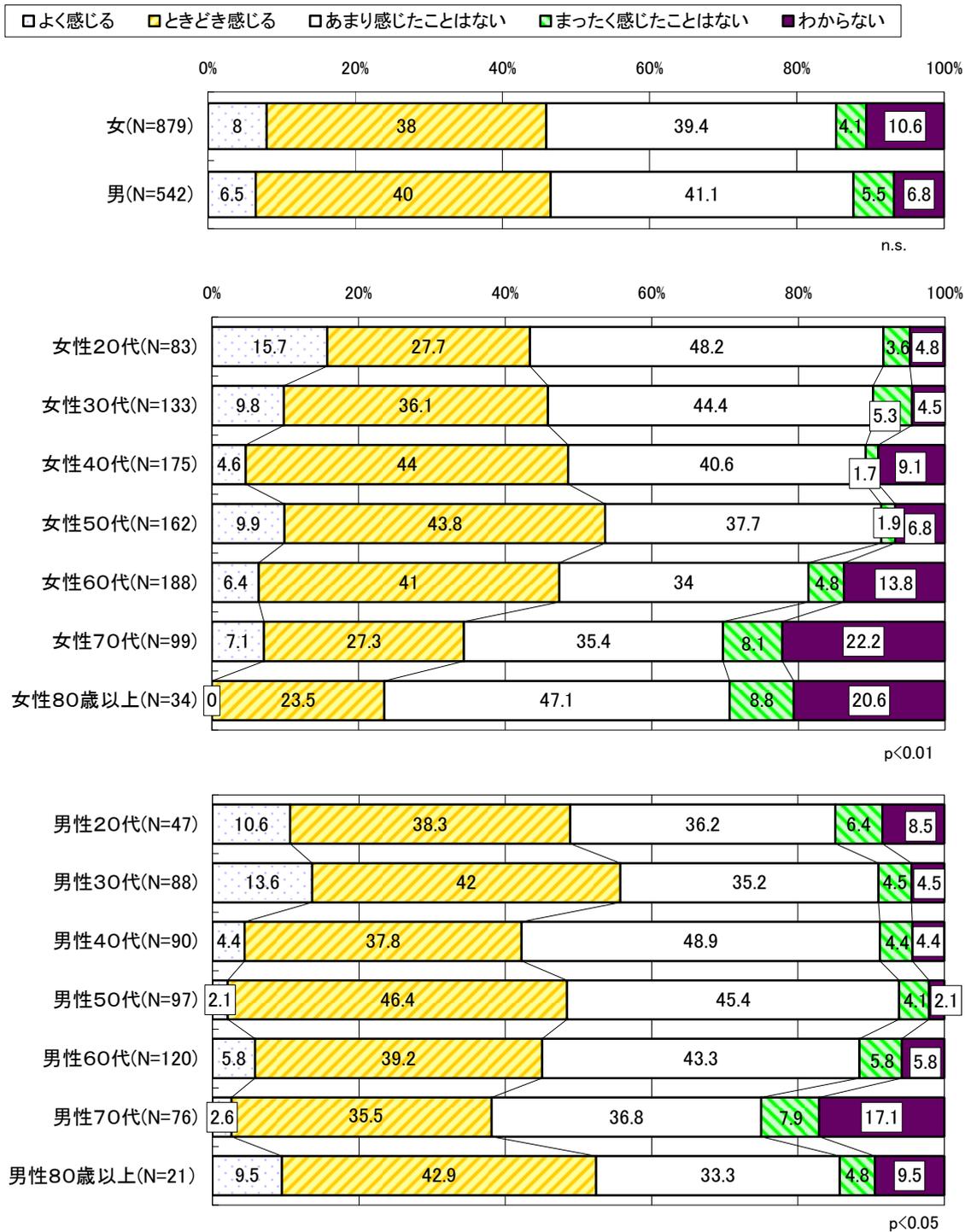
性別で見ると、「(b)男性と女性を対等に扱っていない」項目についてのみ、男性で、『不感知派』が『感知派』を0.1ポイント上回っているものの、その他の項目では、男女とも『感知派』の割合が高くなっている。

(a) 女性や男性の役割を固定的にとらえている



性別・年代別でみると、男性の40歳代を除き、男女とも60歳代以下で『感知派』が『不感知派』を上回っている（女性30歳代は同じ割合）。

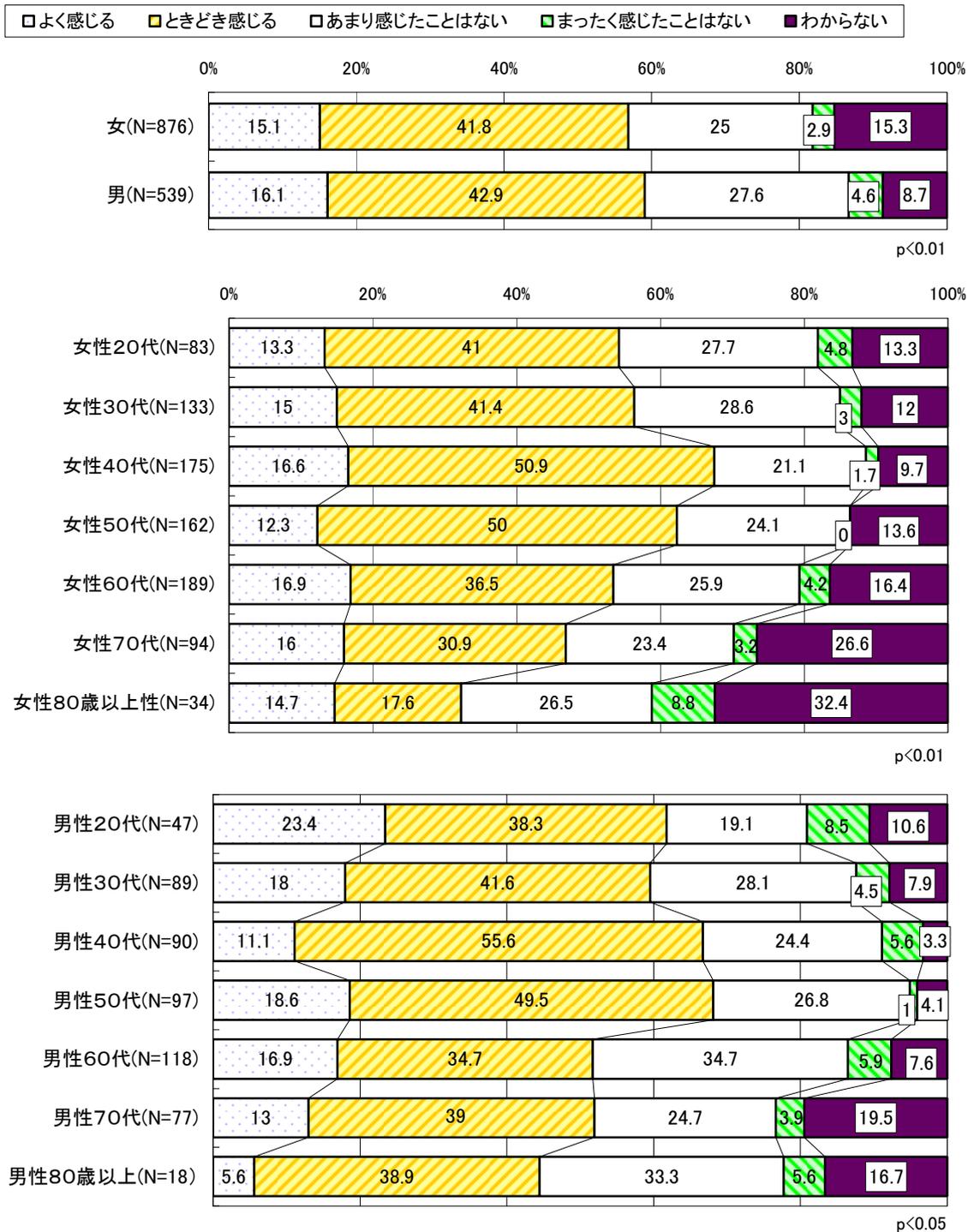
(b) 男性と女性を対等に扱っていない



性別・年代別でみると、『感知派』が『不感知派』を上回っているのは、女性では、40歳代から60歳代で、男性では、30歳代以下と80歳以上である。

『感知派』の割合が最も高いのは、女性では50歳代で53.7%、男性では30歳代で55.6%となっている。

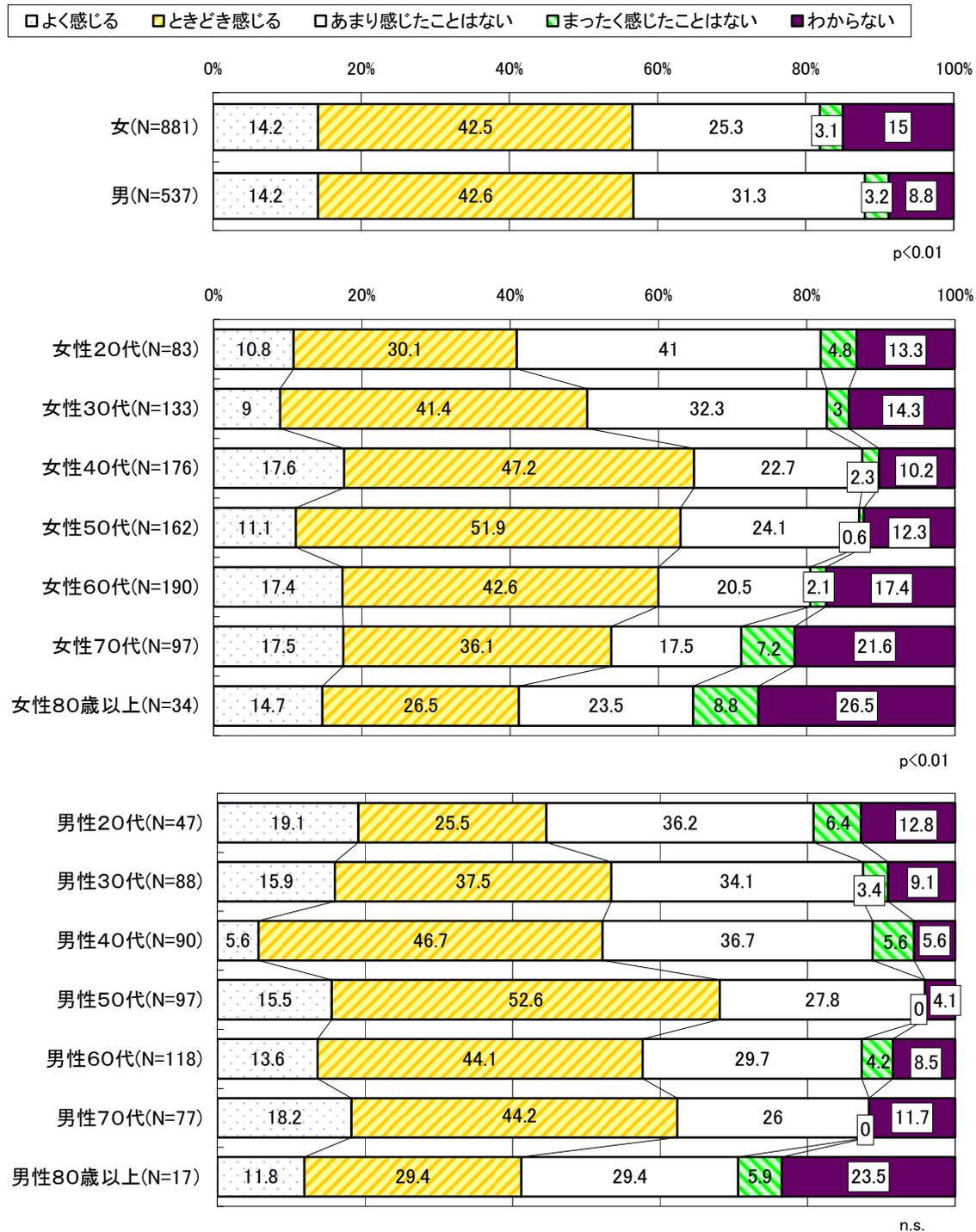
(c) 女性の性的側面を強調している



性別・年代別でみると、『感知派』の割合が最も高いのは、女性では40歳代で67.5%、男性では50歳代で68.1%となっており、80歳以上の女性を除きすべての年代で『感知派』が『不感知派』を上回っている。なお、80歳以上の女性については、「わからない」と回答した人が32.4%となっている。

また、40歳代・60歳代を除く各年代で、男性の『感知派』が女性の『感知派』を上回っている。

(d) 女性に対する性犯罪を助長するおそれがある



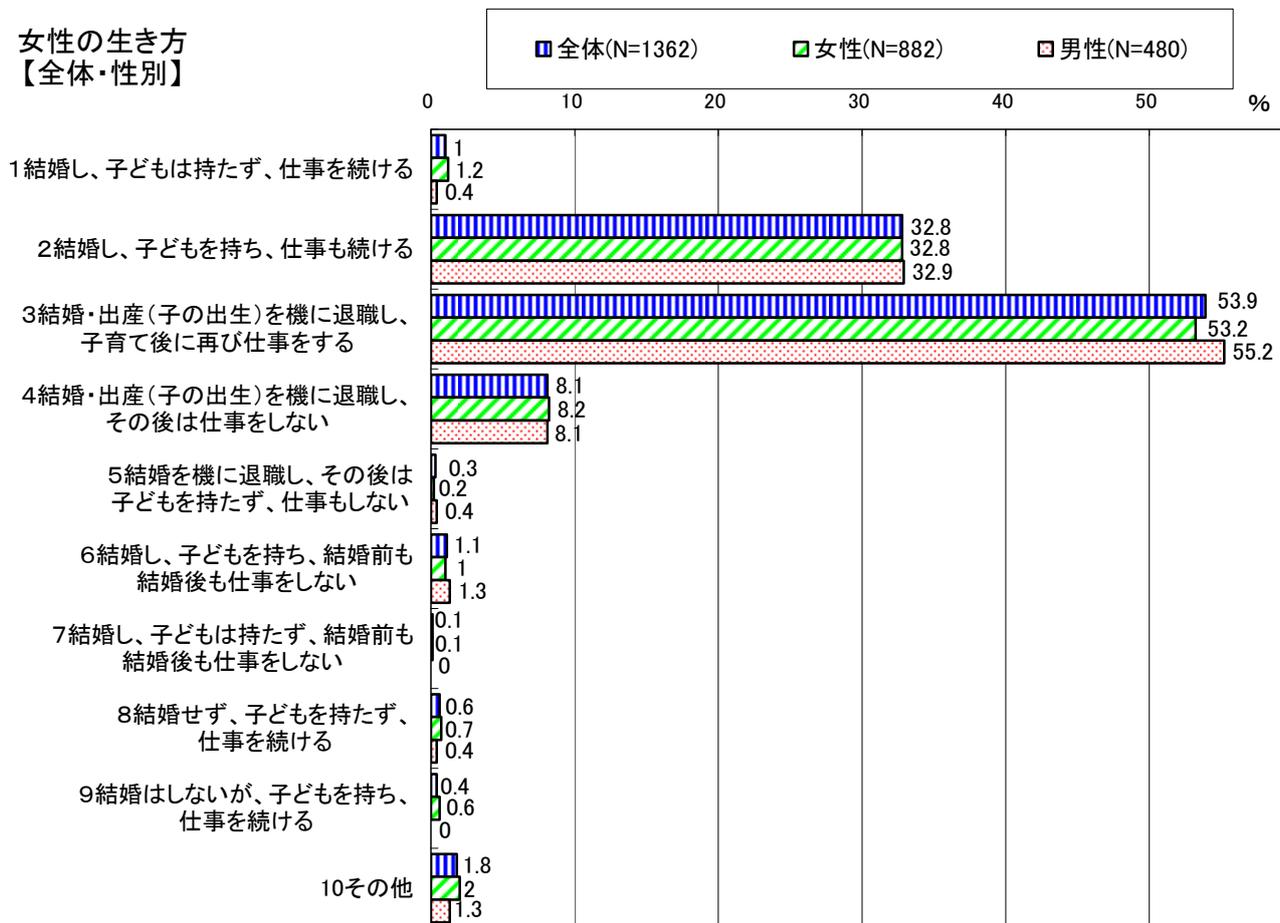
性別・年代別でみると、『感知派』の割合が最も高いのは、女性では40歳代で64.8%、男性では50歳代で68.1%となっている。

また、20歳代の女性においてのみ、『不感知派』が『感知派』を上回っている。

X 理想的な生き方について

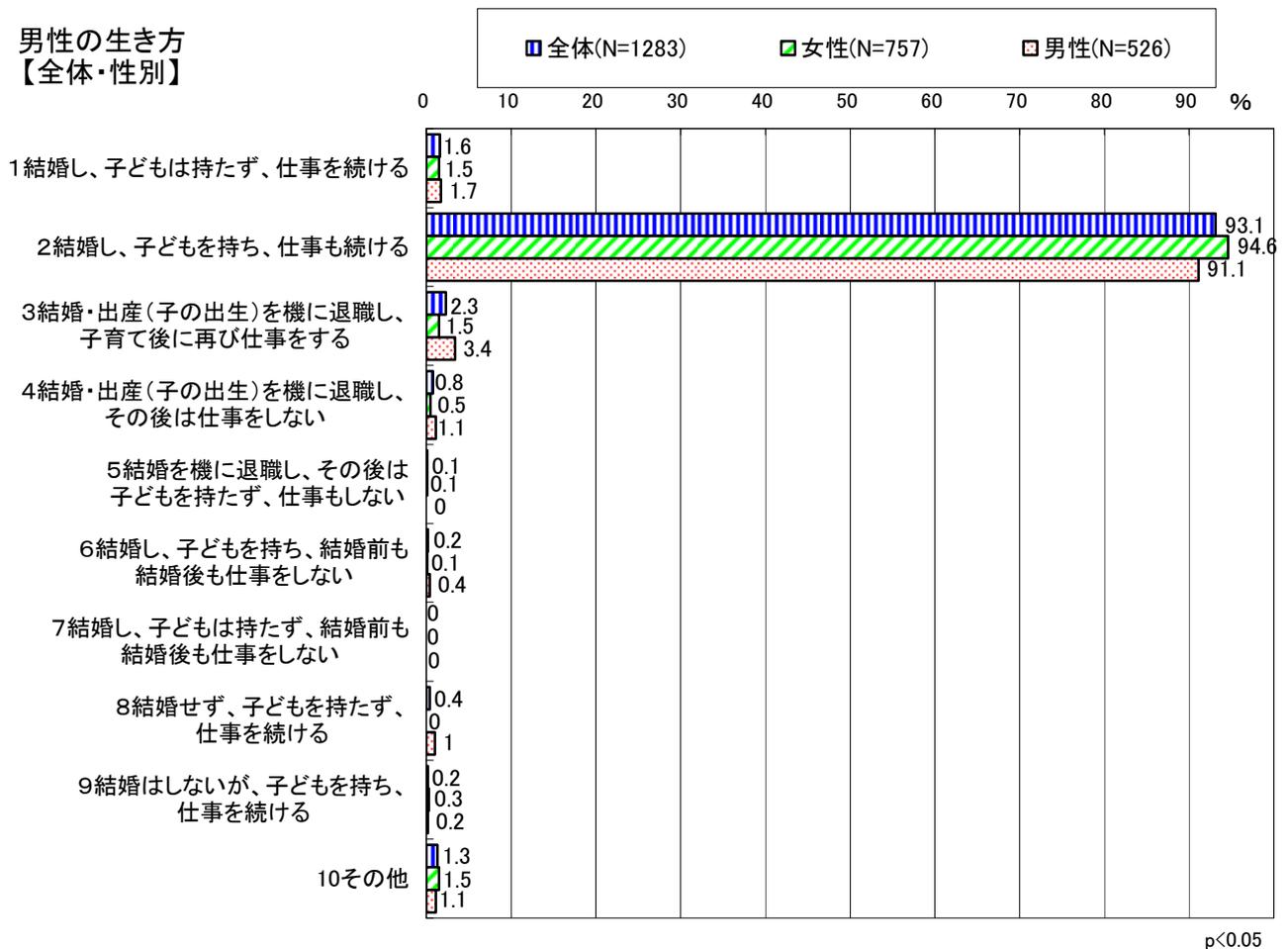
問 23 「女性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものを1～10の中から1つだけ選んで数字に○をつけてください。また、「男性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものを1～10の中から1つだけ選んで数字に○をつけてください。
「女性の生き方」「男性の生き方」の両方にお答えください。

女性の生き方
【全体・性別】



n.s.

男性の生き方 【全体・性別】



人生で、結婚（事実婚を含む）、子ども、仕事に対して、どのような選択をするかを類型化し、「女性の生き方」と「男性の生き方」で理想に最も近いものを尋ねている。

「女性の生き方」について全体で見ると、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする」（結婚・出産退職後再就労型）（53.9%）と回答した人の割合が高く、次いで「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」（両立・就労継続型）（32.8%）となっている。その他の選択肢の中で比較的多かったのは「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない」（結婚・出産退職型）であるが 8.1%にとどまっている。

性別で見ると、男女間に顕著な違いはみられないが、結婚・出産退職後再就労型の生き方を支持したのは、女性の割合（53.2%）よりも男性の割合（55.2%）の方が高くなっている。

「男性の生き方」について全体で見ると、「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」（両立・就労継続型）が 93.1%と圧倒的な支持を得ている。

「女性の生き方」「男性の生き方」のどちらも、結婚し、子どもを持ち、継続あるいは子育て後の違いはあるものの、仕事をすることを理想としている。

【性別×勤務形態別】

		1 続ける 結婚し、 子どもは 持たず、 仕事を	2 ける 結婚し、 子どもを 持ち、 仕事も 続	3 し、結 は出婚 産し、 子育て 後の子 に出生 を(再)も 仕事機 を(を)持 する)ち、 結婚 また	4 し、結 は出婚 産し、 その後 は子の 出生を し(を)機 ないに 結婚 また	5 も結 を婚 持機 たを ず退 、職 仕事し、 もその しは ない子 ど	6 結婚 後し、 も子 仕事ど をしも しない持 ち、 結婚 前も	7 も結 婚婚 後し、 も子 仕事ど をしも 持たず、 結婚 前	8 を結 婚婚 せず、 を子 続ど けるも 、持 たず、 仕事	9 仕事 を結 婚婚 はし 続不 けるい が、 子 ども を 持 ち、	10 その 他
女性	経営者・役員(N=18)	5.6	33.3	38.9	11.1	0	0	0	0	5.6	5.6
	常時雇用(フルタイム)(N=160)	2.5	50.6	36.9	6.3	0	0	0	1.3	0.6	1.9
	臨時雇用・パートタイム(N=207)	1.4	30.4	58.9	6.8	0	0.5	0	1.0	0	1.0
	派遣社員(N=10)	10.0	30.0	50.0	0	0	0	0	0	0	10.0
	自営業・自由業(N=40)	0	22.5	62.5	12.5	0	0	0	0	0	2.5
	家族従事者(N=30)	0	26.7	53.3	13.3	0	3.3	0	0	0	3.3
	内職・その他(N=20)	0	55.0	40.0	0	0	0	0	0	0	5.0
	無職(N=350)	0.6	24.9	59.1	9.7	0.3	1.7	0.3	0.6	0.9	2.0
	全体(N=835)	1.3	32.1	53.8	8.3	0.1	1.0	0.1	0.7	0.6	2.0
男性	経営者・役員(N=38)	2.6	26.3	47.4	15.8	2.6	5.3	0	0	0	0
	常時雇用(フルタイム)(N=224)	0.4	33.0	57.1	6.7	0	0.4	0	0	0	2.2
	臨時雇用・パートタイム(N=27)	0	14.8	66.7	11.1	0	3.7	0	0	0	3.7
	派遣社員(N=9)	0	33.3	55.6	11.1	0	0	0	0	0	0
	自営業・自由業(N=51)	0	39.2	52.9	7.8	0	0	0	0	0	0
	家族従事者(N=5)	0	40.0	40.0	20.0	0	0	0	0	0	0
	内職・その他(N=13)	0	15.4	76.9	7.7	0	0	0	0	0	0
	無職(N=108)	0	38.9	49.1	7.4	0.9	1.9	0	1.9	0	0
	全体(N=475)	0.4	33.1	54.9	8.2	0.4	1.3	0	0.4	0	1.3

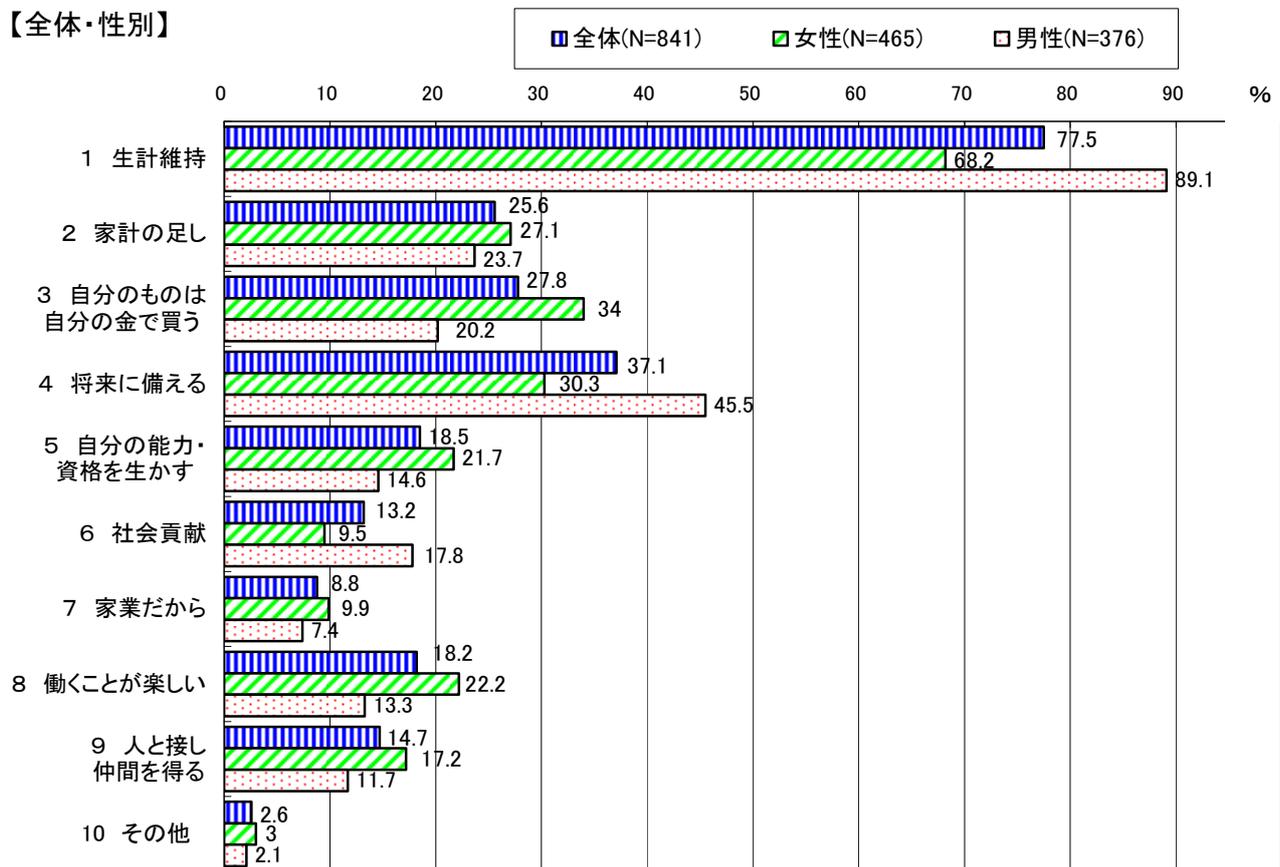
(%)

「女性の生き方」の理想について性別・勤務形態別で見ると、女性では、常時雇用(フルタイム)、内職・その他で「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」と回答した人の割合が他の勤務形態の人よりも高く、いずれも5割を超えている。

XI 職業・職場について

問27 問24の「あなた自身」の欄で、1から7を選んだ方におたずねします。あなたが働いている主な理由は何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで数字に○をつけてください。

【全体・性別】



ここでは、問24にある「あなた自身の勤務形態」のうち、(a)経営者・役員、(b)常時雇用（フルタイム）、(c)臨時雇用・パートタイム、(d)派遣社員、(e)自営業者・自由業、(f)家族従業者、(g)内職を選んだ人、つまり「有職者」を対象に、働く理由を尋ねている。

全体で見ると、「あなたが働いている主な理由」としては、「生計を維持するため」(77.5%)、「老後など将来に備えて」(37.1%)、「自分のものは自分のお金で買うため」(27.8%)、「子どもの学資など家計の足しにするため」(25.6%)など、生活や家計の維持に関する項目が上位を独占し、次に「自分の能力や資格を生かすため」(18.5%)、「働くことが楽しいから」(18.2%)、「人と接したり仲間を得るため」(14.7%)など働くことの自己実現に関わる項目となっている。

性別で見ると、男性は「生計を維持するため」(89.1%)、次いで「老後など将来に備えて」(45.5%)、「子どもの学資など家計の足しにするため」(23.7%)など生活や家計維持に関わることを働く理由に挙げている。一方女性では、「生計を維持するため」(68.2%)が一番多いものの、「自分のものは自分のお金で買うため」(34.0%)、「老後など将来に備えて」(30.3%)、「子どもの学費など家計の

足しにするため」(27.1%)、「働くことが楽しいから」(22.2%)、「自分の能力や資格を生かすため」(21.7%)、「人と接したり仲間を得るため」(17.2%) など様々な理由が挙げられている。

【性別×年代別】

		1 生 計 を 維 持 す る た め	2 子 ど も に も の 学 資 な ど 家 計 の た め	3 自 分 の も の は 自 分 の お 金 で 買 う た め	4 老 後 な ど 将 来 に 備 え て	5 自 分 の 能 力 や 資 格 を 生 か す た め	6 社 会 に 貢 献 す る た め	7 家 業 で あ る か ら	8 働 く こ と が 楽 し い か ら	9 人 と 接 し た り 仲 間 を 得 る た め	10 そ の 他
女性	20代(N=52)	76.9	21.2	63.5	21.2	28.8	11.5	0	17.3	15.4	5.8
	30代(N=85)	76.5	35.3	40.0	24.7	18.8	8.2	0	23.5	18.8	7.1
	40代(N=130)	67.7	48.5	28.5	27.7	21.5	10.8	6.9	16.9	13.1	0
	50代(N=103)	64.1	17.5	29.1	34.0	23.3	9.7	10.7	24.3	20.4	2.9
	60代(N=70)	70.0	4.3	24.3	41.4	20.0	7.1	25.7	24.3	15.7	2.9
	70代(N=19)	31.6	5.3	26.3	31.6	15.8	10.5	26.3	42.1	31.6	0
	80歳以上(N=3)	33.3	0	0	66.7	33.3	0	100.0	33.3	0	0
	全体(N=462)	68.2	27.3	33.8	30.3	21.9	9.5	10.0	22.1	17.1	3.0
男性	20代(N=31)	90.3	12.9	45.2	29.0	19.4	9.7	0	16.1	12.9	0
	30代(N=81)	91.4	32.1	27.2	43.2	9.9	14.8	1.2	14.8	14.8	6.2
	40代(N=81)	98.8	37.0	11.1	50.6	14.8	25.9	1.2	4.9	7.4	1.2
	50代(N=83)	92.8	25.3	18.1	48.2	16.9	22.9	6.0	9.6	10.8	0
	60代(N=77)	83.1	10.4	15.6	53.2	16.9	10.4	13.0	18.2	15.6	2.6
	70代(N=18)	50.0	0	22.2	16.7	11.1	16.7	38.9	33.3	5.6	0
	80歳以上(N=4)	50.0	0	0	50.0	0	0	100.0	25.0	0	0
	全体(N=375)	89.1	23.7	20.3	45.6	14.7	17.6	7.5	13.3	11.7	2.1

(%)

性別・年代別で見ると、50歳代以下で「生計を維持するため」と答えた男性が9割を超えているのに対し、女性では20歳代が最も高いものの76.9%である。

男性の40歳代では、「生計を維持するため」と回答した人の割合が最も高く、98.8%となっている一方で、「自分のものは自分のお金で買うため」を理由として挙げた割合は、80歳以上を除く他の年代の人に比べて最も低く、11.1%となっている。

また、「働くことが楽しいから」を理由とした人は、男女とも70歳代(女性42.1%、男性33.3%)が最も高く、40歳代(女性16.9%、男性4.9%)で最も低くなっている。

【勤務形態別】

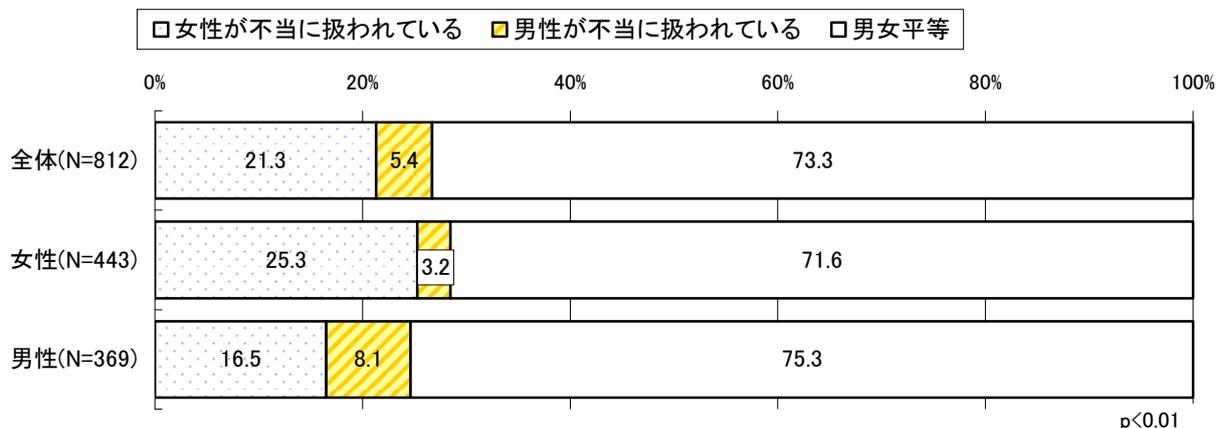
	1 生計を維持するため	2 子どもの学資など家計の足しにするため	3 自分のものは自分のお金で買うため	4 老後など将来に備えて	5 自分の能力や資格を生かすため	6 社会に貢献するため	7 家業であるから	8 働くことが楽しいから	9 人と接したり仲間を得るため	10 その他
経営者・役員(N=62)	69.4	6.5	14.5	33.9	25.8	24.2	30.6	32.3	8.1	0
常時雇用(フルタイム)(N=403)	92.6	27.5	28.3	46.7	16.6	15.9	0.7	12.7	12.7	1.7
臨時雇用・パートタイム(N=240)	61.3	32.9	35.4	27.5	20.8	8.8	0.8	25.4	22.1	3.3
派遣社員(N=20)	90.0	20.0	15.0	25.0	15.0	10.0	0	10.0	20.0	0
自営業・自由業(N=88)	68.2	12.5	21.6	36.4	21.6	11.4	33.0	18.2	13.6	5.7
家族従事者(N=32)	50.0	12.5	9.4	21.9	3.1	0	78.1	6.3	0	3.1
内職・その他(N=8)	50.0	50.0	37.5	0	0	12.5	0	50.0	25.0	12.5
全体(N=853)	77.5	25.4	27.7	37.4	18.3	13.2	9.1	18.3	14.9	2.6

(%)

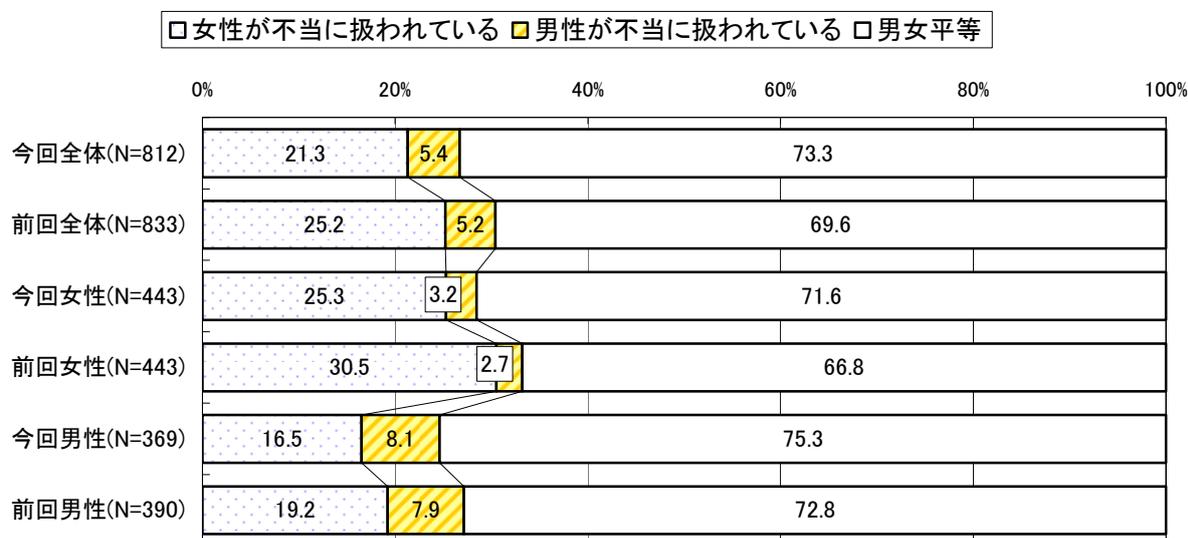
勤務形態別で見ると、常時雇用（フルタイム）と派遣社員は「生計を維持するため」を選択した人が9割を超えている一方で、「働くことが楽しいから」を選択した人は、家族従事者を除く他の雇用形態の人に比べて少なくなっている。

問 28 問 24 の「あなた自身」の欄で、1 から 7 を選んだ方におたずねします。あなたの今の職場では、女性と男性は、どのような扱いをされていると思いますか。次の 1 から 3 までの中から 1 つだけ 選んで○をつけてください。

【全体・性別】



【前回調査との比較】



有職者に、職場における女性や男性に対する不当な扱いについて尋ねている。「女性も男性も、平等に扱われていると思う」人が 73.3%と最も多く（女性 71.6%、男性 75.3%）、前回調査 69.6%（女性 66.8%、男性 72.8%）よりも高い割合となっている。「女性は、男性に比べて不当な扱いをされていると思う」人は、男性よりも女性に多い（女性 25.3%>男性 16.5%）が、前回調査（女性 30.5%、男性 19.2%）よりも低い割合となっている。

【性別×年代別】

		職場での男女の扱い		
		女性は、男性に比べて 不当な扱いをされていると思う	男性は、女性に比べて 不当な扱いをされていると思う	女性も男性も、 平等に扱われていると思う
女性	20代(N=51)	21.6	5.9	72.5
	30代(N=84)	27.4	3.6	69.0
	40代(N=122)	25.4	4.9	69.7
	50代(N=101)	27.7	1.0	71.3
	60代(N=65)	20.0	1.5	78.5
	70代(N=18)	27.8	0	72.2
	80歳以上(N=0)	0	0	0
	全体(N=441)	25.2	3.2	71.7
男性	20代(N=30)	13.3	16.7	70.0
	30代(N=81)	17.3	12.3	70.4
	40代(N=80)	17.5	8.8	73.8
	50代(N=84)	19.0	7.1	73.8
	60代(N=75)	13.3	2.7	84.0
	70代(N=16)	18.8	0	81.3
	80歳以上(N=2)	0	0	100.0
	全体(N=368)	16.6	8.2	75.3

(%)

性別・年代別で見ると、女性はすべての年代で、「女性は、男性に比べて不当な扱いをされていると思う」人が「男性は、女性に比べて不当な扱いをされていると思う」人を上回っているが、男性においては、20歳代でのみ、「男性は、女性に比べて不当な扱いをされていると思う」人の方が多くなっている。

【勤務形態別】

	職場での男女の扱い		
	女性は、男性に比べて 不当な扱いをされていると思う	男性は、女性に比べて 不当な扱いをされていると思う	女性も男性も、 平等に扱われていると思う
経営者・役員(N=59)	11.9	1.7	86.4
常時雇用(フルタイム)(N=404)	23.5	7.9	68.6
臨時雇用・パートタイム(N=226)	23.0	3.1	73.9
派遣社員(N=19)	21.1	5.3	73.7
自営業・自由業(N=76)	17.1	2.6	80.3
家族従事者(N=31)	12.9	3.2	83.9
内職・その他(N=8)	12.5	0	87.5
全体(N=823)	21.4	5.3	73.3

n. s. (%)

本人の勤務形態別で見ると、常時雇用（フルタイム）で女性が不当な扱いをされていると考える人が多く（23.5%）、男女平等と考える人が少なくなっている（68.6%）。

【職業別】

	職場での男女の扱い		
	女性は、男性に比べて 不当な扱いをされていると思う	男性は、女性に比べて 不当な扱いをされていると思う	女性も男性も、 平等に扱われていると思う
管理的職業従事者(N=64)	10.9	3.1	85.9
専門的・技術的職業従事者(N=219)	12.8	7.3	79.9
事務従事者(N=185)	31.9	4.3	63.8
販売従事者(N=75)	22.7	2.7	74.7
サービス職業従事者(N=78)	23.1	2.6	74.4
保安職業従事者(N=9)	22.2	11.1	66.7
農林漁業従事者(N=20)	20.0	0	80.0
生産工程従事者(N=57)	26.3	17.5	56.1
輸送・機械運転従事者(N=18)	16.7	5.6	77.8
建設・採掘従事者(N=21)	33.3	4.8	61.9
運搬・清掃・包装等従事者(N=22)	18.2	4.5	77.3
その他(N=44)	22.7	0	77.3
全体(N=812)	21.4	5.4	73.2

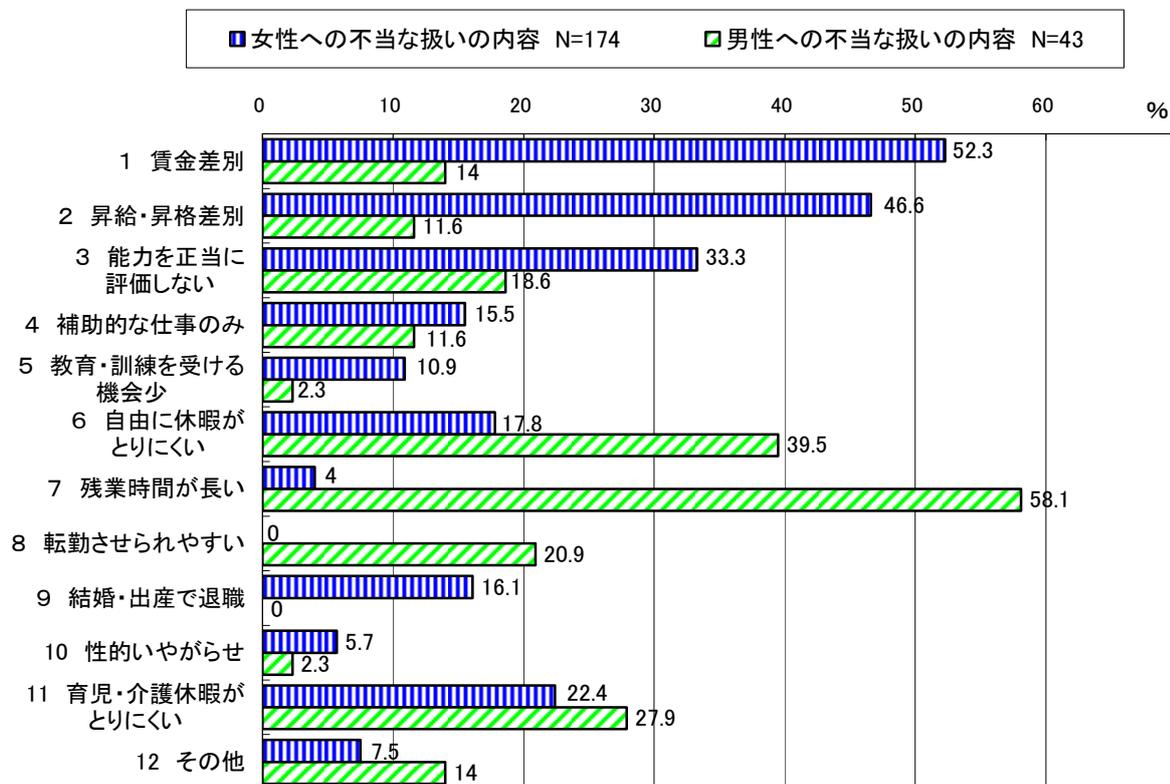
p<0.01

(%)

本人職業別でみると、事務従事者と建設・採掘従事者において、女性が不当な扱いをされていると考える人が多く、管理的職業従事者の人に男女平等と考える人が多くなっている（85.9%）。

問 29 問 28 で 1 または 2 を選んだ方におたずねします。不当な扱いの具体的な内容はどのようなことですか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

不当な扱いの内容



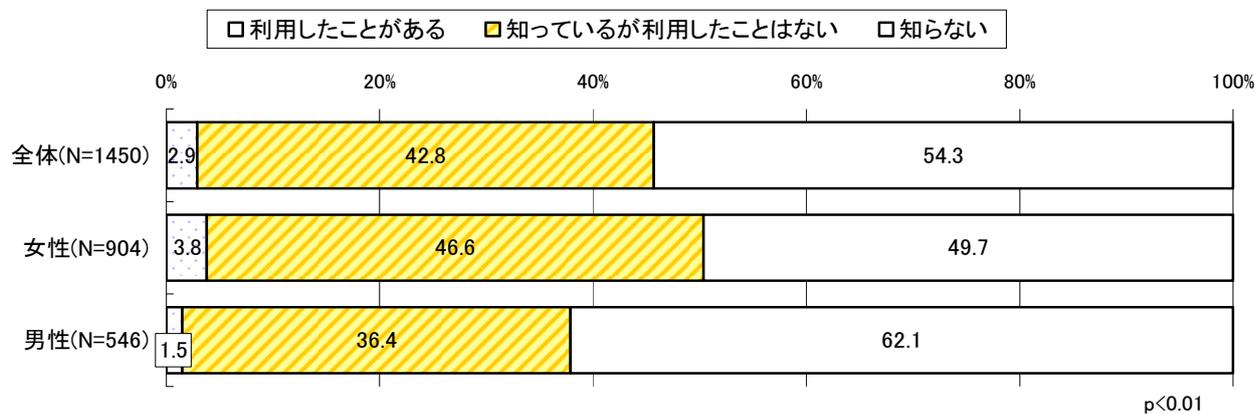
問 28 で不当な扱いをされていると思うと答えた人に、その具体的な内容を尋ねている。「女性は、男性に比べて不当な扱いをされていると思う」と答えた 174 人の回答結果をみると、回答数の多いものから順に、「賃金に差別がある」(52.3%)、「昇給・昇格に差別がある」(46.6%)、「能力を正當に評価しない」(33.3%)、「育児・介護に関する休暇がとりにくい」(22.4%)、「自由に休暇がとりにくい」(17.8%)、「結婚したり子どもが生まれたりすると退職しなければならない」(16.1%)、「補助的な仕事しかさせてもらえない」(15.5%)となる(15%未満は省略)。賃金・昇格・能力評価が、不当な扱いの上位となっていることになる。

一方、「男性は、女性に比べて不当な扱いをされていると思う」と回答した人は 43 人と少ないが、その具体的な内容としては、「残業時間が長い」(58.1%)、「自由に休暇をとりにくい」(39.5%)、「育児・介護に関する休暇がとりにくい」(27.9%)、「転勤させられやすい」(20.9%)となっている。

X II 男女共同参画の推進について

問 30 あなたは、「さんかく岡山*」を知っていますか。また利用したことがありますか。
あてはまるものを1つだけ選んで数字に○をつけてください。

さんかく岡山の利用状況



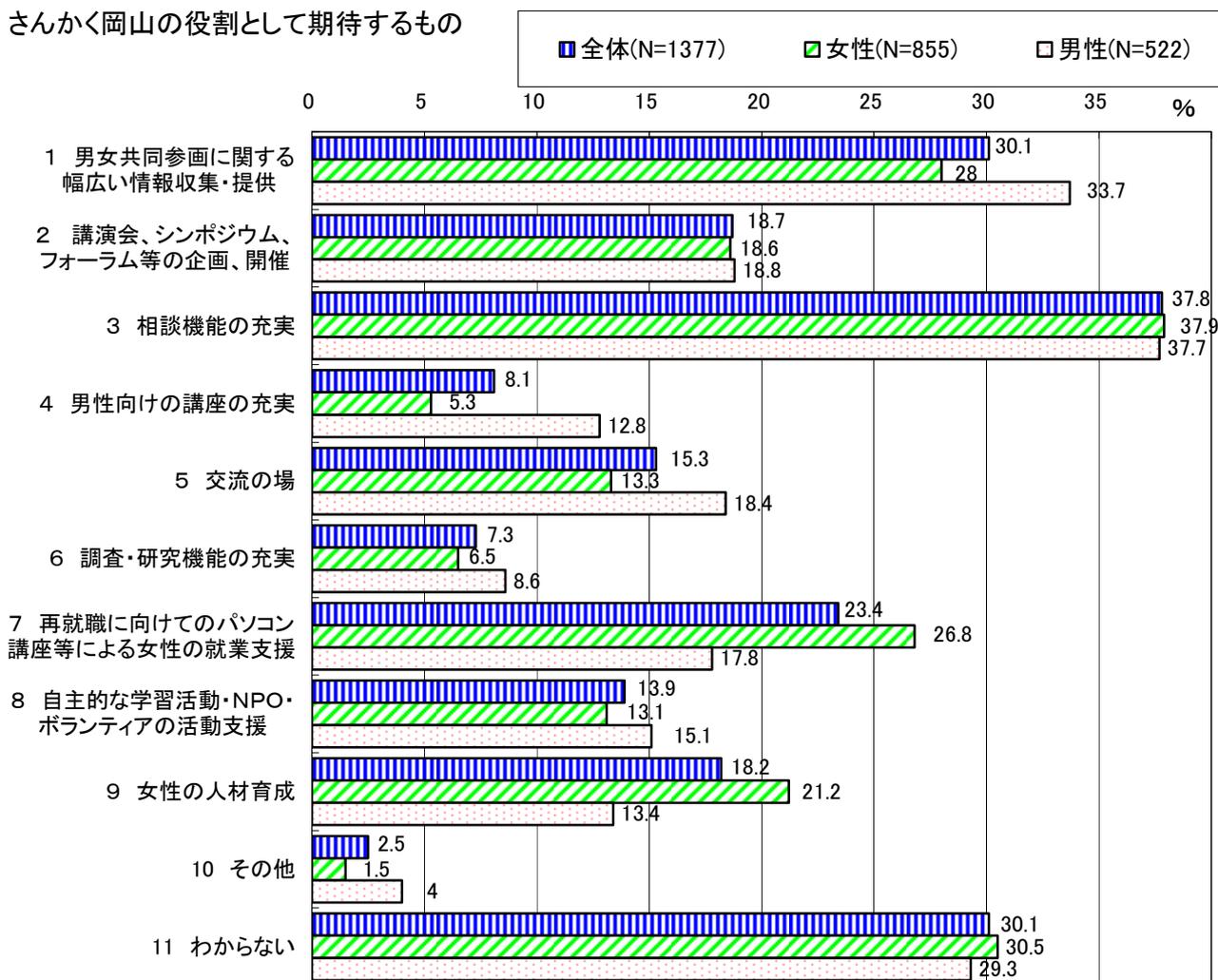
さんかく岡山の知名度・利用度について尋ねている。「知らない」が 54.3%（女性 49.7%、男性 62.1%）と最も多い。

「利用したことがある」は 2.9%（女性 3.8%、男性 1.5%）、「あるのは知っているが利用したことはない」は 42.8%（女性 46.6%、男性 36.4%）となっており、男性に比べて女性の認知度が高い。

問 31 あなたは、「さんかく岡山」にどのような役割を期待しますか。

次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

さんかく岡山の役割として期待するもの

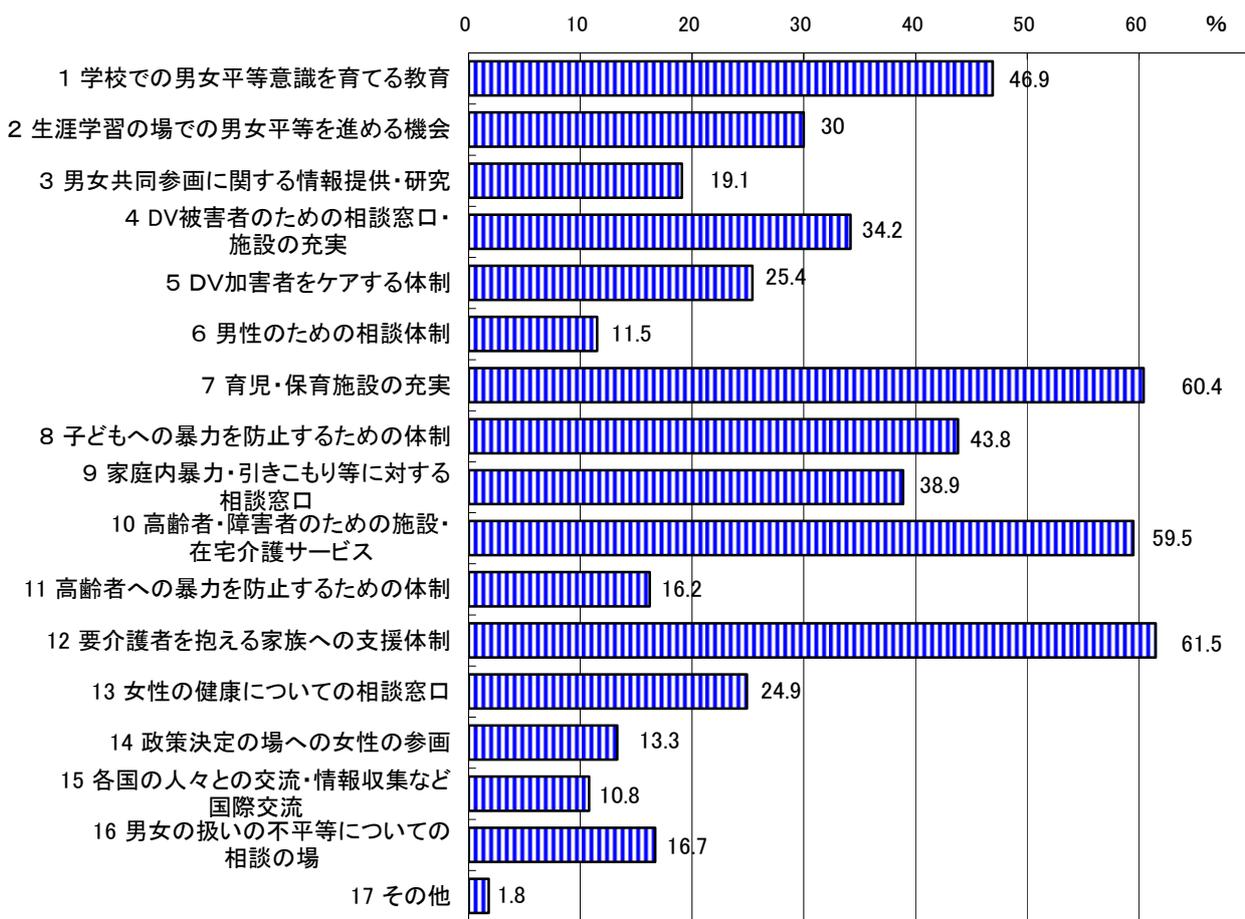


「さんかく岡山」の役割として期待するものとして、多いものから順に、「相談機能の充実」(37.8%)、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」(30.1%)、「再就職に向けてのパソコン講座等による女性の就業支援」(23.4%)、「講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画、開催」(18.7%)、「女性の人材育成」(18.2%)となっている。

問 32 岡山市では、性別にかかわらず、あらゆる人々が、共に自立し責任も分かち合い、豊かで安心して暮らせる男女共同参画社会の実現を目指しています。今後、男女共同参画を推進するうえで、あなたが必要だと思うものを次の中から選んで数字に○をつけてください。
(○はいくつでも)

岡山市に必要なこと

N=1446



男女共同参画を推進するうえで岡山市に必要なことを尋ねている。

全体で見ると、回答の割合が多かったものから順に、「要介護者を抱える家族への支援体制を充実する」(61.5%)、「育児・保育施設などを充実する」(60.4%)、「高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する」(59.5%)となる。おおむね介護・育児に関わる事項に対する関心が高くなっている。

次に、「学校で男女平等意識を育てる教育を充実する」(46.9%)、「子どもへの暴力を防止するための体制を充実する」(43.8%)、「家庭内暴力や引きこもりなどに対する相談窓口を充実する」(38.9%)、「配偶者等からの暴力(DV)の被害者のための相談窓口や施設を充実する」(34.2%)、「生涯学習の場において、男女平等を進める機会を充実する」(30.0%)、「配偶者等からの暴力(DV)の加害者をケアする体制を充実する」(25.4%)、「妊娠・出産に限らず、女性の健康についての相談窓口を充実する」(24.9%)など、教育・情報提供への関心や相談機能の充実を求める声が高い。

